

五城目町 町民まちづくり
アンケート調査

集計結果報告書

令和3年6月
秋田県 五城目町

目 次

I	調査概要	1
1	調査の目的と実施概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	実施概要	1
(3)	配付・回収状況	2
2	集計結果を読む際の留意事項	2
II	調査結果①（一般住民）	3
1	あなた自身のことについて	3
(1)	性別	3
(2)	年齢	4
(3)	居住地域	5
(4)	在住期間	6
(5)	職業	7
(6)	通勤・通学先	8
2	幸福度（幸福感）について	10
(1)	住民の幸福感	10
(2)	住民の幸福度の判断に重視した点	12
(3)	自身にとって特に大事だと思う分野	15
(参考)	属性による幸福度（幸福感）の分布状況	17
3	五城目町の暮らしについて	19
(1)	五城目町の印象	19
(2)	五城目町の暮らしやすさ	21
(3)	五城目町が暮らしにくい理由	22
(4)	普段の暮らしで感じることや取り組んでいること	23
4	五城目町の取り組みについて	26
(1)	生活基盤・環境の向上	26
(2)	地場産業の振興	32
(3)	保健・福祉・医療サービスの充実	35
(4)	教育環境の充実	39
(5)	行財政運営・まちづくりの推進	42

5	生活基盤・生活環境について	45
	(1) 町内の生活基盤について	45
	(2) 災害に対する備えについて	47
	(3) 居住地域周辺の「空き家」の動向について	48
6	産業振興について	49
	(1) 「農業振興」について重点を置くべき方策	49
	(2) 「林業振興」について重点を置くべき方策	51
	(3) 「観光振興」について重点を置くべき方策	53
	(4) 「商工業振興」について重点を置くべき方策	55
7	保健・福祉・医療について	57
	(1) 「健康づくり」について重点を置くべき方策	57
	(2) 「医療環境向上」について重点を置くべき方策	59
	(3) 「高齢者」や「障がいのある方」への支援について重点を置くべき方策	61
	(4) 「少子化対策」について重点を置くべき方策	63
8	教育・文化・スポーツについて	65
	(1) 「学校教育」について重点を置くべき方策	65
	(2) 「生涯学習活動」について重点を置くべき方策	67
9	行財政運営について	69
	(1) 町の行政サービスについて	69
	(2) 行財政改革について期待する改革	70
	(3) 町の行政サービスと町民の負担について	72
10	協働のまちづくりの推進について	73
	(1) 「協働のまちづくり」について重点を置くべき方策	73
	(2) 自主的な町民活動の活性化について	75
11	地方創生の推進について	77
12	新型コロナウイルス対策について	80

I 調査概要

1 調査の目的と実施概要

(1) 調査の目的

五城目町総合計画の策定に向けたまちづくりアンケート調査(以下、「本調査」とします。)は、五城目町総合計画の策定にあたり、住民の皆様の意見、要望やまちづくりに対する意向について、率直な意見をうかがい、五城目町の将来像やまちづくりの方向性などを検討する際の基礎資料として活用させていただくことを目的として実施しました。

(2) 実施概要

各調査の対象及び調査概要は、以下のとおりとなっています。

《 調 査 概 要 》

- 調査対象：町内にお住まいの満18歳以上の方
- 抽出方法：2,000名を住民基本台帳から等間隔無作為抽出
- 調査内容：住民意識・町政全般に関すること
 1. あなた自身のことについて
 2. 幸福度（幸福感）について
 3. 五城目町での暮らしについて
 4. 五城目町の取り組みの満足度・重要度について
 5. 生活基盤・生活環境について
 6. 産業振興について
 7. 保険・福祉・医療について
 8. 教育・文化・スポーツについて
 9. 行財政運営について
 10. 協働のまちづくりの推進について
 11. 地方創生の推進について
 12. 新型コロナウイルス対策について
 13. これからのまちづくりへの意見・提案について
- 調査期間：令和3年（2021年）4月
- 調査方法：郵送配付・回収

(3) 配付・回収状況

各調査の配付・回収状況は、以下のとおりとなっています。

対 象	配付数	回収数	回収率
まちづくりアンケート	2,000 票	816 票	40.8%

2 集計結果を読む際の留意事項

この調査の集計結果を読む際の留意事項は以下のとおりです。

《 留 意 事 項 》

- 調査結果の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で示しています。
- 調査結果の図表に示す「n」は「Number of case」の略で、構成比算出の母数、つまり、当該設問の回答者数（限定設問においては該当者数）を示しています。
- 設問には、当該設問に回答した人のみが答える「限定設問」があり、この場合の「n」（該当者数）は回答者数全数より少ない場合があります。
- 図表の構成比（百分率）は、回答者数（限定設問においては該当者数）を 100%として算出しており、本文及び図表の構成比（百分率）は小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記しています。
(※四捨五入のため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても各比率の合計が 100.0%とならない場合があります。)
- 複数回答の設問では、各比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中の「0.0」、「-」は、四捨五入の結果、または回答者が皆無であることを示しています。
- 特定の項目（属性・設問）と該当設問との相互関係を明らかにする分析結果（クロス集計）においては、縦軸の「無回答」は表示していないため、回答全体の合計（母数）と合致しない場合があります。
- 単純集計、クロス集計ともに、抽出された構成比の母数（属性・設問毎の回答者数）が極端に少数となる場合、各比率は統計的な誤差の大きい可能性があるため、比率の取り扱いに注意する必要があります。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中及び図表中で省略した表現を用いている場合があります。

Ⅱ 調査結果①（一般住民）

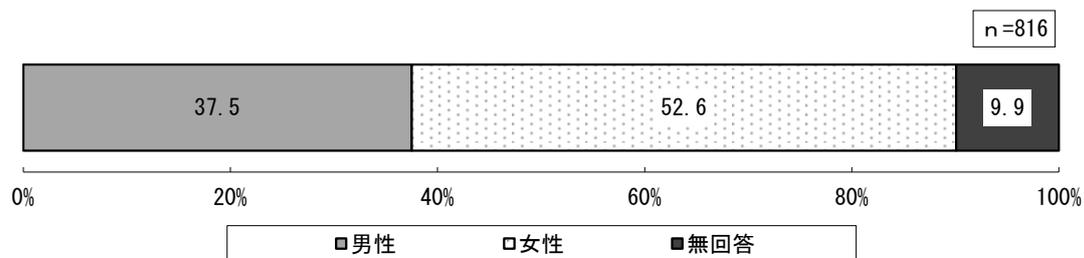
1 あなた自身のことについて

問 あなたのことについて記入してください。
【それぞれの項目であてはまるもの1つに○】

（1）性別

○ 回答者の性別は、「男性」が37.5%、「女性」が52.6%となっています。

図表 性別

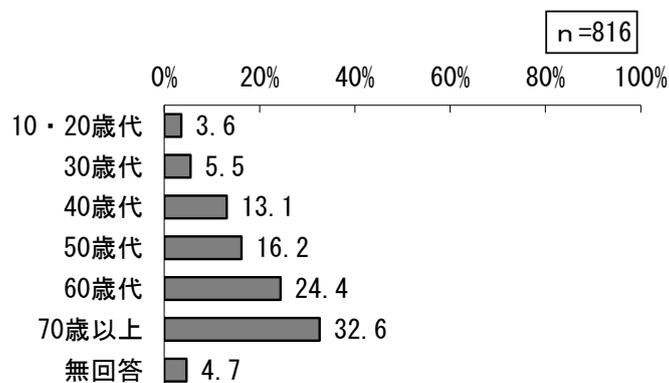


	(n=816)	
	回答数	構成比
1 男性	306	37.5%
2 女性	429	52.6%
無回答	81	9.9%

(2) 年齢

- 回答者の年齢は、「70 歳以上」が 32.6%と最も多くなっています。次いで「60 歳代」が 24.4%、「50 歳代」が 16.2%となっており、「60 歳代」以上が 57.0%を占めています。

図表 年齢



図表 年齢

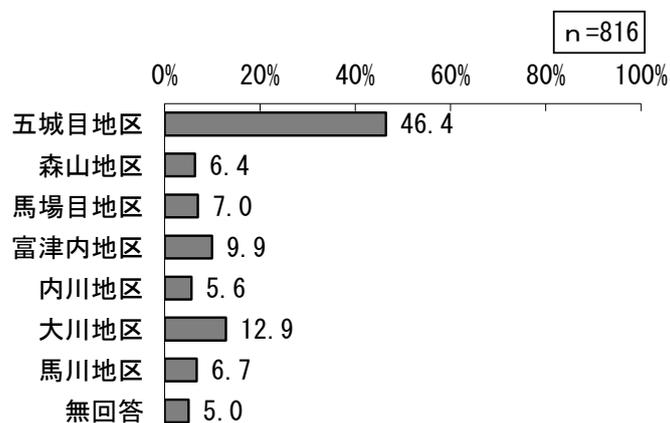
(n=816)

	回答数	構成比
1 10・20 歳代	29	3.6%
2 30 歳代	45	5.5%
3 40 歳代	107	13.1%
4 50 歳代	132	16.2%
5 60 歳代	199	24.4%
6 70 歳以上	266	32.6%
無回答	38	4.7%

(3) 居住地域

- 居住地域は、「五城目地区」が 46.4%と最も多くなっています。次いで「大川地区」が 12.9%、「富津内地区」が 9.9%となっています。

図表 居住地域



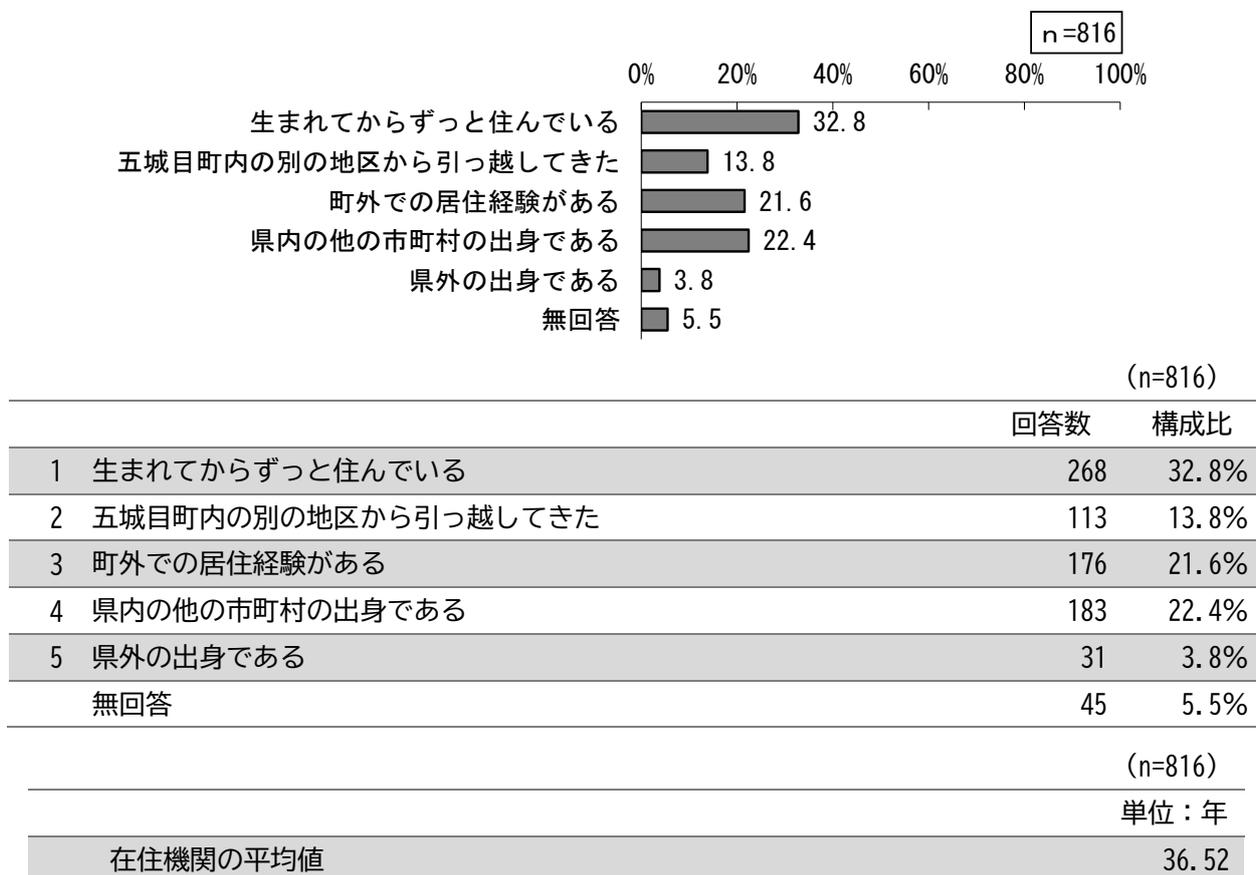
(n=816)

	回答数	構成比
1 五城目地区	379	46.4%
2 森山地区	52	6.4%
3 馬場目地区	57	7.0%
4 富津内地区	81	9.9%
5 内川地区	46	5.6%
6 大川地区	105	12.9%
7 馬川地区	55	6.7%
無回答	41	5.0%

(4) 在住期間

- 在住期間は、「生まれてからずっと住んでいる」が 32.8%と最も多くなっています。次いで「県内の他の市町村の出身である」が 22.4%、「町外での居住経験がある」が 21.6%となっています。

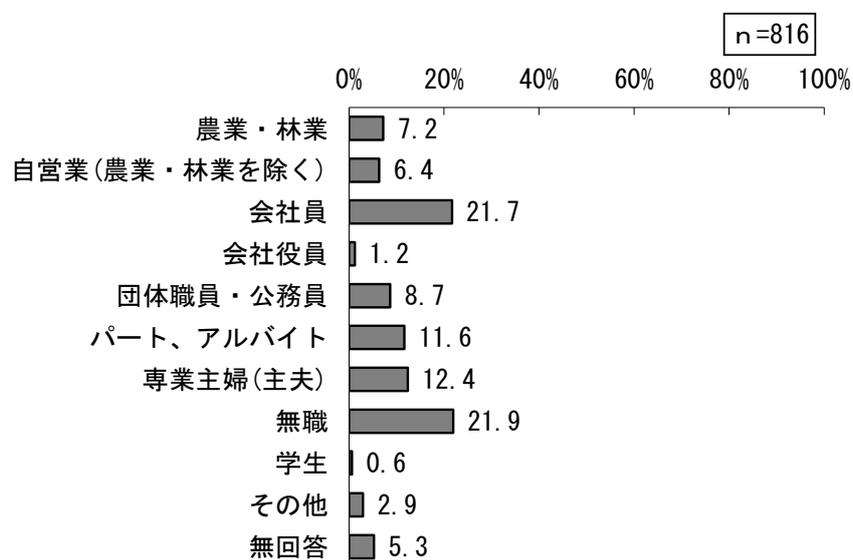
図表 在住期間



(5) 職業

- 職業は、「無職」が 21.9%と最も多くなっています。次いで「会社員」が 21.7%、「専業主婦(主夫)」が 12.4%となっています。

図表 職業



(n=816)

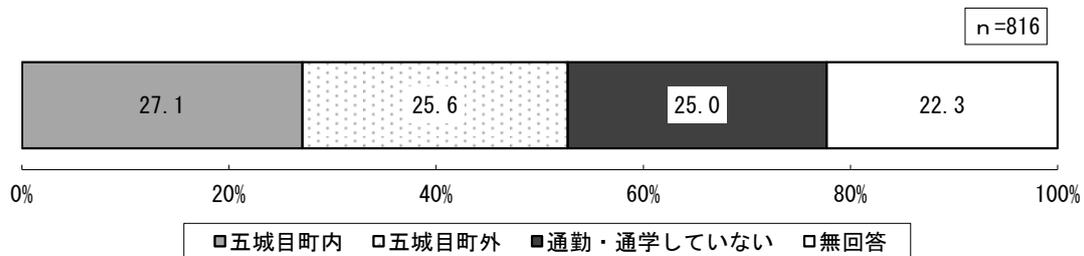
	回答数	構成比
1 農業・林業	59	7.2%
2 自営業(農業・林業を除く)	52	6.4%
3 会社員	177	21.7%
4 会社役員	10	1.2%
5 団体職員・公務員	71	8.7%
6 パート、アルバイト	95	11.6%
7 専業主婦(主夫)	101	12.4%
8 無職	179	21.9%
9 学生	5	0.6%
10 その他	24	2.9%
無回答	43	5.3%

(6) 通勤・通学先

① 町内外

- 通勤・通学先は、「五城目町内」が 27.1%と最も多くなっています。次いで「五城目町外」が 25.6%、「通勤・通学していない」が 25.0%となっています。

図表 通勤・通学先（町内外）



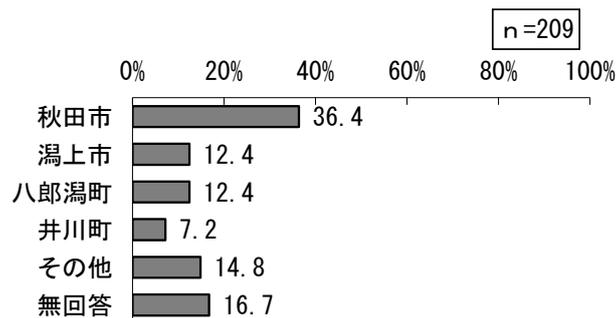
(n=816)

	回答数	構成比
1 五城目町内	221	27.1%
2 五城目町外	209	25.6%
3 通勤・通学していない	204	25.0%
無回答	182	22.3%

② 町外の内訳

- 通勤・通学先が五城目町外の場合の内訳は、「秋田市」が 36.4%と最も多くなっています。次いで「その他」が 14.8%、「潟上市」「八郎潟町」が 12.4%となっています。

図表 町外の内訳



(n=209)

	回答数	構成比
1 秋田市	76	36.4%
2 潟上市	26	12.4%
3 八郎潟町	26	12.4%
4 井川町	15	7.2%
5 その他	31	14.8%
無回答	35	16.7%

○ 「その他」(n=31)と回答した方の内訳は以下の通りです。

五城目町外（その他）の内訳	回答数
井川町	1
三種町	2
鹿角市	1
森岳	1
全県	1
大潟村	10
大館市	1
大館市、盛岡市	1
大仙市	1
男鹿市	5
男鹿南秋秋田市一円	1
藤里町	1
能代市	3
八峰町	1
北秋田市	1
合計	31

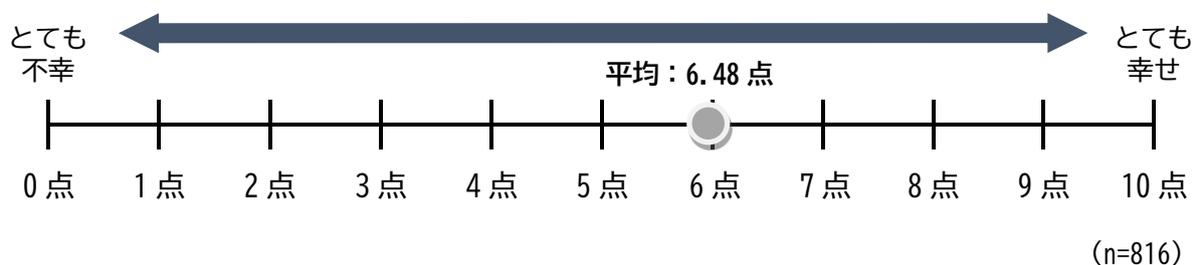
2 幸福度（幸福感）について

(1) 住民の幸福感

問 現在、あなたはどの程度幸せと感じていますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。【1つに○】

- 住民の幸福度（幸福感）は、平均で6.48点となっています。
- 点数別では「5点」が21.9%と最も多く、次いで「8点」が18.9%、「7点」が18.1%となっており、平均値（6.48点）に回答が集中しているのではなく、5～8点の範囲に分布しています。

図表 住民の幸福度（幸福感）（10段階）

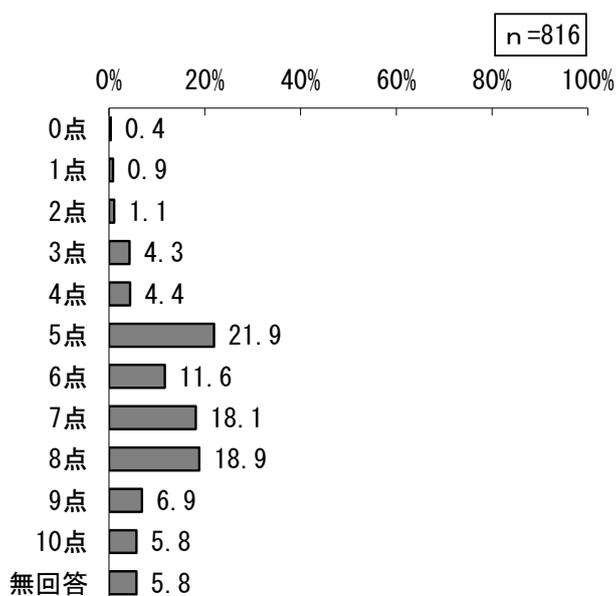


単位: 点

幸福度（幸福感）の平均値

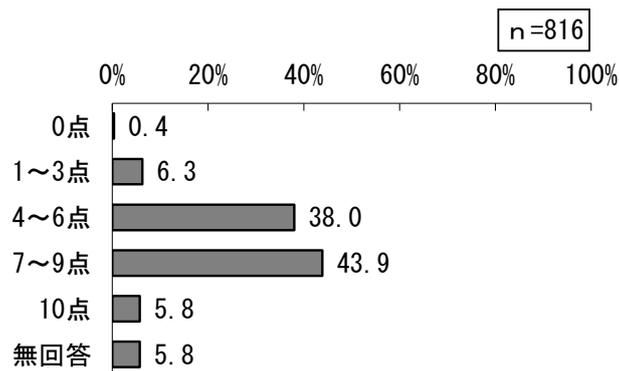
6.48

図表 住民の幸福度（幸福感）（10段階）



			(n=816)	
			回答数	構成比
1	0点		3	0.4%
2	1点		7	0.9%
3	2点		9	1.1%
4	3点		35	4.3%
5	4点		36	4.4%
6	5点		179	21.9%
7	6点		95	11.6%
8	7点		148	18.1%
9	8点		154	18.9%
10	9点		56	6.9%
11	10点		47	5.8%
	無回答		47	5.8%

図表 住民の幸福度（幸福感）（大分類）



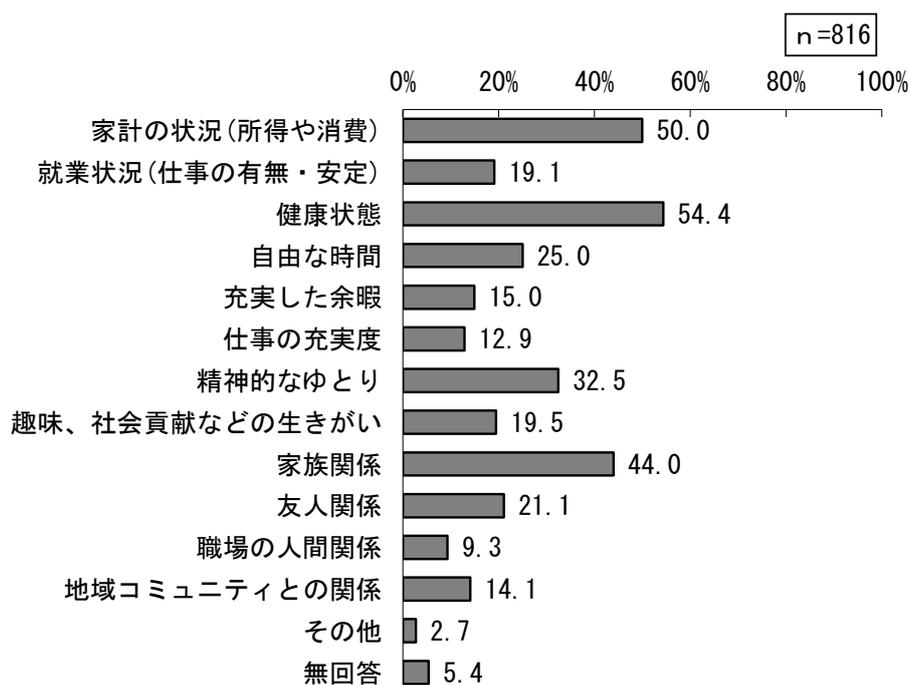
			(n=816)	
			回答数	構成比
1	0点		3	0.4%
2	1~3点		51	6.3%
3	4~6点		310	38.0%
4	7~9点		358	43.9%
5	10点		47	5.8%
	無回答		47	5.8%

(2) 住民の幸福度の判断に重視した点

問 前問の幸福度(0~10点)を判断する際に、重視したことは何ですか。
【あてはまるものすべてに○】

- 幸福度(幸福感)を判断する際に重視した点は、「健康状態」が54.4%と最も多くなっています。次いで「家計の状況(所得や消費)」(50.0%)、「家族関係」(44.0%)を上位に挙げています。

図表 幸福度(幸福感)の判断に重視した点



(n=816)

	回答数	構成比
1 家計の状況(所得や消費)	408	50.0%
2 就業状況(仕事の有無・安定)	156	19.1%
3 健康状態	444	54.4%
4 自由な時間	204	25.0%
5 充実した余暇	122	15.0%
6 仕事の充実度	105	12.9%
7 精神的なゆとり	265	32.5%
8 趣味、社会貢献などの生きがい	159	19.5%
9 家族関係	359	44.0%
10 友人関係	172	21.1%
11 職場の人間関係	76	9.3%
12 地域コミュニティとの関係	115	14.1%
13 その他	22	2.7%
無回答	44	5.4%

- 幸福度（幸福感）を判断する際に重視した点を性別・年齢別にみると、「健康状態」、「家計の状況(所得や消費)」がおおむね上位に挙がっています。
- 一方で 10～40 歳代では「就業状況(仕事の有無・安定)」、50 歳代では「家族関係」を上位に挙げるなど、年齢の変化によって、幸福度（幸福感）を判断する際に重視する点には、異なる点もみられます。

図表 幸福度を判断する際に重視した点（性別・年齢別：上位3項目）

	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	健康状態 52.6%	家計の状況(所得や消費) 52.3%	家族関係 45.4%
女性 (n=429)	健康状態 60.4%	家計の状況(所得や消費) 52.2%	家族関係 48.0%
10・20 歳代 (n=29)	家計の状況(所得や消費) 31.0%	就業状況(仕事の有無・安定) 24.1%	健康状態 31.0%
30 歳代 (n=45)	家計の状況(所得や消費) 66.7%	就業状況(仕事の有無・安定) 44.4%	健康状態 35.6%
40 歳代 (n=107)	家計の状況(所得や消費) 54.2%	就業状況(仕事の有無・安定) 31.8%	健康状態 42.1%
50 歳代 (n=132)	家計の状況(所得や消費) 57.6%	健康状態 57.6%	家族関係 47.7%
60 歳代 (n=199)	健康状態 60.8%	家計の状況(所得や消費) 57.8%	家族関係 43.2%
70 歳以上 (n=266)	健康状態 64.7%	家族関係 44.4%	家計の状況(所得や消費) 44.0%

- 幸福度を判断する際に重視した点を点数別にみると、0点、1～3点と回答した方では、「精神的なゆとり」を上位に挙げており、これらの項目が住民の幸福度（幸福感）に影響するとみられます。

図表 幸福度（幸福感）を判断する際に重視した点（点数別：上位3項目）

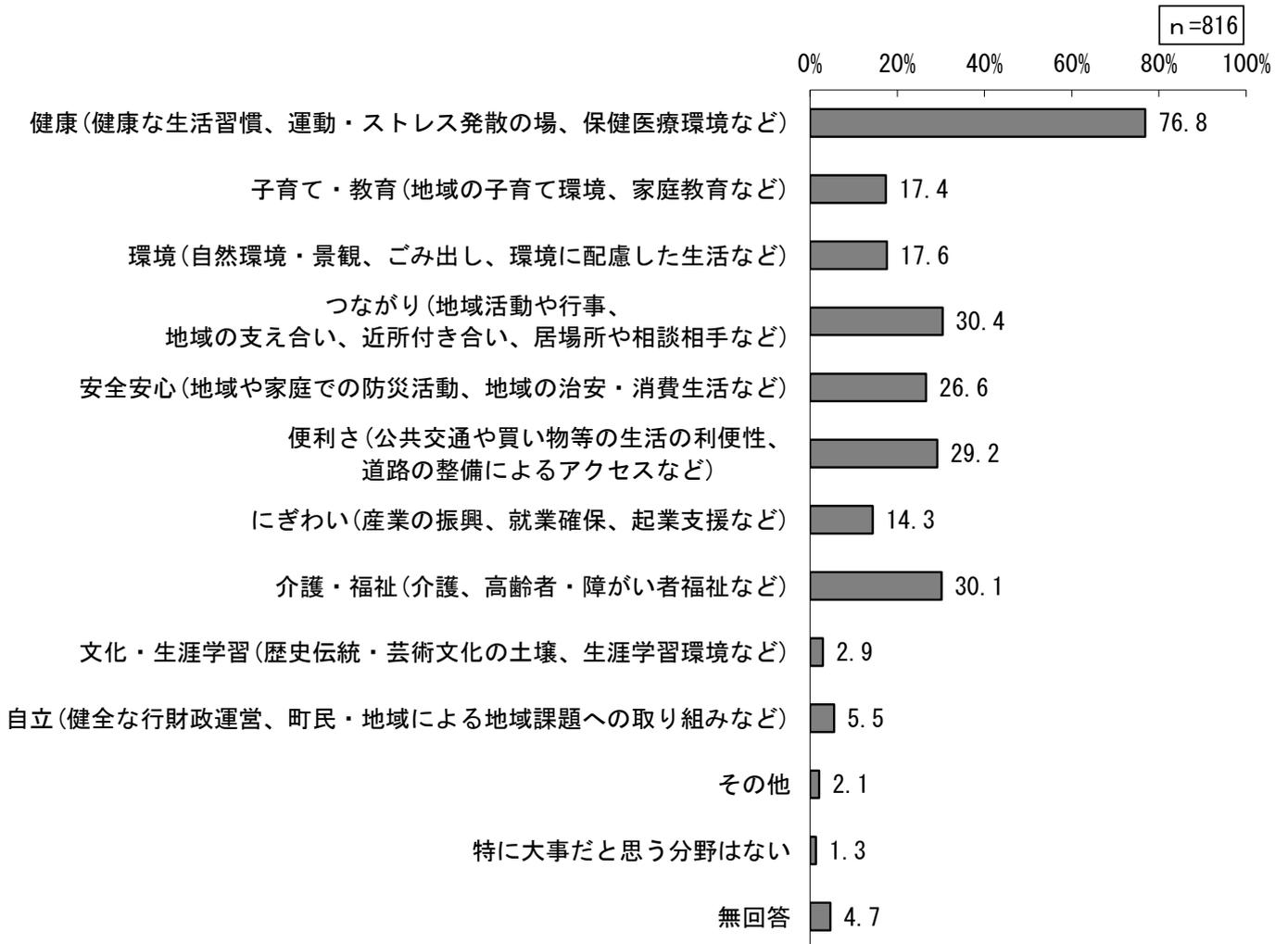
	第1位	第2位	第3位
0点 (n=3)	健康状態 66.7%	家計の状況(所得や消費)、就業状況(仕事の有無・安定)、自由な時間、仕事の充実度、精神的なゆとり、家族関係、友人関係 33.3%	
1～3点 (n=51)	家計の状況(所得や消費) 68.6%	健康状態 51.0%	精神的なゆとり 49.0%
4～6点 (n=310)	健康状態 56.1%	家計の状況(所得や消費) 52.9%	家族関係 31.6%
7～9点 (n=358)	健康状態 58.1%	家族関係 56.7%	家計の状況(所得や消費) 50.0%
10点 (n=47)	家族関係 78.7%	健康状態 55.3%	家計の状況(所得や消費) 46.8%

(3) 自身にとって特に大事だと思う分野

問 次の分野の中からあなたにとって「特に大事だと思う分野」はどれですか。
【3つまでに○】

- 自身にとって特に大事だと思う分野は、「健康(健康な生活習慣、運動・ストレス発散の場、保健医療環境など)」が 76.8%と最も多く、次いで「つながり(地域活動や行事、地域の支え合い、近所付き合い、居場所や相談相手など)」が 30.4%、「介護・福祉(介護、高齢者・障がい者福祉など)」が 30.1%となっています。

図表 自身にとって特に大事だと思う分野



(n=816)

	回答数	構成比
1 健康(健康な生活習慣、運動・ストレス発散の場、保健医療環境など)	627	76.8%
2 子育て・教育(地域の子育て環境、家庭教育など)	142	17.4%
3 環境(自然環境・景観、ごみ出し、環境に配慮した生活など)	144	17.6%
4 つながり(地域活動や行事、地域の支え合い、近所付き合い、居場所や相談相手など)	248	30.4%
5 安全安心(地域や家庭での防災活動、地域の治安・消費生活など)	217	26.6%
6 便利さ(公共交通や買い物等の生活の利便性、道路の整備によるアクセスなど)	238	29.2%
7 にぎわい(産業の振興、就業確保、起業支援など)	117	14.3%
8 介護・福祉(介護、高齢者・障がい者福祉など)	246	30.1%
9 文化・生涯学習(歴史伝統・芸術文化の土壌、生涯学習環境など)	24	2.9%
10 自立(健全な行財政運営、町民・地域による地域課題への取り組みなど)	45	5.5%
11 その他	17	2.1%
12 特に大事だと思う分野はない	11	1.3%
無回答	38	4.7%

○ 自身にとって特に大事だと思う分野を性別・年齢別にみると、各年齢で「健康」を最上位に挙げています。

○ 10・20歳代、30歳代では「子育て・教育」、30～50歳代では「便利さ」、60歳代以上では「介護・福祉」、「つながり」を上位に挙げており、年齢やライフステージにおける特徴とみられます。

図表 自身にとって特に大事だと思う分野（性別・年齢別：上位3項目）

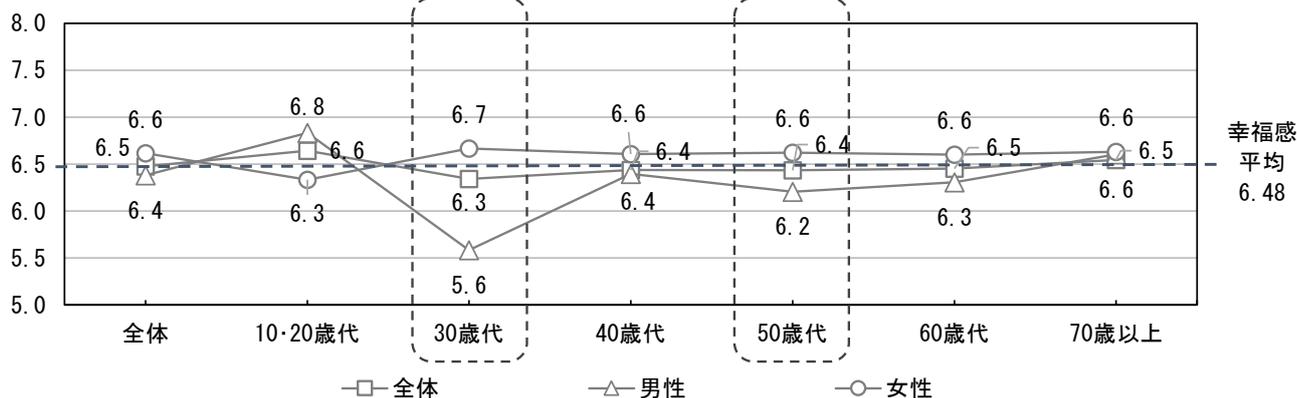
	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	健康 79.4%	つながり 32.0%	安全安心 30.1%
女性 (n=429)	健康 81.4%	介護・福祉 35.0%	便利さ 31.2%
10・20歳代 (n=29)	健康 69.0%	安全安心 41.4%	子育て・教育 34.5%
30歳代 (n=45)	健康 62.2%	子育て・教育 62.2%	便利さ 40.0%
40歳代 (n=107)	健康 66.4%	便利さ 41.1%	安全安心 37.4%
50歳代 (n=132)	健康 84.1%	便利さ 35.6%	介護・福祉 35.6%
60歳代 (n=199)	健康 86.4%	介護・福祉 36.7%	つながり 35.2%
70歳以上 (n=266)	健康 82.3%	つながり 42.5%	介護・福祉 37.2%

(参考) 属性による幸福度（幸福感）の分布状況

① 性別・年齢

- 性別・年齢別による幸福度（幸福感）を比較すると、おおむね男性よりも女性の方が幸福度（幸福感）の高くなっています。年齢別では、特に 30 歳代、50 歳代で性別による幸福度（幸福感）に差がみられます。

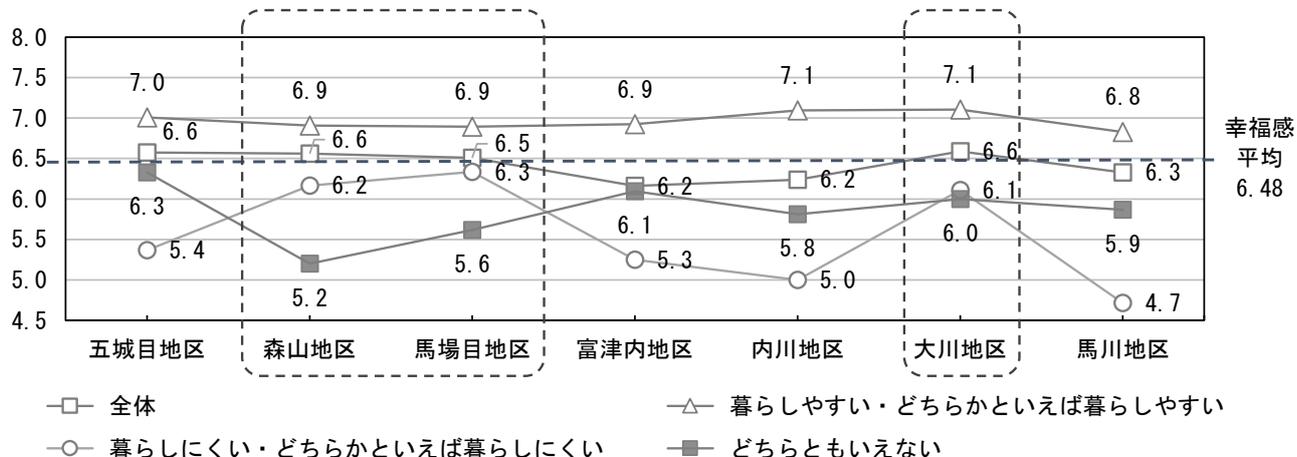
図表 性別・年齢による幸福度（幸福感）（性別・年齢別：平均値）



② 暮らしやすさ・居住地域による幸福度（幸福感）

- 暮らしやすさによる幸福度（幸福感）を居住地域別に比較すると、一般的に暮らしにくい・どちらかといえば暮らしにくいと感じている人ほど、幸福度（幸福感）が低くなる傾向がありますが、森山地区、馬場目地区ではどちらともいえない回答者の幸福度（幸福感）が相対的に低くなっているほか、大川地区では、他の地区よりも暮らしやすさによる幸福度（幸福感）による差が小さくなっています。

図表 暮らしやすさ・居住地域による幸福度（幸福感）



③ 性別・年齢による幸福度（幸福感）を判断する際に重視した点

○ 性別・年齢による幸福度（幸福感）を判断する際に重視した点は次のとおりです。

図表 性別・年齢による幸福度（幸福感）を判断する際に重視した点
（性別-年齢別：上位3位）

	第1位	第2位	第3位
男性-10・20歳代 (n=12)	友人関係 66.7%	自由な時間 58.3%	趣味、社会貢献などの 生きがい 50.0%
男性-30歳代 (n=12)	家計の状況 (所得や消費) 66.7%	就業状況 (仕事の有無・安定) 66.7%	家族関係 50.0%
男性-40歳代 (n=48)	家計の状況 (所得や消費) 47.9%	家族関係 45.8%	健康状態 37.5%
男性-50歳代 (n=59)	家計の状況 (所得や消費) 54.2%	健康状態 52.5%	家族関係 39.0%
男性-60歳代 (n=80)	家計の状況 (所得や消費) 56.3%	健康状態 53.8%	家族関係 38.8%
男性-70歳以上 (n=93)	健康状態 67.7%	家族関係 54.8%	家計の状況 (所得や消費) 52.7%
女性-10・20歳代 (n=16)	自由な時間 62.5%	家計の状況 (所得や消費) 43.8%	充実した余暇 43.8%
女性-30歳代 (n=31)	家計の状況 (所得や消費) 64.5%	家族関係 51.6%	精神的なゆとり 45.2%
女性-40歳代 (n=52)	家計の状況 (所得や消費) 61.5%	家族関係 57.7%	健康状態 46.2%
女性-50歳代 (n=69)	健康状態 62.3%	家計の状況 (所得や消費) 60.9%	家族関係 56.5%
女性-60歳代 (n=111)	健康状態 67.6%	家計の状況(所得や消費) 58.6%	家族関係 49.5%
女性-70歳以上 (n=145)	健康状態 64.8%	家族関係 40.0%	家計の状況 (所得や消費) 39.3%

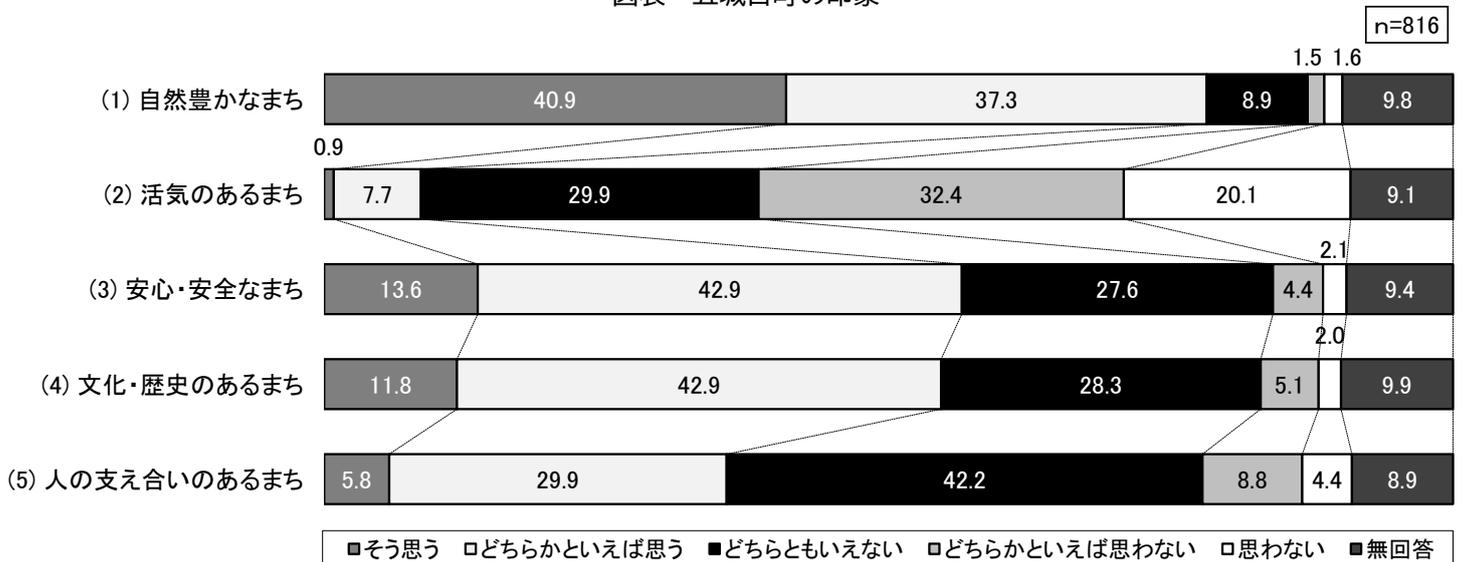
3 五城目町の暮らしについて

(1) 五城目町の印象

問 五城目町についての印象をお聞かせください。
【 それぞれの項目であてはまるもの1つに○ 】

- 「そう思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた“思う”の割合が高い項目は、「自然豊かなまち」(78.2%)、「安心・安全なまち」(56.5%)、「文化・歴史のあるまち」(54.7%)となっています。
- 「どちらかといえば思わない」と「思わない」を合わせた“思わない”の割合が高い項目は、「活気のあるまち」(52.5%)、「人の支え合いのあるまち」(13.2%)となっています。

図表 五城目町の印象



		(n=816)	
		回答数	構成比
(1) 自然豊かなまち	1 そう思う	334	40.9%
	2 どちらかといえば思う	304	37.3%
	3 どちらともいえない	73	8.9%
	4 どちらかといえば思わない	12	1.5%
	5 思わない	13	1.6%
	無回答	80	9.8%
	(2) 活気のあるまち	1 そう思う	7
2 どちらかといえば思う		63	7.7%
3 どちらともいえない		244	29.9%
4 どちらかといえば思わない		264	32.4%
5 思わない		164	20.1%
無回答		74	9.1%

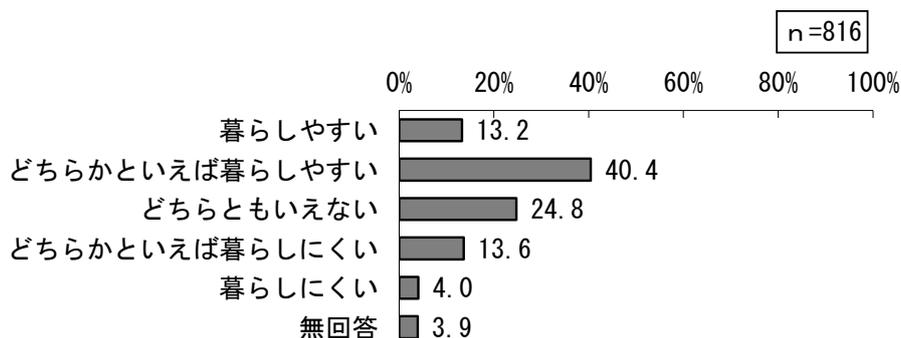
		回答数	構成比
(3) 安心・安全なまち	1 そう思う	111	13.6%
	2 どちらかといえば思う	350	42.9%
	3 どちらともいえない	225	27.6%
	4 どちらかといえば思わない	36	4.4%
	5 思わない	17	2.1%
	無回答	77	9.4%
(4) 文化・歴史のあるまち	1 そう思う	96	11.8%
	2 どちらかといえば思う	350	42.9%
	3 どちらともいえない	231	28.3%
	4 どちらかといえば思わない	42	5.1%
	5 思わない	16	2.0%
	無回答	81	9.9%
(5) 人の支え合いのあるまち	1 そう思う	47	5.8%
	2 どちらかといえば思う	244	29.9%
	3 どちらともいえない	344	42.2%
	4 どちらかといえば思わない	72	8.8%
	5 思わない	36	4.4%
	無回答	73	8.9%

(2) 五城目町の暮らしやすさ

問 あなたは、五城目町は、暮らしやすいまちであると思いますか。【1つに○】

- 五城目町の暮らしやすさは、「どちらかといえば暮らしやすい」が 40.4%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 24.8%、「どちらかといえば暮らしにくい」が 13.6%となっています。
- なお、「暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」を合わせた“暮らしやすい”と感じている割合は 53.6%、「どちらかと言えば暮らしにくい」、「暮らしにくい」を合わせた“暮らしにくい”と感じている割合は 17.6%となっています。

図表 五城目町の暮らしやすさ



	回答数	構成比
1 暮らしやすい	108	13.2%
2 どちらかといえば暮らしやすい	330	40.4%
3 どちらともいえない	202	24.8%
4 どちらかといえば暮らしにくい	111	13.6%
5 暮らしにくい	33	4.0%
無回答	32	3.9%

図表 五城目町の暮らしやすさ (性別・年齢)

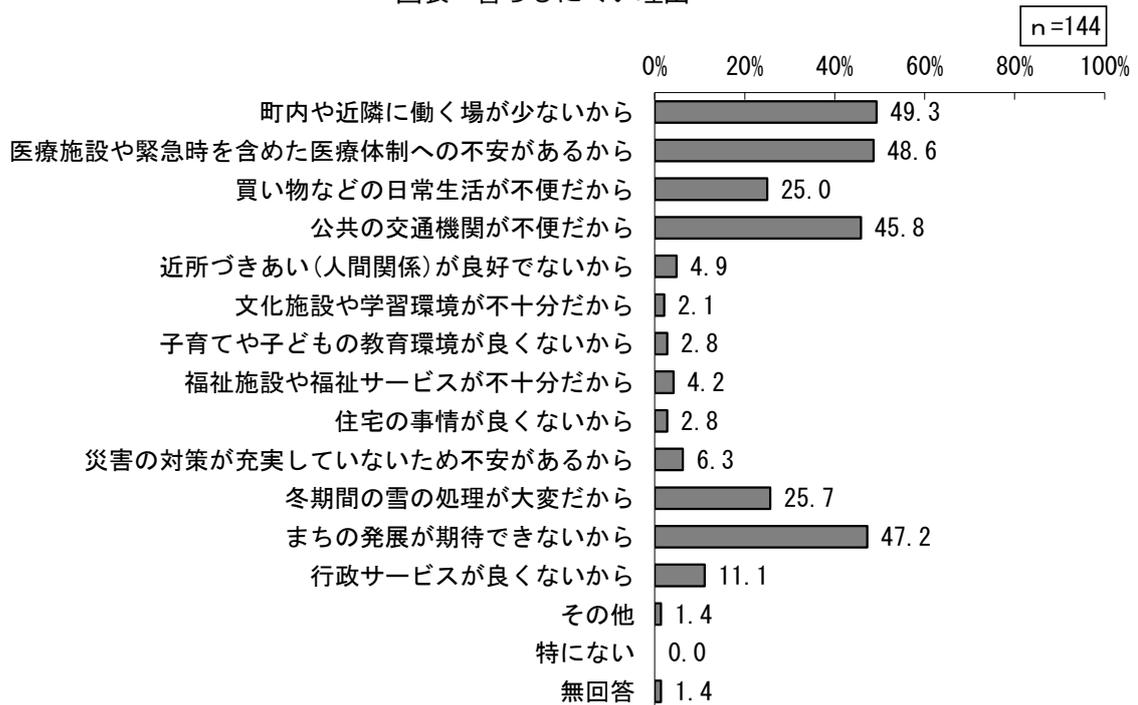
	暮らしやすい	どちらかとい えば 暮らしやすい	どちらかとい えば 暮らしにくい	暮らしにくい	無回答
男性(n=306)	12.1%	43.1%	24.8%	12.4%	3.9%
女性(n=429)	14.5%	39.9%	24.9%	12.4%	4.2%
10・20 歳代(n=29)	20.7%	48.3%	13.8%	10.3%	6.9%
30 歳代(n=45)	15.6%	35.6%	15.6%	15.6%	8.9%
40 歳代(n=107)	17.8%	34.6%	28.0%	9.3%	6.5%
50 歳代(n=132)	12.1%	40.9%	28.0%	13.6%	3.8%
60 歳代(n=199)	10.6%	43.2%	23.6%	15.1%	3.0%
70 歳以上(n=266)	13.2%	40.6%	26.3%	13.5%	3.0%

(3) 五城目町が暮らしにくい理由

問 前問で「どちらかといえば暮らしにくい」「暮らしにくい」と答えた方におたずねします。あなたが、そう思う主な理由はなんですか。【3つまで○】

○ 前問で五城目町が暮らしにくいと回答した方(n=144)の暮らしにくいと思う理由は、「町内や近隣に働く場が少ないから」が49.3%と最も多くなっています。次いで「医療施設や緊急時を含めた医療体制への不安があるから」が48.6%、「まちの発展が期待できないから」が47.2%となっています。

図表 暮らしにくい理由



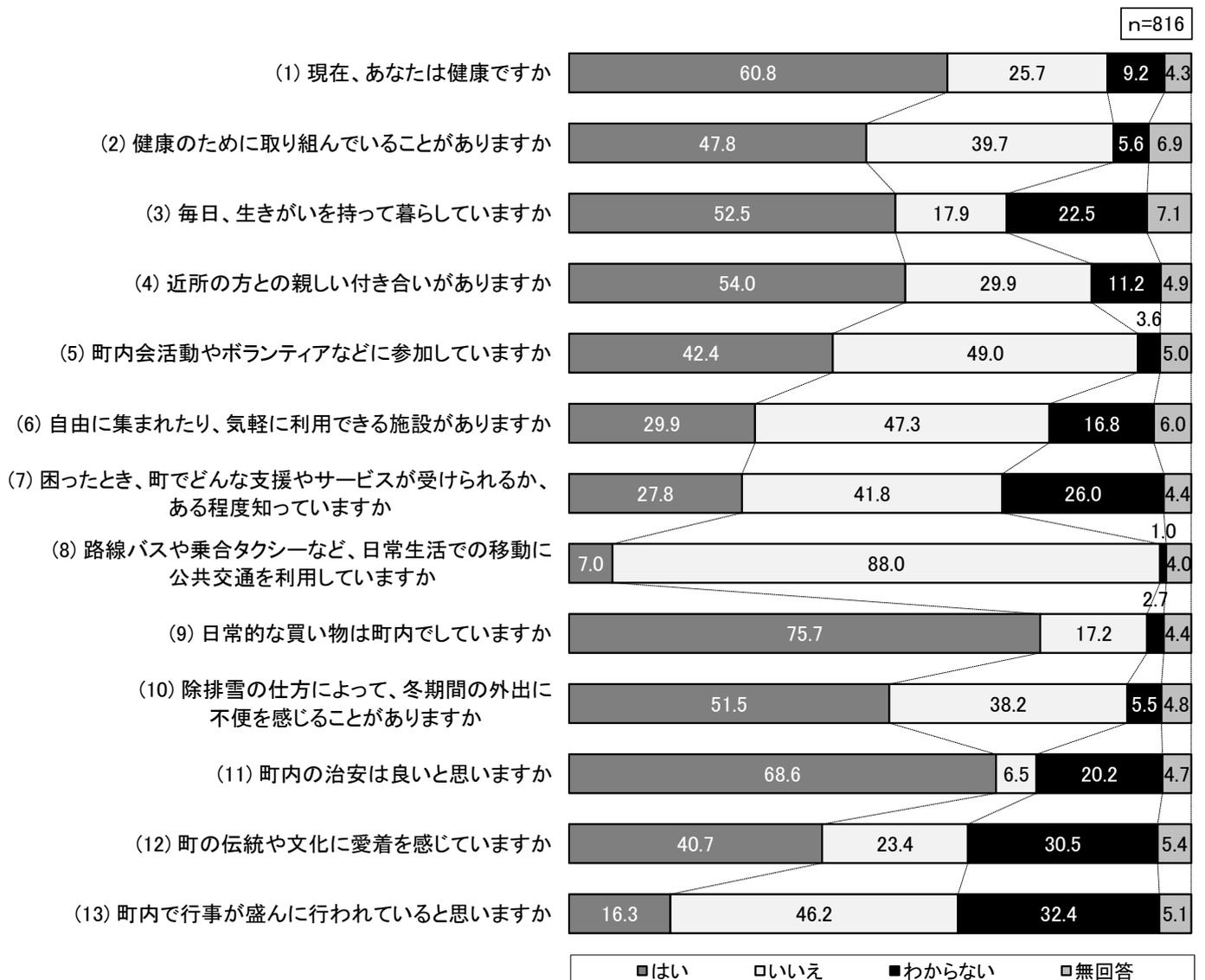
	回答数	構成比
1 町内や近隣に働く場が少ないから	71	49.3%
2 医療施設や緊急時を含めた医療体制への不安があるから	70	48.6%
3 買い物などの日常生活が不便だから	36	25.0%
4 公共の交通機関が不便だから	66	45.8%
5 近所づきあい(人間関係)が良好でないから	7	4.9%
6 文化施設や学習環境が不十分だから	3	2.1%
7 子育てや子どもの教育環境が良くないから	4	2.8%
8 福祉施設や福祉サービスが不十分だから	6	4.2%
9 住宅の事情が良くないから	4	2.8%
10 災害の対策が充実していないため不安があるから	9	6.3%
11 冬期間の雪の処理が大変だから	37	25.7%
12 まちの発展が期待できないから	68	47.2%
13 行政サービスが良くないから	16	11.1%
14 その他	2	1.4%
15 特にない	0	0.0%
無回答	2	1.4%

(4) 普段の暮らしで感じることや取り組んでいること

問 あなたの普段の暮らしで感じることや取り組んでいることについて、お聞かせください。【それぞれの項目であてはまるもの1つに○】

○ 普段の暮らしのなかで感じること・取り組んでいることのすべての項目のなかで、「はい」と回答した割合が最も高いのは「(9) 日常的な買い物は町内でしていますか」(75.7%)、「いいえ」と回答した割合が最も高いのは「(8) 路線バスや乗合タクシーなど、日常生活での移動に公共交通を利用していますか」(88.0%)となっています。

図表 普段の暮らしで感じることや取り組んでいること



図表 普段の暮らしで感じることや取り組んでいること

(n=816)

		回答数	構成比
(1) 現在、あなたは健康ですか	1 はい	496	60.8%
	2 いいえ	210	25.7%
	3 わからない	75	9.2%
	無回答	35	4.3%
(2) 健康のために取り組んでいることがありますか	1 はい	390	47.8%
	2 いいえ	324	39.7%
	3 わからない	46	5.6%
	無回答	56	6.9%
(3) 毎日、生きがいを持って暮らしていますか	1 はい	428	52.5%
	2 いいえ	146	17.9%
	3 わからない	184	22.5%
	無回答	58	7.1%
(4) 近所の方との親しい付き合いがありますか	1 はい	441	54.0%
	2 いいえ	244	29.9%
	3 わからない	91	11.2%
	無回答	40	4.9%
(5) 町内会活動やボランティアなどに参加していますか	1 はい	346	42.4%
	2 いいえ	400	49.0%
	3 わからない	29	3.6%
	無回答	41	5.0%
(6) 自由に集まれたり、気軽に利用できる施設がありますか	1 はい	244	29.9%
	2 いいえ	386	47.3%
	3 わからない	137	16.8%
	無回答	49	6.0%
(7) 困ったとき、町でどんな支援やサービスが受けられるか、ある程度知っていますか	1 はい	227	27.8%
	2 いいえ	341	41.8%
	3 わからない	212	26.0%
	無回答	36	4.4%
(8) 路線バスや乗合タクシーなど、日常生活での移動に公共交通を利用していますか	1 はい	57	7.0%
	2 いいえ	718	88.0%
	3 わからない	8	1.0%
	無回答	33	4.0%
(9) 日常的な買い物は町内でしていますか	1 はい	618	75.7%
	2 いいえ	140	17.2%
	3 わからない	22	2.7%
	無回答	36	4.4%

		(n=816)	
		回答数	構成比
(10)	除排雪の仕方によって、冬期間の外出に不便を感じることはありますか	1 はい	420 51.5%
		2 いいえ	312 38.2%
		3 わからない	45 5.5%
		無回答	39 4.8%
(11)	町内の治安は良いと思いますか	1 はい	560 68.6%
		2 いいえ	53 6.5%
		3 わからない	165 20.2%
		無回答	38 4.7%
(12)	町の伝統や文化に愛着を感じていますか	1 はい	332 40.7%
		2 いいえ	191 23.4%
		3 わからない	249 30.5%
		無回答	44 5.4%
(13)	町内で行事が盛んに行われていると思いますか	1 はい	133 16.3%
		2 いいえ	377 46.2%
		3 わからない	264 32.4%
		無回答	42 5.1%

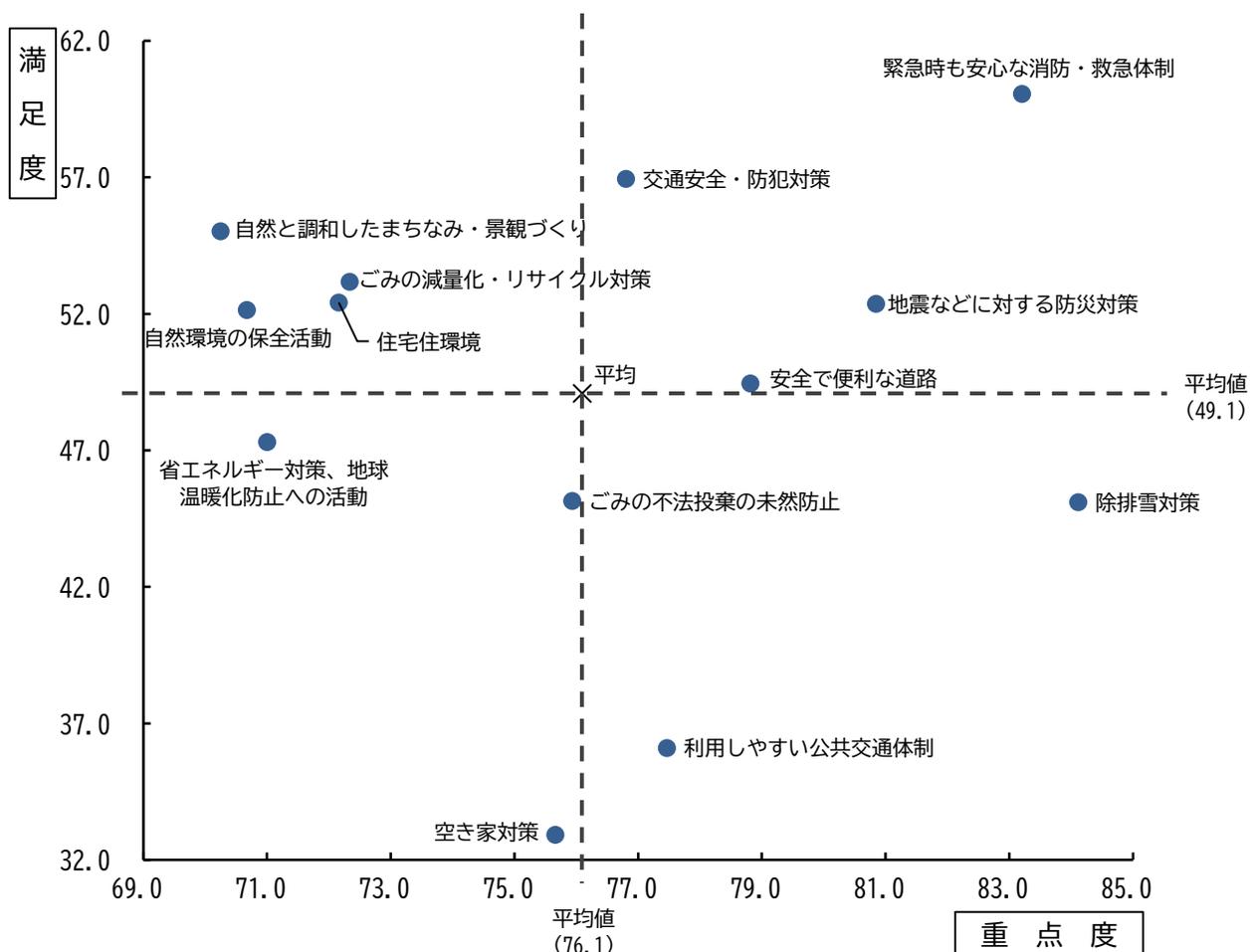
4 五城目町の取り組みについて

問 次の項目について、あなたの暮らしにとってどのくらい満足し、重要性を感じていますか。項目ごとにあてはまるものを1つ選んで○をつけてください。
【それぞれの項目であてはまるもの1つに○】

(1) 生活基盤・環境の向上

- 重要度、満足度がともに高い第Ⅰ象限に「(8)交通安全・防犯対策」「(9)緊急時も安心な消防・救急体制」、「(10)地震などに対する防災対策」、「(4)安全で便利な道路」などが挙がっている一方、重要度は高いが満足度が低い第Ⅳ象限には「(3)利用しやすい公共交通体制」、「(6)除排雪対策」が挙がっています。

図表 生活基盤・環境の向上



図表 生活基盤・環境の向上（平均点・優先度上位順）

優先度の比較的高い項目		※優先度	満足度	重要度
(13)	空き家対策	42.74	32.92	75.66
(3)	利用しやすい公共交通体制	41.36	36.10	77.47
(6)	除排雪対策	39.01	45.11	84.12
(11)	ごみの不法投棄の未然防止	30.79	45.15	75.94
(4)	安全で便利な道路	29.36	49.46	78.82
(10)	地震などに対する防災対策	28.48	52.37	80.85
(12)	省エネルギー対策、地球温暖化防止への活動	23.70	47.31	71.00
(9)	緊急時も安心な消防・救急体制	23.15	60.06	83.21
(8)	交通安全・防犯対策	19.85	56.95	76.80
(5)	住宅住環境	19.75	52.41	72.16
(7)	ごみの減量化・リサイクル対策	19.16	53.18	72.34
(2)	自然環境の保全活動	18.53	52.14	70.67
(1)	自然と調和したまちなみ・景観づくり	15.22	55.03	70.25

※ 優先度順：それぞれ満足度と重要度の回答結果をもとに、重要度から満足度を差し引いた数値が大きいものを「優先度が比較的高い項目」としています。
 なお、重要度から満足度を差し引いた数値が同じときは、重要度の高い項目の優先度を上位に、重要度も同じときは満足度の低い項目の優先度を上位としています。

図表 生活基盤・環境の向上についての評価

		回答数	構成比
		(n=816)	
		(満足度)	
(1) 自然と調和したまちなみ・景観づくり	1 満足している	50	6.1%
	2 やや満足している	161	19.7%
	3 ふつう	424	52.0%
	4 やや不満である	78	9.6%
	5 不満である	18	2.2%
	無回答	85	10.4%
			(重要度)
(1) 自然と調和したまちなみ・景観づくり	1 重要である	188	23.0%
	2 やや重要である	240	29.4%
	3 ふつう	238	29.2%
	4 あまり重要でない	33	4.0%
	5 重要でない	6	0.7%
	無回答	111	13.6%
			(満足度)
(2) 自然環境の保全活動	1 満足している	35	4.3%
	2 やや満足している	114	14.0%
	3 ふつう	483	59.2%
	4 やや不満である	85	10.4%
	5 不満である	18	2.2%
	無回答	81	9.9%

	回答数	構成比
	(重要度)	
	1 重要である	189 23.2%
	2 やや重要である	226 27.7%
	3 ふつう	273 33.5%
	4 あまり重要でない	13 1.6%
	5 重要でない	4 0.5%
	無回答	111 13.6%
	(満足度)	
	1 満足している	14 1.7%
	2 やや満足している	49 6.0%
	3 ふつう	310 38.0%
	4 やや不満である	237 29.0%
	5 不満である	124 15.2%
	無回答	82 10.0%
(3) 利用しやすい公共交通体制	(重要度)	
	1 重要である	297 36.4%
	2 やや重要である	215 26.3%
	3 ふつう	170 20.8%
	4 あまり重要でない	24 2.9%
	5 重要でない	3 0.4%
	無回答	107 13.1%
	(満足度)	
	1 満足している	39 4.8%
	2 やや満足している	127 15.6%
	3 ふつう	391 47.9%
	4 やや不満である	137 16.8%
	5 不満である	42 5.1%
	無回答	80 9.8%
(4) 安全で便利な道路	(重要度)	
	1 重要である	312 38.2%
	2 やや重要である	207 25.4%
	3 ふつう	188 23.0%
	4 あまり重要でない	6 0.7%
	5 重要でない	1 0.1%
	無回答	102 12.5%
	(満足度)	
	1 満足している	47 5.8%
	2 やや満足している	118 14.5%
(5) 住宅住環境	3 ふつう	457 56.0%
	4 やや不満である	87 10.7%
	5 不満である	27 3.3%
	無回答	80 9.8%

	回答数	構成比
	(重要度)	
	1 重要である	211 25.9%
	2 やや重要である	212 26.0%
	3 ふつう	274 33.6%
	4 あまり重要でない	7 0.9%
	5 重要でない	1 0.1%
	無回答	111 13.6%
	(満足度)	
	1 満足している	48 5.9%
	2 やや満足している	140 17.2%
	3 ふつう	266 32.6%
	4 やや不満である	202 24.8%
	5 不満である	90 11.0%
	無回答	70 8.6%
(6) 除排雪対策	(重要度)	
	1 重要である	404 49.5%
	2 やや重要である	181 22.2%
	3 ふつう	131 16.1%
	4 あまり重要でない	5 0.6%
	5 重要でない	0 0.0%
	無回答	95 11.6%
	(満足度)	
	1 満足している	42 5.1%
	2 やや満足している	108 13.2%
	3 ふつう	504 61.8%
	4 やや不満である	72 8.8%
	5 不満である	13 1.6%
	無回答	77 9.4%
(7) ごみの減量化・リサイクル対策	(重要度)	
	1 重要である	216 26.5%
	2 やや重要である	220 27.0%
	3 ふつう	266 32.6%
	4 あまり重要でない	10 1.2%
	5 重要でない	2 0.2%
	無回答	102 12.5%
	(満足度)	
	1 満足している	54 6.6%
	2 やや満足している	152 18.6%
(8) 交通安全・防犯対策	3 ふつう	493 60.4%
	4 やや不満である	30 3.7%
	5 不満である	12 1.5%
	無回答	75 9.2%

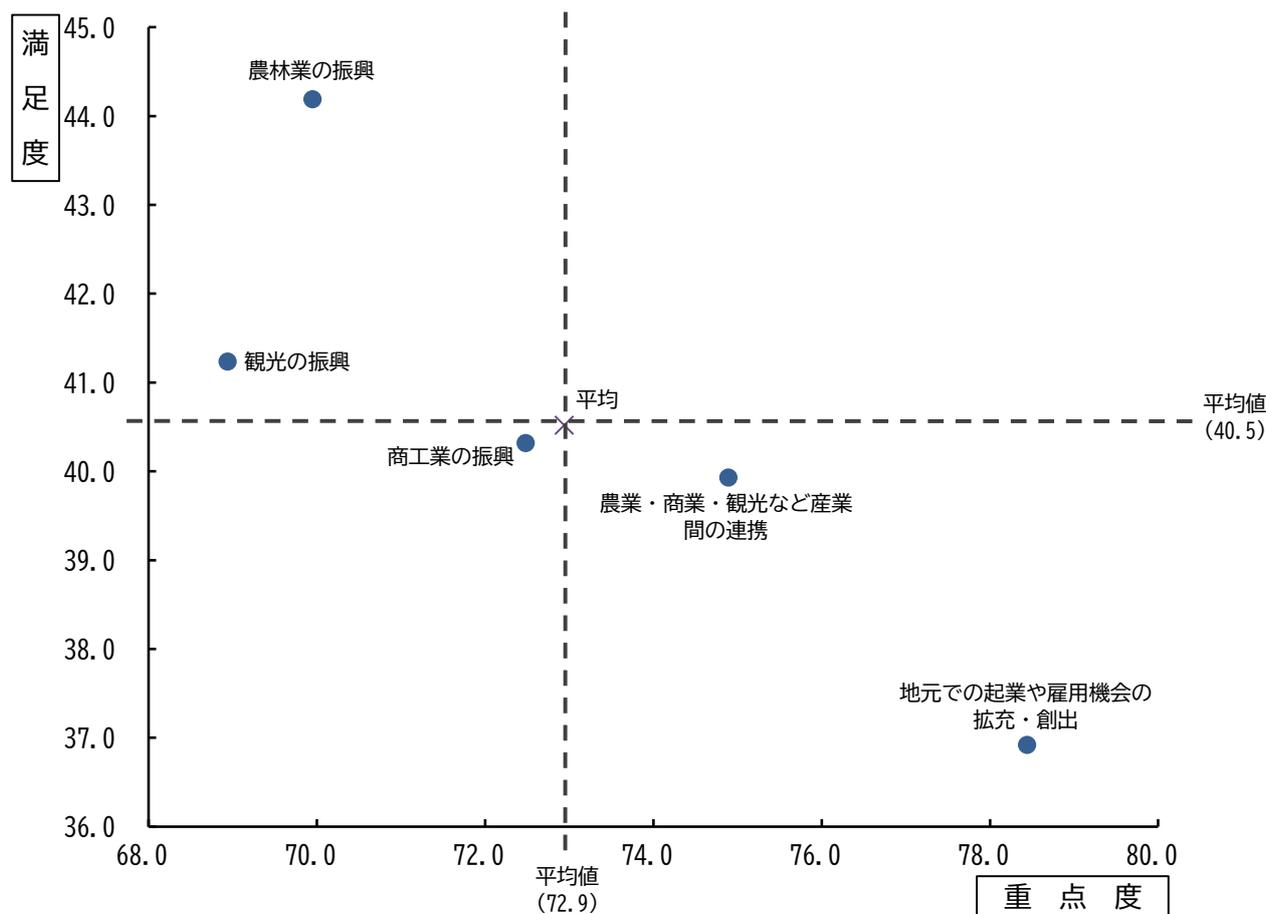
	回答数	構成比
	(重要度)	
	1 重要である	301 36.9%
	2 やや重要である	183 22.4%
	3 ふつう	227 27.8%
	4 あまり重要でない	8 1.0%
	5 重要でない	2 0.2%
	無回答	95 11.6%
	(満足度)	
	1 満足している	96 11.8%
	2 やや満足している	180 22.1%
	3 ふつう	401 49.1%
	4 やや不満である	47 5.8%
	5 不満である	14 1.7%
	無回答	78 9.6%
(9) 緊急時も安心な消防・救急体制	(重要度)	
	1 重要である	395 48.4%
	2 やや重要である	177 21.7%
	3 ふつう	150 18.4%
	4 あまり重要でない	2 0.2%
	5 重要でない	1 0.1%
	無回答	91 11.2%
	(満足度)	
	1 満足している	37 4.5%
	2 やや満足している	108 13.2%
	3 ふつう	497 60.9%
	4 やや不満である	80 9.8%
	5 不満である	16 2.0%
	無回答	78 9.6%
(10) 地震などに対する防災対策	(重要度)	
	1 重要である	360 44.1%
	2 やや重要である	174 21.3%
	3 ふつう	178 21.8%
	4 あまり重要でない	4 0.5%
	5 重要でない	2 0.2%
	無回答	98 12.0%
	(満足度)	
	1 満足している	21 2.6%
	2 やや満足している	67 8.2%
	3 ふつう	454 55.6%
	4 やや不満である	138 16.9%
	5 不満である	57 7.0%
	無回答	79 9.7%
(11) ごみの不法投棄の未然防止	(重要度)	
	1 重要である	360 44.1%
	2 やや重要である	174 21.3%
	3 ふつう	178 21.8%
	4 あまり重要でない	4 0.5%
	5 重要でない	2 0.2%
	無回答	98 12.0%
	(満足度)	
	1 満足している	21 2.6%
	2 やや満足している	67 8.2%
	3 ふつう	454 55.6%
	4 やや不満である	138 16.9%
	5 不満である	57 7.0%
	無回答	79 9.7%

		回答数	構成比	
		(重要度)		
1 重要である		277	33.9%	
2 やや重要である		205	25.1%	
3 ふつう		227	27.8%	
4 あまり重要でない		10	1.2%	
5 重要でない		1	0.1%	
無回答		96	11.8%	
		(満足度)		
1 満足している		17	2.1%	
2 やや満足している		29	3.6%	
3 ふつう		564	69.1%	
4 やや不満である		87	10.7%	
5 不満である		27	3.3%	
無回答		92	11.3%	
(12) 省エネルギー対策、地球温暖化防止への活動			(重要度)	
	1 重要である		210	25.7%
	2 やや重要である		202	24.8%
	3 ふつう		274	33.6%
	4 あまり重要でない		14	1.7%
	5 重要でない		7	0.9%
	無回答		109	13.4%
			(満足度)	
	1 満足している		9	1.1%
	2 やや満足している		25	3.1%
3 ふつう		292	35.8%	
4 やや不満である		269	33.0%	
5 不満である		137	16.8%	
無回答		84	10.3%	
(13) 空き家対策			(重要度)	
	1 重要である		268	32.8%
	2 やや重要である		236	28.9%
	3 ふつう		186	22.8%
	4 あまり重要でない		21	2.6%
	5 重要でない		7	0.9%
	無回答		98	12.0%

(2) 地場産業の振興

- 重要度、満足度がともに高い第Ⅰ象限には該当する項目がありません。一方、重要度は高いが満足度が低い第Ⅳ象限には「(17)地元での起業や雇用機会の拡充・創出」、「(18)農業・商業・観光など産業間の連携」が挙がっています。

図表 地場産業の振興



図表 地場産業の振興 (平均点・優先度上位順)

優先度の比較的高い項目		※優先度	満足度	重要度
(17)	地元での起業や雇用機会の拡充・創出	41.52	36.92	78.44
(18)	農業・商業・観光など産業間の連携	34.96	39.93	74.89
(15)	商工業の振興	32.17	40.32	72.48
(16)	観光の振興	27.71	41.23	68.94
(14)	農林業の振興	25.76	44.19	69.95

図表 地場産業の振興についての評価

(n=816)

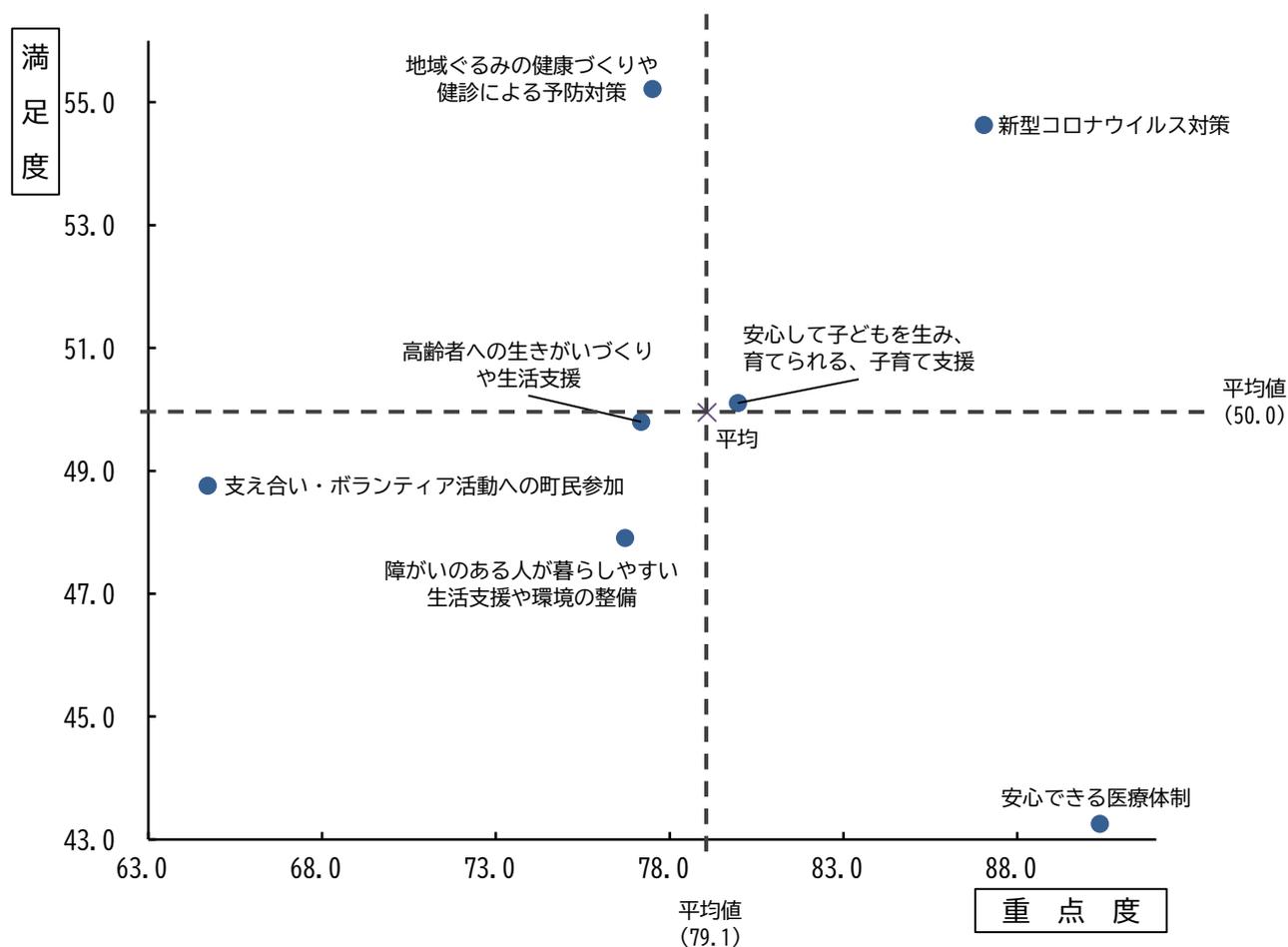
		回答数	構成比	
(14) 農林業の振興	(満足度)			
	1	満足している	13	1.6%
	2	やや満足している	39	4.8%
	3	ふつう	473	58.0%
	4	やや不満である	140	17.2%
	5	不満である	45	5.5%
		無回答	106	13.0%
	(重要度)			
	1	重要である	191	23.4%
	2	やや重要である	207	25.4%
	3	ふつう	266	32.6%
	4	あまり重要でない	22	2.7%
	5	重要でない	7	0.9%
		無回答	123	15.1%
(15) 商工業の振興	(満足度)			
	1	満足している	9	1.1%
	2	やや満足している	33	4.0%
	3	ふつう	397	48.7%
	4	やや不満である	216	26.5%
	5	不満である	55	6.7%
		無回答	106	13.0%
	(重要度)			
	1	重要である	212	26.0%
	2	やや重要である	224	27.5%
	3	ふつう	240	29.4%
	4	あまり重要でない	15	1.8%
	5	重要でない	4	0.5%
		無回答	121	14.8%
(16) 観光の振興	(満足度)			
	1	満足している	9	1.1%
	2	やや満足している	34	4.2%
	3	ふつう	426	52.2%
	4	やや不満である	186	22.8%
	5	不満である	58	7.1%
		無回答	103	12.6%
	(重要度)			
	1	重要である	172	21.1%
	2	やや重要である	222	27.2%
	3	ふつう	269	33.0%
	4	あまり重要でない	19	2.3%
	5	重要でない	11	1.3%
		無回答	123	15.1%

		回答数	構成比
(17) 地元での起業や雇用機会の拡充・創出	(満足度)		
	1 満足している	10	1.2%
	2 やや満足している	47	5.8%
	3 ふつう	323	39.6%
	4 やや不満である	226	27.7%
	5 不満である	107	13.1%
	無回答	103	12.6%
	(重要度)		
	1 重要である	311	38.1%
	2 やや重要である	204	25.0%
	3 ふつう	172	21.1%
	4 あまり重要でない	12	1.5%
	5 重要でない	6	0.7%
	無回答	111	13.6%
(18) 農業・商業・観光など産業間の連携	(満足度)		
	1 満足している	9	1.1%
	2 やや満足している	31	3.8%
	3 ふつう	411	50.4%
	4 やや不満である	183	22.4%
	5 不満である	76	9.3%
	無回答	106	13.0%
	(重要度)		
	1 重要である	247	30.3%
	2 やや重要である	221	27.1%
	3 ふつう	217	26.6%
	4 あまり重要でない	9	1.1%
	5 重要でない	5	0.6%
	無回答	117	14.3%

(3) 保健・福祉・医療サービスの充実

- 重要度、満足度がともに高い第Ⅰ象限に「(24)安心して子どもを産み、育てられる、子育て支援」、「(21)新型コロナウイルス対策」が挙げられている一方、重要度は高いが満足度が低い第Ⅳ象限には「(19)安心できる医療体制」が挙げられています。

図表 保健・福祉・医療サービスの充実



図表 保健・福祉・医療サービスの充実 (平均点・優先度上位順)

優先度の比較的高い項目		※優先度	満足度	重要度
(19)	安心できる医療体制(救急医療を含む)	47.12	43.26	90.37
(21)	新型コロナウイルス対策	32.41	54.63	87.04
(24)	安心して子どもを産み、育てられる、子育て支援(育児相談、保育所など)	29.85	50.10	79.96
(22)	障がいのある人が暮らしやすい生活支援や環境の整備	28.81	47.91	76.71
(23)	高齢者への生きがいづくりや生活支援(介護予防など)	27.39	49.80	77.18
(20)	地域ぐるみの健康づくりや健診による	22.29	55.22	77.50
(25)	支え合い・ボランティア活動への町民参加	15.95	48.76	64.71

図表 保健・福祉・医療サービスの充実についての評価

(n=816)

		回答数	構成比
(19) 安心できる医療体制（救急医療を含む）	(満足度)		
	1	満足している	37 4.5%
	2	やや満足している	119 14.6%
	3	ふつう	286 35.0%
	4	やや不満である	212 26.0%
	5	不満である	91 11.2%
		無回答	71 8.7%
	(重要度)		
	1	重要である	523 64.1%
	2	やや重要である	125 15.3%
	3	ふつう	71 8.7%
	4	あまり重要でない	1 0.1%
	5	重要でない	2 0.2%
		無回答	94 11.5%
(20) 地域ぐるみの健康づくりや健診による予防対策	(満足度)		
	1	満足している	44 5.4%
	2	やや満足している	153 18.8%
	3	ふつう	474 58.1%
	4	やや不満である	58 7.1%
	5	不満である	14 1.7%
		無回答	73 8.9%
	(重要度)		
	1	重要である	280 34.3%
	2	やや重要である	242 29.7%
	3	ふつう	188 23.0%
	4	あまり重要でない	7 0.9%
	5	重要でない	2 0.2%
		無回答	97 11.9%
(21) 新型コロナウイルス対策	(満足度)		
	1	満足している	64 7.8%
	2	やや満足している	156 19.1%
	3	ふつう	415 50.9%
	4	やや不満である	74 9.1%
	5	不満である	36 4.4%
		無回答	71 8.7%
	(重要度)		
	1	重要である	488 59.8%
	2	やや重要である	119 14.6%
	3	ふつう	120 14.7%
	4	あまり重要でない	3 0.4%
	5	重要でない	3 0.4%
		無回答	83 10.2%

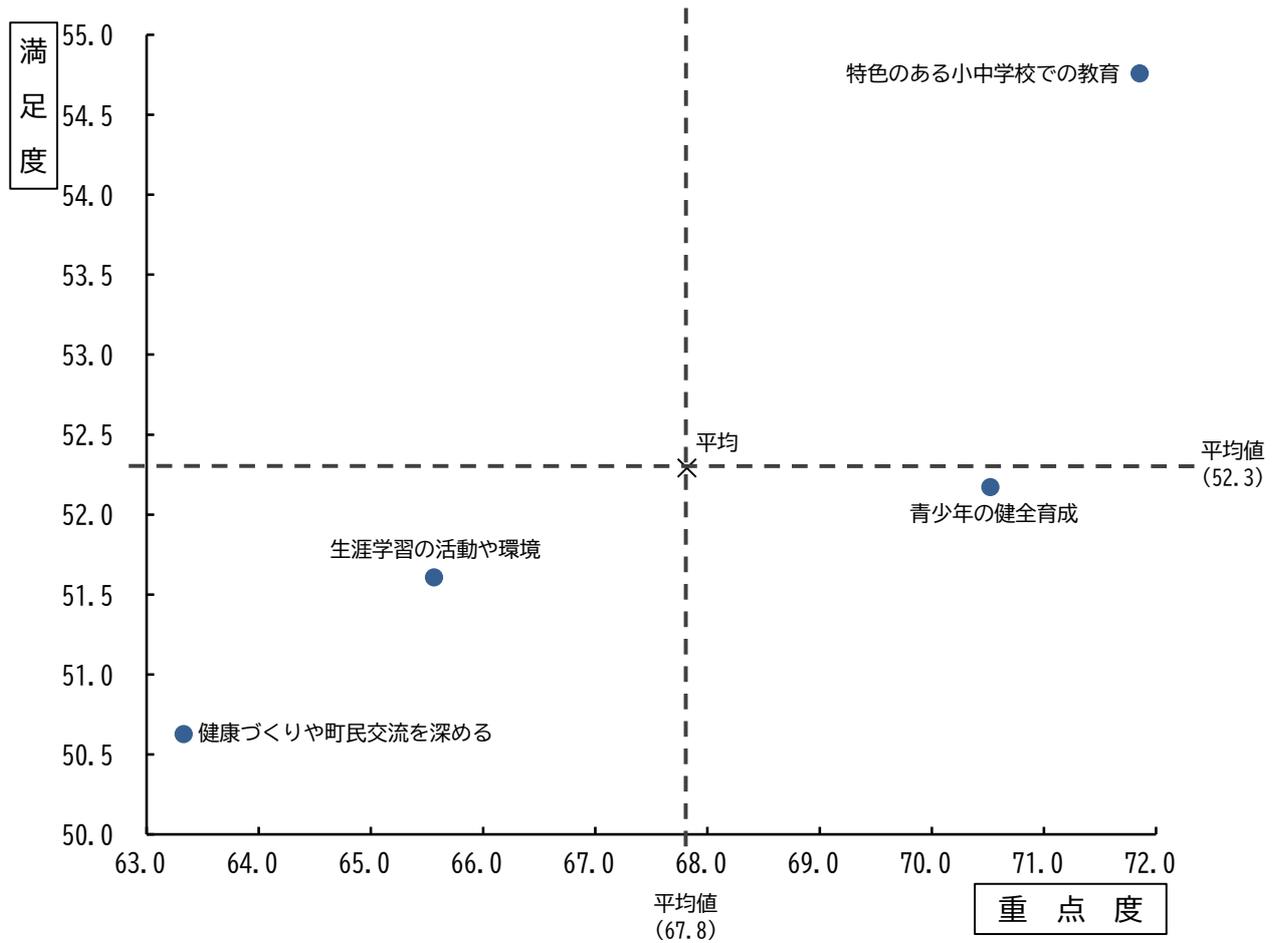
		回答数	構成比
(22) 障がいのある人が暮らしやすい生活支援や環境の整備	(満足度)		
	1 満足している	20	2.5%
	2 やや満足している	54	6.6%
	3 ふつう	527	64.6%
	4 やや不満である	99	12.1%
	5 不満である	28	3.4%
	無回答	88	10.8%
	(重要度)		
	1 重要である	276	33.8%
	2 やや重要である	226	27.7%
	3 ふつう	204	25.0%
	4 あまり重要でない	4	0.5%
	5 重要でない	5	0.6%
	無回答	101	12.4%
(23) 高齢者への生きがいづくりや生活支援（介護予防など）	(満足度)		
	1 満足している	18	2.2%
	2 やや満足している	94	11.5%
	3 ふつう	510	62.5%
	4 やや不満である	90	11.0%
	5 不満である	23	2.8%
	無回答	81	9.9%
	(重要度)		
	1 重要である	281	34.4%
	2 やや重要である	239	29.3%
	3 ふつう	189	23.2%
	4 あまり重要でない	10	1.2%
	5 重要でない	3	0.4%
	無回答	94	11.5%
(24) 安心して子どもを生み、育てられる、子育て支援（育児相談、保育所など）	(満足度)		
	1 満足している	20	2.5%
	2 やや満足している	103	12.6%
	3 ふつう	481	58.9%
	4 やや不満である	86	10.5%
	5 不満である	27	3.3%
	無回答	99	12.1%
	(重要度)		
	1 重要である	342	41.9%
	2 やや重要である	181	22.2%
	3 ふつう	187	22.9%
	4 あまり重要でない	5	0.6%
	5 重要でない	1	0.1%
	無回答	100	12.3%

		回答数	構成比	
		(満足度)		
(25) 支え合い・ボランティア活動への 町民参加	1 満足している	11	1.3%	
	2 やや満足している	51	6.3%	
	3 ふつう	570	69.9%	
	4 やや不満である	75	9.2%	
	5 不満である	17	2.1%	
	無回答	92	11.3%	
			(重要度)	
	1 重要である	121	14.8%	
	2 やや重要である	214	26.2%	
	3 ふつう	352	43.1%	
4 あまり重要でない	18	2.2%		
5 重要でない	9	1.1%		
	無回答	102	12.5%	

(4) 教育環境の充実

- 重要度、満足度がともに高い第Ⅰ象限に「(26)特色のある小中学校での教育」が挙がっている一方、重要度は高いが満足度が低い第Ⅳ象限には「(27)青少年の健全育成」が挙がっています。

図表 教育環境の充実



図表 教育環境の充実 (平均点・優先度上位順)

優先度の比較的高い項目		※優先度	満足度	重要度
(27)	青少年の健全育成	18.35	52.17	70.52
(26)	特色のある小中学校での教育	17.09	54.76	71.85
(28)	生涯学習の活動や環境	13.95	51.61	65.56
(29)	健康づくりや町民交流を深める	12.70	50.63	63.33

図表 教育環境の充実についての評価

(n=816)

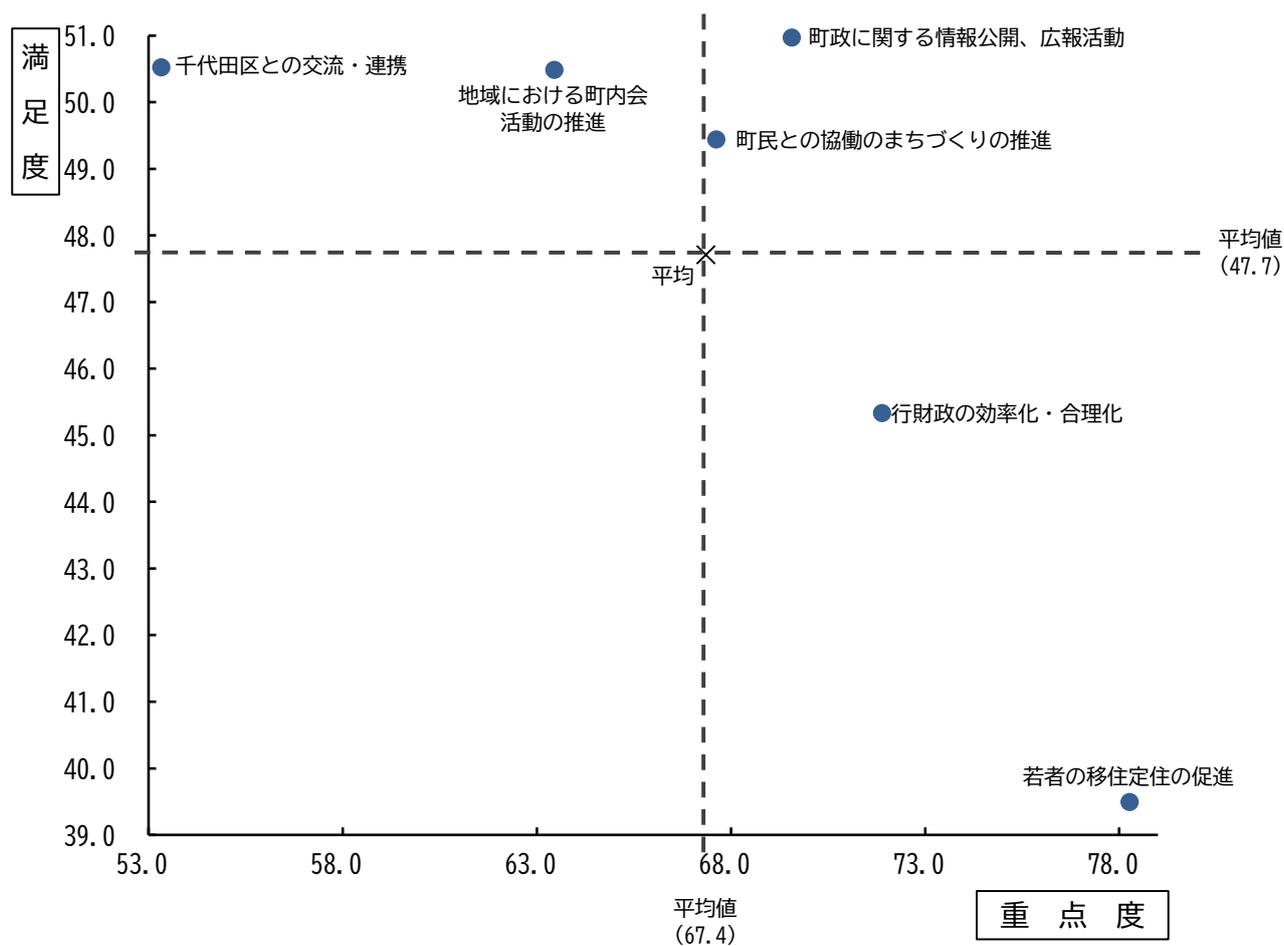
	回答数	構成比
	(満足度)	
	1 満足している	34 4.2%
	2 やや満足している	120 14.7%
	3 ふつう	514 63.0%
	4 やや不満である	29 3.6%
	5 不満である	12 1.5%
	無回答	107 13.1%
(26) 特色のある小中学校での教育	(重要度)	
	1 重要である	223 27.3%
	2 やや重要である	181 22.2%
	3 ふつう	284 34.8%
	4 あまり重要でない	6 0.7%
	5 重要でない	5 0.6%
	無回答	117 14.3%
	(満足度)	
	1 満足している	23 2.8%
	2 やや満足している	78 9.6%
	3 ふつう	545 66.8%
	4 やや不満である	49 6.0%
	5 不満である	7 0.9%
	無回答	114 14.0%
(27) 青少年の健全育成	(重要度)	
	1 重要である	202 24.8%
	2 やや重要である	182 22.3%
	3 ふつう	296 36.3%
	4 あまり重要でない	6 0.7%
	5 重要でない	6 0.7%
	無回答	124 15.2%
	(満足度)	
	1 満足している	16 2.0%
	2 やや満足している	80 9.8%
	3 ふつう	547 67.0%
	4 やや不満である	47 5.8%
	5 不満である	10 1.2%
	無回答	116 14.2%
(28) 生涯学習の活動や環境	(重要度)	
	1 重要である	134 16.4%
	2 やや重要である	192 23.5%
	3 ふつう	345 42.3%
	4 あまり重要でない	18 2.2%
	5 重要でない	5 0.6%
	無回答	122 15.0%

		回答数	構成比	
		(満足度)		
(29) 健康づくりや町民交流を深める スポーツ・レクリエーション活動	1 満足している	21	2.6%	
	2 やや満足している	70	8.6%	
	3 ふつう	546	66.9%	
	4 やや不満である	68	8.3%	
	5 不満である	13	1.6%	
	無回答	98	12.0%	
			(重要度)	
	1 重要である	113	13.8%	
	2 やや重要である	199	24.4%	
	3 ふつう	357	43.8%	
4 あまり重要でない	28	3.4%		
5 重要でない	10	1.2%		
無回答	109	13.4%		

(5) 行財政運営・まちづくりの推進

- 重要度、満足度がともに高い第Ⅰ象限に「(32)町民との協働のまちづくりの推進」、
「(31)町政に関する情報公開、広報活動」が挙げられている一方、重要度は高いが満足度
が低い第Ⅳ象限には「(34)若者の移住定住の促進」、「(30)行財政の効率化・合理化」
が挙げられています。

図表 行財政運営・まちづくりの推進



図表 行財政運営・まちづくりの推進 (平均点・優先度上位順)

優先度の比較的高い項目	※優先度	満足度	重要度
(34) 若者の移住定住の促進	38.77	39.50	78.26
(30) 行財政の効率化・合理化	26.56	45.33	71.89
(31) 町政に関する情報公開、広報活動	18.59	50.97	69.56
(32) 町民との協働のまちづくりの推進	18.18	49.44	67.62
(33) 地域における町内会活動の推進	12.97	50.97	63.45
(35) 千代田区との交流・連携	2.80	50.52	53.33

図表 行財政運営・まちづくりの推進についての評価

(n=816)

		回答数	構成比
(30) 行財政の効率化・合理化	(満足度)		
	1 満足している	11	1.3%
	2 やや満足している	53	6.5%
	3 ふつう	480	58.8%
	4 やや不満である	119	14.6%
	5 不満である	44	5.4%
	無回答	109	13.4%
	(重要度)		
	1 重要である	202	24.8%
	2 やや重要である	224	27.5%
	3 ふつう	263	32.2%
	4 あまり重要でない	4	0.5%
	5 重要でない	6	0.7%
	無回答	117	14.3%
(31) 町政に関する情報公開、広報活動	(満足度)		
	1 満足している	31	3.8%
	2 やや満足している	101	12.4%
	3 ふつう	487	59.7%
	4 やや不満である	67	8.2%
	5 不満である	34	4.2%
	無回答	96	11.8%
	(重要度)		
	1 重要である	175	21.4%
	2 やや重要である	223	27.3%
	3 ふつう	297	36.4%
	4 あまり重要でない	7	0.9%
	5 重要でない	6	0.7%
	無回答	108	13.2%
(32) 町民との協働のまちづくりの推進	(満足度)		
	1 満足している	14	1.7%
	2 やや満足している	81	9.9%
	3 ふつう	515	63.1%
	4 やや不満である	83	10.2%
	5 不満である	21	2.6%
	無回答	102	12.5%
	(重要度)		
	1 重要である	149	18.3%
	2 やや重要である	216	26.5%
	3 ふつう	317	38.8%
	4 あまり重要でない	10	1.2%
	5 重要でない	6	0.7%
	無回答	118	14.5%

	回答数	構成比
	(満足度)	
	1 満足している	21 2.6%
	2 やや満足している	83 10.2%
	3 ふつう	530 65.0%
	4 やや不満である	57 7.0%
	5 不満である	27 3.3%
	無回答	98 12.0%
(33) 地域における町内会活動の推進	(重要度)	
	1 重要である	112 13.7%
	2 やや重要である	205 25.1%
	3 ふつう	355 43.5%
	4 あまり重要でない	24 2.9%
	5 重要でない	12 1.5%
	無回答	108 13.2%
	(満足度)	
	1 満足している	14 1.7%
	2 やや満足している	54 6.6%
	3 ふつう	371 45.5%
	4 やや不満である	168 20.6%
	5 不満である	107 13.1%
	無回答	102 12.5%
(34) 若者の移住定住の促進	(重要度)	
	1 重要である	314 38.5%
	2 やや重要である	200 24.5%
	3 ふつう	182 22.3%
	4 あまり重要でない	12 1.5%
	5 重要でない	5 0.6%
	無回答	103 12.6%
	(満足度)	
	1 満足している	23 2.8%
	2 やや満足している	74 9.1%
	3 ふつう	536 65.7%
	4 やや不満である	61 7.5%
	5 不満である	22 2.7%
	無回答	100 12.3%
(35) 千代田区との交流・連携	(重要度)	
	1 重要である	70 8.6%
	2 やや重要である	135 16.5%
	3 ふつう	371 45.5%
	4 あまり重要でない	79 9.7%
	5 重要でない	51 6.3%
	無回答	110 13.5%

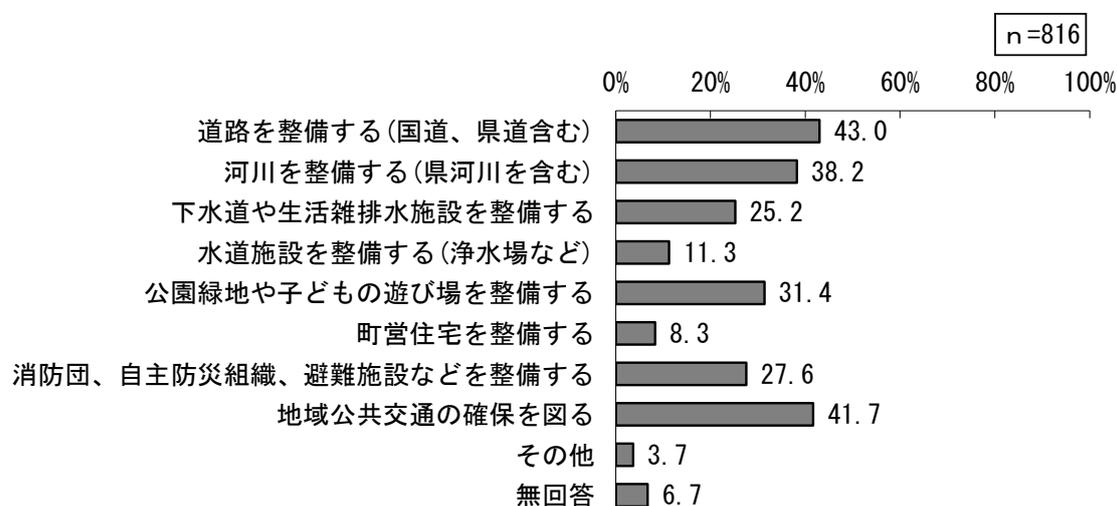
5 生活基盤・生活環境について

(1) 町内の生活基盤について

問 あなたは、町内の生活基盤について、町は今後どのような方策に重点を置くべきだと思いますか。【3つまで○】

- 人口減少社会に感じる不安なことは、「道路を整備する(国道、県道含む)」が43.0%と最も多くなっています。次いで「地域公共交通の確保を図る」が41.7%、「河川を整備する(県河川を含む)」で38.2%となっています。

図表 町内の生活基盤について、重点置くべき方策



(n=816)		
	回答数	構成比
1 道路を整備する(国道、県道含む)	351	43.0%
2 河川を整備する(県河川を含む)	312	38.2%
3 下水道や生活雑排水施設を整備する	206	25.2%
4 水道施設を整備する(浄水場など)	92	11.3%
5 公園緑地や子どもの遊び場を整備する	256	31.4%
6 町営住宅を整備する	68	8.3%
7 消防団、自主防災組織、避難施設などを整備する	225	27.6%
8 地域公共交通の確保を図る	340	41.7%
9 その他	30	3.7%
無回答	55	6.7%

- 町内の生活基盤について、重点置くべき方策をみると、「道路を整備する(国道、県道含む)」は、性別・年齢別で、「地域公共交通の確保を図る」については、女性、各年齢でそれぞれ上位に挙がっています。
- そのほか 10~40 歳代では「公園緑地や子どもの遊び場を整備する」、50 歳代以上では「河川を整備する(県河川を含む)」が上位に挙がっています。

図表 町内の生活基盤について、重点置くべき方策（性別・年齢別：上位3項目）

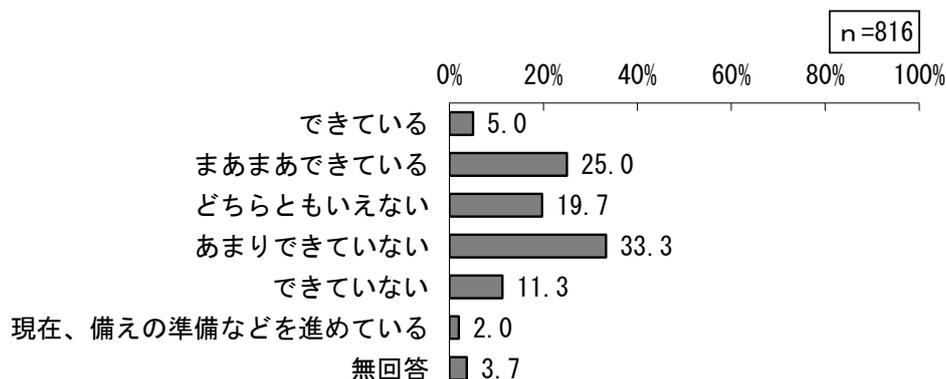
	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	道路を整備する (国道、県道含む) 50.3%	河川を整備する (県河川を含む) 43.8%	下水道や生活雑排水施設を 整備する 26.1%
女性 (n=429)	地域公共交通の確保を図る 41.7%	道路を整備する (国道、県道含む) 38.0%	公園緑地や子どもの 遊び場を整備する 34.0%
10・20 歳代 (n=29)	道路を整備する (国道、県道含む) 44.8%	公園緑地や子どもの 遊び場を整備する 41.4%	地域公共交通の確保を図る 37.9%
30 歳代 (n=45)	公園緑地や子どもの 遊び場を整備する 53.3%	地域公共交通の確保を図る 46.7%	道路を整備する (国道、県道含む) 44.4%
40 歳代 (n=107)	道路を整備する (国道、県道含む) 51.4%	公園緑地や子どもの 遊び場を整備する 42.1%	地域公共交通の確保を図る 41.1%
50 歳代 (n=132)	道路を整備する (国道、県道含む) 52.3%	地域公共交通の確保を図る 40.2%	河川を整備する (県河川を含む) 36.4%
60 歳代 (n=199)	地域公共交通の確保を図る 46.7%	河川を整備する (県河川を含む) 44.2%	道路を整備する (国道、県道含む) 39.2%
70 歳以上 (n=266)	河川を整備する (県河川を含む) 39.5%	地域公共交通の確保を図る 39.1%	道路を整備する (国道、県道含む) 37.6%

(2) 災害に対する備えについて

問 あなたのご家庭では、災害に対する備え（防災用具の準備、避難場所の認知、家族との連絡方法、停電や断水への対応など）ができていますか【1つに○】

- 災害に対する備えは、「あまりできていない」が 33.3%と最も多くなっています。次いで「まあまあできている」が 25.0%、「どちらともいえない」が 19.7%となっています。

図表 災害に対する備えができていますか



(n=816)		
	回答数	構成比
1 できている	41	5.0%
2 まあまあできている	204	25.0%
3 どちらともいえない	161	19.7%
4 あまりできていない	272	33.3%
5 できていない	92	11.3%
6 現在、備えの準備などを進めている	16	2.0%
無回答	30	3.7%

図表 災害に対する備えができていますか（性別・年齢別：上位3項目）

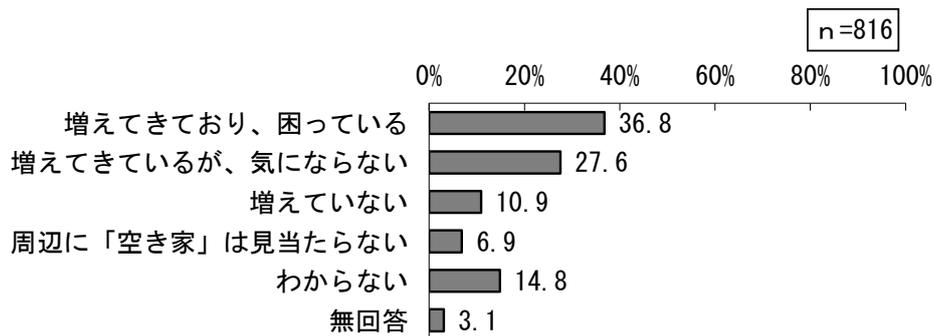
	できている	まあまあできている	どちらともいえない	あまりできていない	できていない	現在、備えの準備などを進めている	無回答
男性(n=306)	6.9%	23.2%	23.5%	31.0%	10.5%	1.6%	3.3%
女性(n=429)	3.5%	26.6%	17.9%	34.5%	11.4%	2.3%	3.7%
10・20歳代(n=29)	17.2%	24.1%	10.3%	27.6%	10.3%	10.3%	0.0%
30歳代(n=45)	0.0%	31.1%	17.8%	31.1%	13.3%	4.4%	2.2%
40歳代(n=107)	6.5%	20.6%	23.4%	37.4%	8.4%	0.9%	2.8%
50歳代(n=132)	2.3%	24.2%	24.2%	29.5%	15.2%	0.8%	3.8%
60歳代(n=199)	3.0%	30.2%	19.6%	33.7%	9.5%	1.0%	3.0%
70歳以上(n=266)	7.1%	22.9%	18.4%	33.5%	11.3%	2.3%	4.5%

(3) 居住地域周辺の「空き家」の動向について

問 あなたのお住まい周辺の「空き家」の最近の動向について、どのように感じていますか。
【1つに○】

○ 居住地域周辺の「空き家」の最近の動向について感じていることは、「増えてきており、困っている」で 36.8%と最も多くなっています。次いで「増えてきているが、気にならない」で 27.6%、「わからない」で 14.8%となっています。

図表 居住地域周辺の「空き家」の動向について



(n=816)

	回答数	構成比
1 増えてきており、困っている	300	36.8%
2 増えてきているが、気にならない	225	27.6%
3 増えていない	89	10.9%
4 周辺に「空き家」は見当たらない	56	6.9%
5 わからない	121	14.8%
無回答	25	3.1%

図表 居住地域周辺の「空き家」の動向について（性別・年齢別：上位3項目）

	増えてきており、困っている	増えてきているが、気にならない	増えていない	周辺に「空き家」は見当たらない	わからない	無回答
男性(n=306)	41.2%	29.1%	10.5%	4.6%	12.1%	2.6%
女性(n=429)	33.6%	25.4%	12.1%	8.4%	17.0%	3.5%
10・20歳代(n=29)	27.6%	27.6%	3.4%	10.3%	31.0%	0.0%
30歳代(n=45)	24.4%	24.4%	6.7%	11.1%	31.1%	2.2%
40歳代(n=107)	22.4%	29.9%	11.2%	4.7%	29.0%	2.8%
50歳代(n=132)	34.8%	30.3%	9.1%	7.6%	14.4%	3.8%
60歳代(n=199)	39.2%	25.6%	13.6%	9.5%	9.5%	2.5%
70歳以上(n=266)	44.4%	25.9%	12.0%	4.5%	9.8%	3.4%

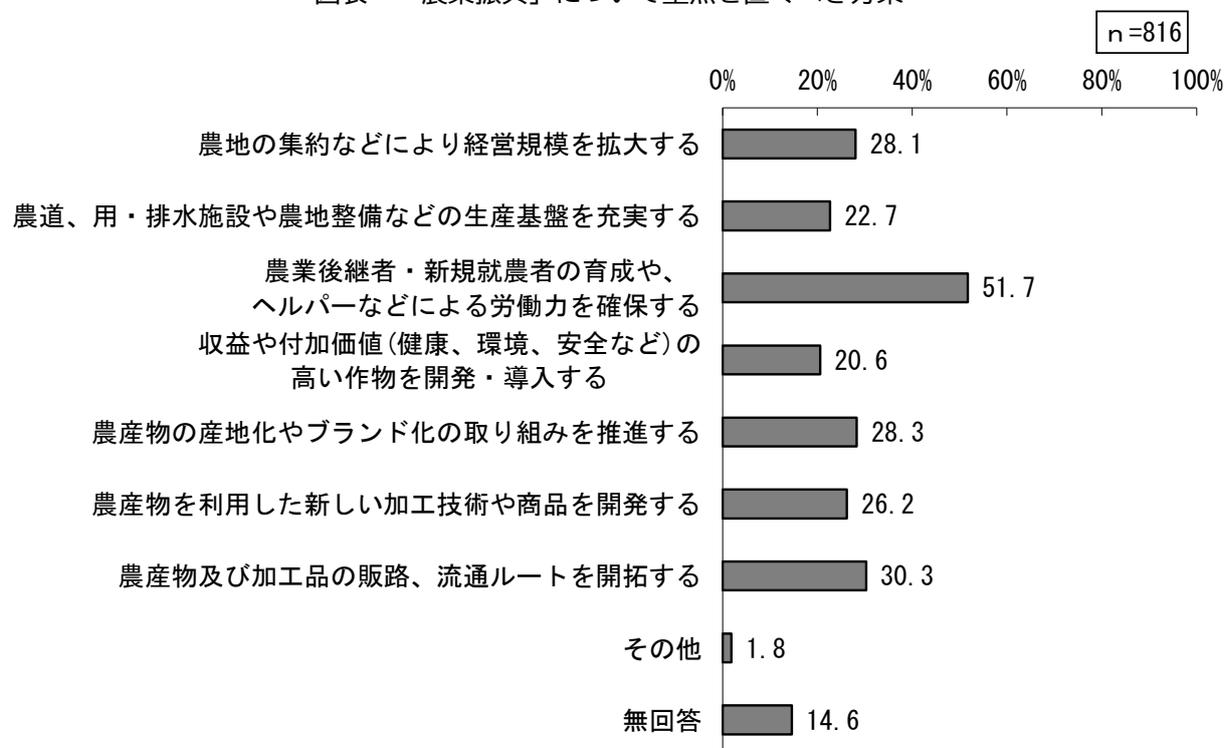
6 産業振興について

(1) 「農業振興」について重点を置くべき方策

問 あなたは、「農業振興」について、町は今後どのような方策に重点を置くべきだと思いますか【3つまでに○】

- 「農業振興」について重点を置くべきだと思う方策は、「農業後継者・新規就農者の育成や、ヘルパーなどによる労働力を確保する」で51.7%と最も多くなっています。次いで「農産物及び加工品の販路、流通ルートを開拓する」で30.3%、「農産物の産地化やブランド化の取り組みを推進する」で28.3%となっています。

図表 「農業振興」について重点を置くべき方策



(n=816)		
	回答数	構成比
1 農地の集約などにより経営規模を拡大する	229	28.1%
2 農道、用・排水施設や農地整備などの生産基盤を充実する	185	22.7%
3 農業後継者・新規就農者の育成や、ヘルパーなどによる労働力を確保する	422	51.7%
4 収益や付加価値(健康、環境、安全など)の高い作物を開発・導入する	168	20.6%
5 農産物の産地化やブランド化の取り組みを推進する	231	28.3%
6 農産物を利用した新しい加工技術や商品を開発する	214	26.2%
7 農産物及び加工品の販路、流通ルートを開拓する	247	30.3%
8 その他	15	1.8%
無回答	119	14.6%

- 「農業振興」について重点を置くべきだと思ふ方策をみると、「農業後継者・新規就農者の育成や、ヘルパーなどによる労働力を確保する」は、性別、年齢別ともに最上位に挙がっています。
- また、回答全体の上位である「農産物及び加工品の販路、流通ルートを開拓する」は、各性別、10・20 歳代、40 歳代、60 歳代、70 歳代で、「農産物の産地化やブランド化の取り組みを推進する」は、女性、10～40 歳代で上位に挙がっています。
- そのほか、男性、50 歳代以上では、「農地の集約などにより経営規模を拡大する」を上位に挙げています。

図表 「農業振興」について重点を置くべき方策（性別・年齢別：上位3項目）

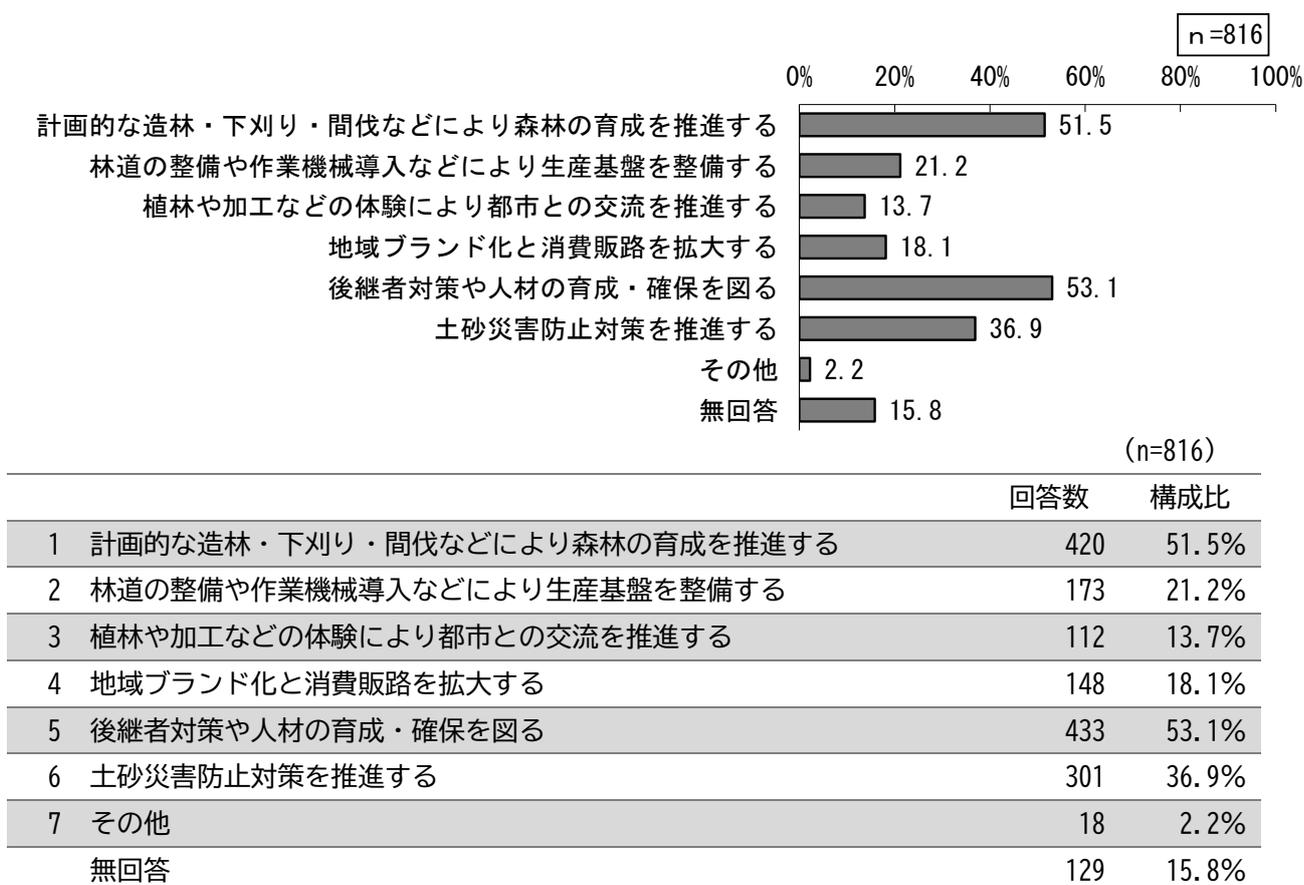
	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	農業後継者・新規就農者の育成や、ヘルパーなどによる労働力を確保する 53.3%	農地の集約などにより経営規模を拡大する 37.3%	農産物及び加工品の販路、流通ルートを開拓する 33.0%
女性 (n=429)	農業後継者・新規就農者の育成や、ヘルパーなどによる労働力を確保する 50.3%	農産物及び加工品の販路、流通ルートを開拓する 29.6%	農産物の産地化やブランド化の取り組みを推進する 27.5%
10・20 歳代 (n=29)	農業後継者・新規就農者の育成や、ヘルパーなどによる労働力を確保する 58.6%	農産物及び加工品の販路、流通ルートを開拓する 44.8%	農産物の産地化やブランド化の取り組みを推進する 37.9%
30 歳代 (n=45)	農業後継者・新規就農者の育成や、ヘルパーなどによる労働力を確保する 46.7%	農産物の産地化やブランド化の取り組みを推進する 37.8%	農産物を利用した新しい加工技術や商品を開発する 35.6%
40 歳代 (n=107)	農業後継者・新規就農者の育成や、ヘルパーなどによる労働力を確保する 50.5%	農産物及び加工品の販路、流通ルートを開拓する 37.4%	農産物の産地化やブランド化の取り組みを推進する 36.4%
50 歳代 (n=132)	農業後継者・新規就農者の育成や、ヘルパーなどによる労働力を確保する 55.3%	農地の集約などにより経営規模を拡大する 34.1%	農道、用・排水施設や農地整備などの生産基盤を充実する 31.8%
60 歳代 (n=199)	農業後継者・新規就農者の育成や、ヘルパーなどによる労働力を確保する 56.3%	農地の集約などにより経営規模を拡大する 29.1%	農産物及び加工品の販路、流通ルートを開拓する 29.1%
70 歳以上 (n=266)	農業後継者・新規就農者の育成や、ヘルパーなどによる労働力を確保する 47.0%	農地の集約などにより経営規模を拡大する 30.5%	農産物及び加工品の販路、流通ルートを開拓する 27.8%

(2) 「林業振興」について重点を置くべき方策

問 あなたは、「林業振興」について、町は今後どのような方策に重点を置くべきだと思いますか【3つまでに○】

- 「林業振興」について重点を置くべきだと思う方策は、「後継者対策や人材の育成・確保を図る」で 53.1%と最も多くなっています。次いで「計画的な造林・下刈り・間伐などにより森林の育成を推進する」で 51.5%、「土砂災害防止対策を推進する」で 36.9%となっています。

図表 「林業振興」について重点を置くべき方策



- 「林業振興」について重点を置くべきだと思う方策をみると、性別、年齢別ともに、「後継者対策や人材の育成・確保を図る」、「計画的な造林・下刈り・間伐などにより森林の育成を推進する」、「土砂災害防止対策を推進する」が上位に挙がっています。

図表 「林業振興」について重点を置くべき方策（性別・年齢別：上位3項目）

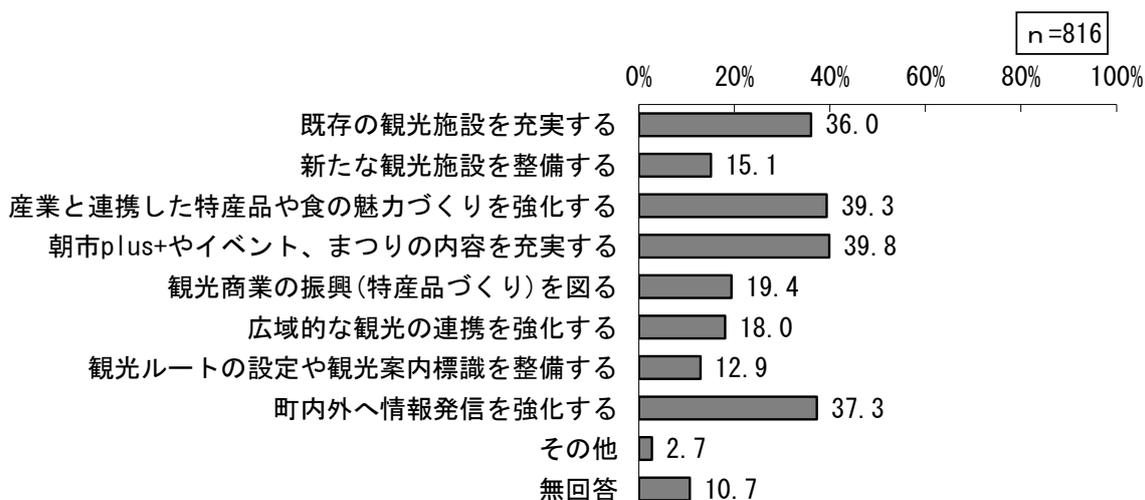
	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	後継者対策や人材の育成・ 確保を図る 59.5%	計画的な造林・下刈り・間伐 などにより森林の育成を推進 する 56.9%	土砂災害防止対策を推進する 37.3%
女性 (n=429)	後継者対策や人材の育成・ 確保を図る 51.3%	計画的な造林・下刈り・間 伐などにより森林の育成を 推進する 47.8%	土砂災害防止対策を推進す る 38.5%
10・20歳代 (n=29)	土砂災害防止対策を推進する 58.6%	後継者対策や人材の育成・ 確保を図る 55.2%	計画的な造林・下刈り・間伐 などにより森林の育成を推進 する 44.8%
30歳代 (n=45)	後継者対策や人材の育成・ 確保を図る 60.0%	土砂災害防止対策を 推進する 53.3%	計画的な造林・下刈り・間 伐などにより森林の育成を 推進する 40.0%
40歳代 (n=107)	後継者対策や人材の育成・ 確保を図る 57.0%	計画的な造林・下刈り・間 伐などにより森林の育成を 推進する 45.8%	土砂災害防止対策を 推進する 43.9%
50歳代 (n=132)	計画的な造林・下刈り・間 伐などにより森林の育成を 推進する 61.4%	後継者対策や人材の育成・ 確保を図る 53.0%	土砂災害防止対策を 推進する 43.9%
60歳代 (n=199)	計画的な造林・下刈り・間 伐などにより森林の育成を 推進する 56.8%	後継者対策や人材の育成・ 確保を図る 55.8%	土砂災害防止対策を 推進する 34.2%
70歳以上 (n=266)	後継者対策や人材の育成・ 確保を図る 50.0%	計画的な造林・下刈り・間 伐などにより森林の育成を 推進する 48.1%	土砂災害防止対策を 推進する 28.6%

(3) 「観光振興」について重点を置くべき方策

問 あなたは、「観光振興」について、町は今後どのような方策に重点を置くべきだと思いますか【3つまでに○】

- 「観光振興」について重点を置くべきだと思う方策は、「朝市 plus+やイベント、まつりの内容を充実する」で 39.8%と最も多くなっています。次いで「産業と連携した特産品や食の魅力づくりを強化する」で 39.3%、「町内外へ情報発信を強化する」で 37.3%となっています。

図表 「観光振興」について重点を置くべき方策



(n=816)		
	回答数	構成比
1 既存の観光施設を充実する	294	36.0%
2 新たな観光施設を整備する	123	15.1%
3 産業と連携した特産品や食の魅力づくりを強化する	321	39.3%
4 朝市 plus+やイベント、まつりの内容を充実する	325	39.8%
5 観光商業の振興(特産品づくり)を図る	158	19.4%
6 広域的な観光の連携を強化する	147	18.0%
7 観光ルートの設定や観光案内標識を整備する	105	12.9%
8 町内外へ情報発信を強化する	304	37.3%
9 その他	22	2.7%
無回答	87	10.7%

- 「観光振興」について重点を置くべきだと思ふ方策を性別、年齢別にみると、「朝市 plus+やイベント、まつりの内容を充実する」は、各性別、10～40 歳代、70 歳以上で最上位に挙がっています。
- また、回答全体の上位である「産業と連携した特産品や食の魅力づくりを強化する」は、女性、30 歳代、40 歳代、70 歳以上で、「町内外へ情報発信を強化する」は、各性別、10・20 歳代、40～60 歳代で上位に挙がっています。
- そのほか、男性、10～30 歳代、50 歳代以上では、「既存の観光施設を充実する」を上位に挙げています。

図表 「観光振興」について重点を置くべき方策（性別・年齢別：上位3項目）

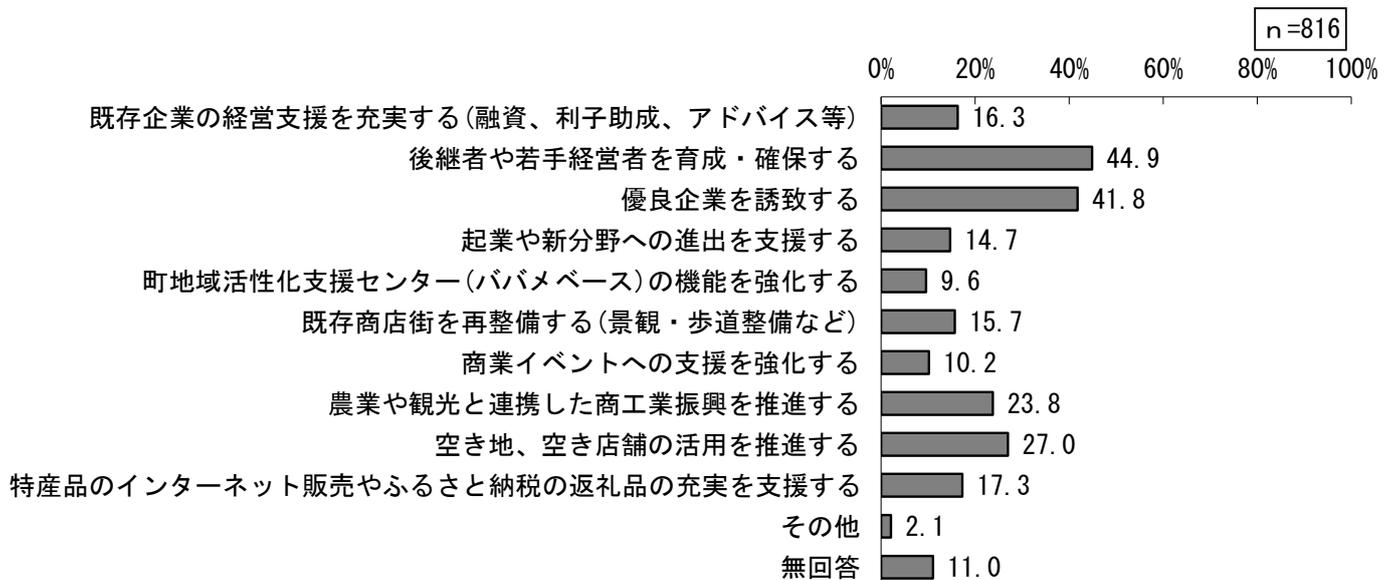
	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	朝市 plus+やイベント、 まつりの内容を充実する 39.9%	既存の観光施設を充実する 38.9%	町内外へ情報発信を強化する 37.9%
女性 (n=429)	朝市 plus+やイベント、 まつりの内容を充実する 41.7%	産業と連携した特産品や 食の魅力づくりを強化する 40.1%	町内外へ情報発信を強化する 36.6%
10・20 歳代 (n=29)	朝市 plus+やイベント、 まつりの内容を充実する 55.2%	町内外へ情報発信を強化する 51.7%	既存の観光施設を充実する 37.9%
30 歳代 (n=45)	朝市 plus+やイベント、 まつりの内容を充実する 51.1%	産業と連携した特産品や 食の魅力づくりを強化する 37.8%	既存の観光施設を充実する 35.6%
40 歳代 (n=107)	朝市 plus+やイベント、 まつりの内容を充実する 47.7%	産業と連携した特産品や 食の魅力づくりを強化する 35.5%	町内外へ情報発信を強化する 31.8%
50 歳代 (n=132)	産業と連携した特産品や 食の魅力づくりを強化する 43.2%	町内外へ情報発信を強化する 43.2%	既存の観光施設を充実する 37.1%
60 歳代 (n=199)	産業と連携した特産品や 食の魅力づくりを強化する 40.7%	町内外へ情報発信を強化する 40.7%	既存の観光施設を充実する 40.2%
70 歳以上 (n=266)	朝市 plus+やイベント、 まつりの内容を充実する 39.1%	産業と連携した特産品や 食の魅力づくりを強化する 38.7%	既存の観光施設を充実する 37.6%

(4) 「商工業振興」について重点を置くべき方策

問 あなたは、「商工業振興」について、町は今後どのような方策に重点を置くべきだと思いますか【3つまでに○】

- 「商工業振興」について重点を置くべきだと思う方策は、「後継者や若手経営者を育成・確保する」で44.9%と最も多くなっています。次いで「優良企業を誘致する」で41.8%、「空き地、空き店舗の活用を推進する」で27.0%となっています。

図表 「商工業振興」について重点を置くべき方策



(n=816)		
	回答数	構成比
1 既存企業の経営支援を充実する(融資、利子助成、アドバイス等)	133	16.3%
2 後継者や若手経営者を育成・確保する	366	44.9%
3 優良企業を誘致する	341	41.8%
4 起業や新分野への進出を支援する	120	14.7%
5 町地域活性化支援センター(ババメベース)の機能を強化する	78	9.6%
6 既存商店街を再整備する(景観・歩道整備など)	128	15.7%
7 商業イベントへの支援を強化する	83	10.2%
8 農業や観光と連携した商工業振興を推進する	194	23.8%
9 空き地、空き店舗の活用を推進する	220	27.0%
10 特産品のインターネット販売やふるさと納税の返礼品の充実を支援する	141	17.3%
11 その他	17	2.1%
無回答	90	11.0%

- 「商工業振興」について重点を置くべきだと思ふ方策をみると、「後継者や若手経営者を育成・確保する」は、各性別、10・20 歳代、40 歳以上で最上位に挙がっています。
- また、回答全体の上位である「優良企業を誘致する」は、各性別、年齢で、「空き地、空き店舗の活用を推進する」は、特に 30 歳代で最上位に挙がっています。
- そのほか、60 歳代以上では、「農業や観光と連携した商工業振興を推進する」を上位に挙げています。

図表 「商工業振興」について重点を置くべき方策（性別・年齢別：上位 3 項目）

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
男性 (n=306)	後継者や若手経営者を育成・ 確保する 48.7%	優良企業を誘致する 48.4%	空き地、空き店舗の活用を 推進する 26.8%
女性 (n=429)	後継者や若手経営者を育成・ 確保する 41.7%	優良企業を誘致する 37.5%	空き地、空き店舗の活用を 推進する 26.8%
10・20 歳代 (n=29)	後継者や若手経営者を育成・ 確保する 51.7%	優良企業を誘致する 37.9%	空き地、空き店舗の活用を 推進する 31.0%
30 歳代 (n=45)	空き地、空き店舗の活用を 推進する 46.7%	後継者や若手経営者を育成・ 確保する 44.4%	優良企業を誘致する 28.9%
40 歳代 (n=107)	後継者や若手経営者を育成・ 確保する 39.3%	優良企業を誘致する 37.4%	空き地、空き店舗の活用を 推進する 31.8%
50 歳代 (n=132)	後継者や若手経営者を育成・ 確保する 46.2%	優良企業を誘致する 44.7%	空き地、空き店舗の活用を 推進する 30.3%
60 歳代 (n=199)	後継者や若手経営者を育成・ 確保する 47.7%	優良企業を誘致する 42.2%	農業や観光と連携した商工 業振興を推進する 25.6%
70 歳以上 (n=266)	後継者や若手経営者を育成・ 確保する 45.1%	優良企業を誘致する 43.6%	農業や観光と連携した商工 業振興を推進する 21.4%

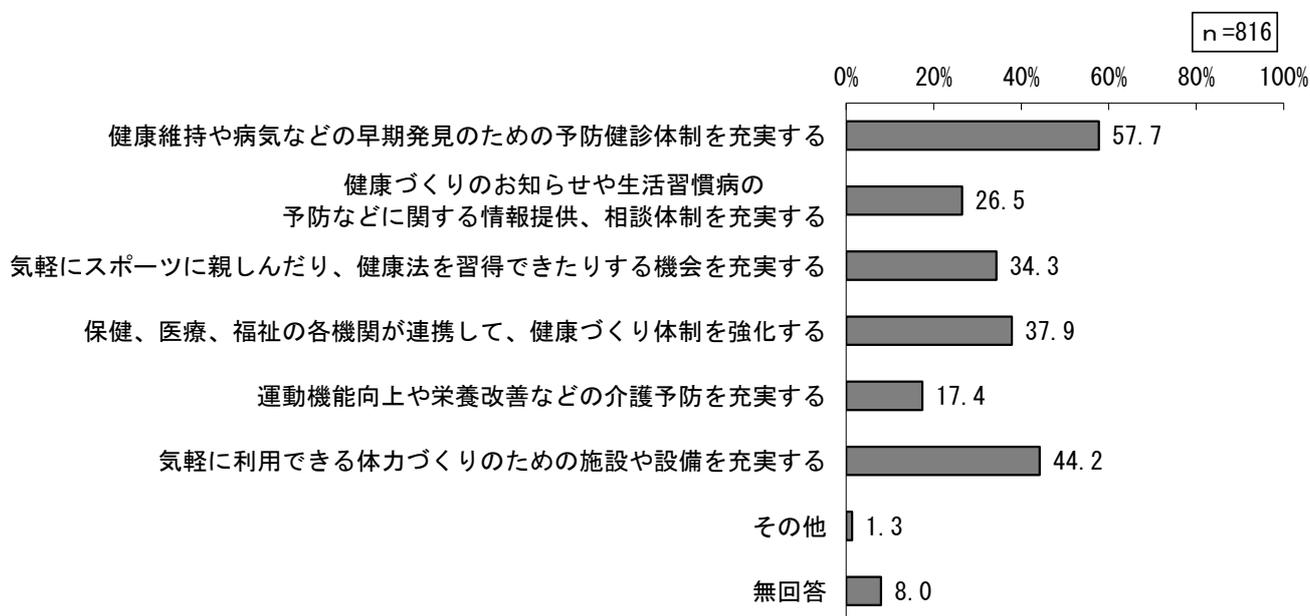
7 保健・福祉・医療について

(1) 「健康づくり」について重点を置くべき方策

問 あなたは、「健康づくり」について、町は今後どのような方策に重点を置くべきだと思いますか【3つまでに○】

○「健康づくり」について重点を置くべきだと思う方策は、「健康維持や病気などの早期発見のための予防健診体制を充実する」で 57.7%と最も多くなっています。次いで「気軽に利用できる体力づくりのための施設や設備を充実する」で 44.2%、「保健、医療、福祉の各機関が連携して、健康づくり体制を強化する」で 37.9%となっています。

図表 「健康づくり」について重点を置くべき方策



(n=816)

	回答数	構成比
1 健康維持や病気などの早期発見のための予防健診体制を充実する	471	57.7%
2 健康づくりのお知らせや生活習慣病の予防などに関する情報提供、相談体制を充実する	216	26.5%
3 気軽にスポーツに親しんだり、健康法を習得できたりする機会を充実する	280	34.3%
4 保健、医療、福祉の各機関が連携して、健康づくり体制を強化する	309	37.9%
5 運動機能向上や栄養改善などの介護予防を充実する	142	17.4%
6 気軽に利用できる体力づくりのための施設や設備を充実する	361	44.2%
7 その他	11	1.3%
無回答	65	8.0%

- 「健康づくり」について重点を置くべきだと思う方策をみると、「健康維持や病気などの早期発見のための予防健診体制を充実する」は、性別、年齢別ともに最上位に挙がっています。
- また、回答全体の上位である「気軽に利用できる体力づくりのための施設や設備を充実する」は、各性別、10・20 歳代で、「保健、医療、福祉の各機関が連携して、健康づくり体制を強化する」は、女性、10・20 歳代で上位に挙がっています。
- そのほか、30 歳代以上では、「健康づくりのお知らせや生活習慣病の予防などに関する情報提供、相談体制を充実する」、「気軽にスポーツに親しんだり、健康法を習得できたりする機会を充実する」を上位に挙げています。

図表「健康づくり」について重点を置くべき方策（性別・年齢別：上位3項目）

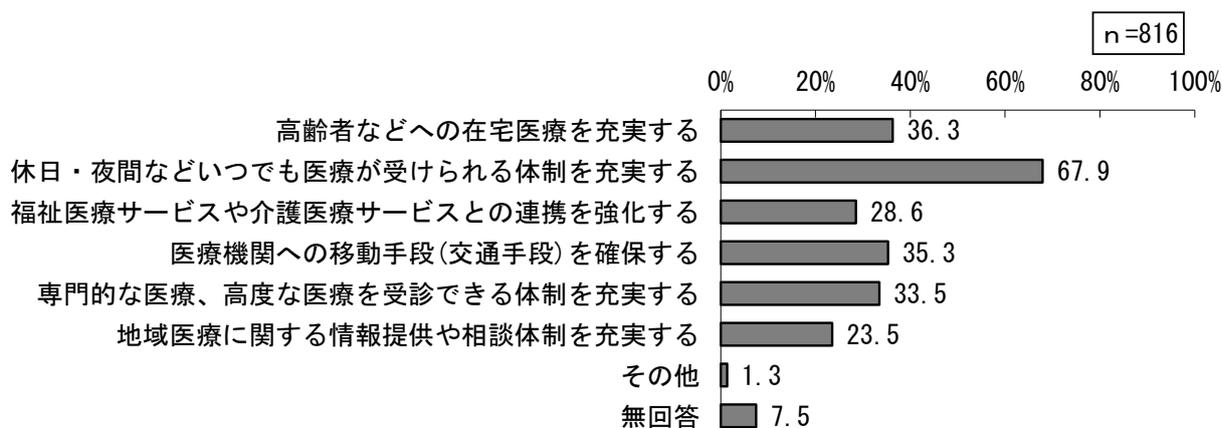
	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	健康維持や病気などの 早期発見のための予防 健診体制を充実する 60.5%	気軽に利用できる 体力づくりのための 施設や設備を充実する 45.1%	気軽にスポーツに親しんだり、 健康法を習得できたりする 機会を充実する 36.3%
女性 (n=429)	健康維持や病気などの 早期発見のための予防 健診体制を充実する 55.7%	気軽に利用できる 体力づくりのための 施設や設備を充実する 43.8%	保健、医療、福祉の各機関 が連携して、健康づくり 体制を強化する 39.4%
10・20 歳代 (n=29)	健康維持や病気などの 早期発見のための予防 健診体制を充実する 44.8%	保健、医療、福祉の各機関 が連携して、健康づくり 体制を強化する 41.4%	気軽に利用できる 体力づくりのための 施設や設備を充実する 41.4%
30 歳代 (n=45)	健康維持や病気などの 早期発見のための予防 健診体制を充実する 71.1%	健康づくりのお知らせや生 活習慣病の予防などに関 する情報提供、相談体制を 充実する 22.2%	気軽にスポーツに親しんだり、 健康法を習得できたり する機会を充実する 31.1%
40 歳代 (n=107)	健康維持や病気などの 早期発見のための予防 健診体制を充実する 54.2%	健康づくりのお知らせや生 活習慣病の予防などに関 する情報提供、相談体制を 充実する 21.5%	気軽にスポーツに親しんだり、 健康法を習得できたり する機会を充実する 39.3%
50 歳代 (n=132)	健康維持や病気などの 早期発見のための予防 健診体制を充実する 64.4%	健康づくりのお知らせや生 活習慣病の予防などに関 する情報提供、相談体制を 充実する 27.3%	気軽にスポーツに親しんだり、 健康法を習得できたり する機会を充実する 27.3%
60 歳代 (n=199)	健康維持や病気などの 早期発見のための予防 健診体制を充実する 56.3%	健康づくりのお知らせや生 活習慣病の予防などに関 する情報提供、相談体制を 充実する 26.1%	気軽にスポーツに親しんだり、 健康法を習得できたり する機会を充実する 40.7%
70 歳以上 (n=266)	健康維持や病気などの 早期発見のための予防 健診体制を充実する 57.1%	健康づくりのお知らせや生 活習慣病の予防などに関 する情報提供、相談体制を 充実する 30.5%	気軽にスポーツに親しんだり、 健康法を習得できたり する機会を充実する 30.8%

(2) 「医療環境向上」について重点を置くべき方策

問 あなたは、「医療環境向上」について、町は今後どのような方策に重点を置くべきだと思いますか【3つまでに○】

- 「医療環境向上」について重点を置くべきだと思う方策は、「休日・夜間などいつでも医療が受けられる体制を充実する」で67.9%と最も多くなっています。次いで「高齢者などへの在宅医療を充実する」で36.3%、「医療機関への移動手段(交通手段)を確保する」で35.3%となっています。

図表 「医療環境向上」について重点を置くべき方策



(n=816)		
	回答数	構成比
1 高齢者などへの在宅医療を充実する	296	36.3%
2 休日・夜間などいつでも医療が受けられる体制を充実する	554	67.9%
3 福祉医療サービスや介護医療サービスとの連携を強化する	233	28.6%
4 医療機関への移動手段(交通手段)を確保する	288	35.3%
5 専門的な医療、高度な医療を受診できる体制を充実する	273	33.5%
6 地域医療に関する情報提供や相談体制を充実する	192	23.5%
7 その他	11	1.3%
無回答	61	7.5%

- 「医療環境向上」について重点を置くべきだと思う方策をみると、「休日・夜間などいつでも医療が受けられる体制を充実する」は、性別、年齢別ともに最上位に挙がっています。
- また、回答全体の上位である「高齢者などへの在宅医療を充実する」は、各性別、60歳代以上で、「医療機関への移動手段(交通手段)を確保する」は、各性別、年齢で上位に挙がっています。
- そのほか、10~50歳代では、「専門的な医療、高度な医療」を上位に挙げています。

図表 「医療環境向上」について重点を置くべき方策（性別・年齢別：上位3項目）

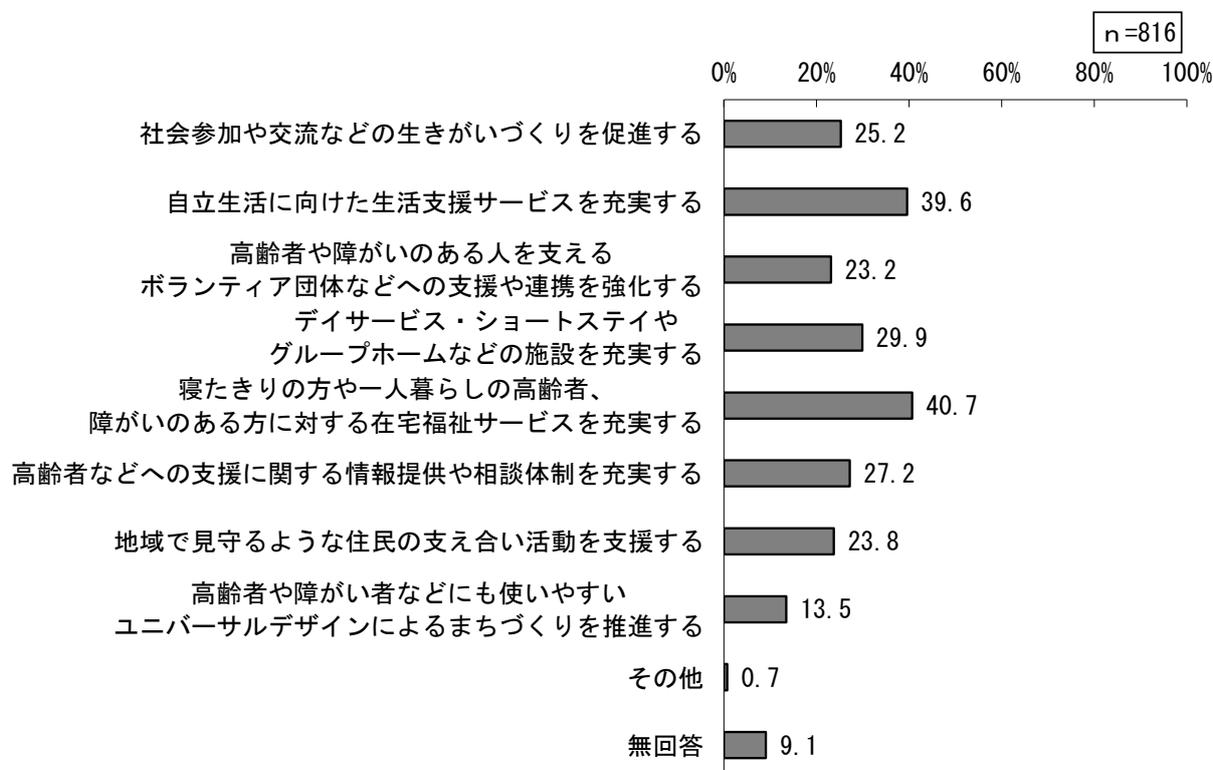
	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	休日・夜間などいつでも医療が受けられる体制を充実する 68.0%	高齢者などへの在宅医療を充実する 38.9%	医療機関への移動手段(交通手段)を確保する 34.3%
女性 (n=429)	休日・夜間などいつでも医療が受けられる体制を充実する 69.0%	医療機関への移動手段(交通手段)を確保する 35.9%	高齢者などへの在宅医療を充実する 35.0%
10・20歳代 (n=29)	休日・夜間などいつでも医療が受けられる体制を充実する 44.8%	医療機関への移動手段(交通手段)を確保する 41.4%	専門的な医療、高度な医療を受診できる体制を充実する 37.9%
30歳代 (n=45)	休日・夜間などいつでも医療が受けられる体制を充実する 86.7%	専門的な医療、高度な医療を受診できる体制を充実する 46.7%	医療機関への移動手段(交通手段)を確保する 28.9%
40歳代 (n=107)	休日・夜間などいつでも医療が受けられる体制を充実する 70.1%	医療機関への移動手段(交通手段)を確保する 43.9%	専門的な医療、高度な医療を受診できる体制を充実する 32.7%
50歳代 (n=132)	休日・夜間などいつでも医療が受けられる体制を充実する 70.5%	専門的な医療、高度な医療を受診できる体制を充実する 40.2%	医療機関への移動手段(交通手段)を確保する 38.6%
60歳代 (n=199)	休日・夜間などいつでも医療が受けられる体制を充実する 68.8%	高齢者などへの在宅医療を充実する 37.2%	医療機関への移動手段(交通手段)を確保する 32.7%
70歳以上 (n=266)	休日・夜間などいつでも医療が受けられる体制を充実する 65.8%	高齢者などへの在宅医療を充実する 46.2%	医療機関への移動手段(交通手段)を確保する 33.1%

(3) 「高齢者」や「障がいのある方」への支援について 重点を置くべき方策

問 あなたは、「高齢者」や「障がいのある方」への支援について、町は今後どのような方策に重点を置くべきだと思いますか【3つまでに○】

○ 「高齢者」や「障がいのある方」への支援について重点を置くべきだと思う方策は、「寝たきりの方や一人暮らしの高齢者、障がいのある方に対する在宅福祉サービスを充実する」で40.7%と最も多くなっています。次いで「自立生活に向けた生活支援サービスを充実する」で39.6%、「デイサービス・ショートステイやグループホームなどの施設を充実する」で29.9%となっています。

図表 「高齢者」や「障がいのある方」への支援について重点を置くべき方策



	回答数	構成比
1 社会参加や交流などの生きがいを促進する	206	25.2%
2 自立生活に向けた生活支援サービスを充実する	323	39.6%
3 高齢者や障がいのある人を支えるボランティア団体などへの支援や連携を強化する	189	23.2%
4 デイサービス・ショートステイやグループホームなどの施設を充実する	244	29.9%
5 寝たきりの方や一人暮らしの高齢者、障がいのある方に対する在宅福祉サービスを充実する	332	40.7%
6 高齢者などへの支援に関する情報提供や相談体制を充実する	222	27.2%
7 地域で見守るような住民の支え合い活動を支援する	194	23.8%
8 高齢者や障がい者などにも使いやすいユニバーサルデザインによるまちづくりを推進する	110	13.5%
9 その他	6	0.7%
無回答	74	9.1%

- 「高齢者」や「障がいのある方」への支援について重点を置くべきだと思う方策をみると、「寝たきりの方や一人暮らしの高齢者、障がいのある方に対する在宅福祉サービスを充実する」は、女性、40～50歳代、70歳以上で最上位に挙がっています。
- また、回答全体の上位である「自立生活に向けた生活支援サービスを充実する」は、各性別、年齢で、「デイサービス・ショートステイやグループホームなどの施設を充実する」は、男性、10・20歳代、40～50歳代、70歳以上で上位に挙がっています。
- そのほか、30歳代では、「社会参加や交流などの生きがいを促進する」を、女性、60歳代では、「高齢者などへの支援に関する情報提供や相談体制を充実する」を上位に挙げています。

図表 「高齢者」や「障がいのある方」への支援について重点を置くべき方策
(性別・年齢別：上位3項目)

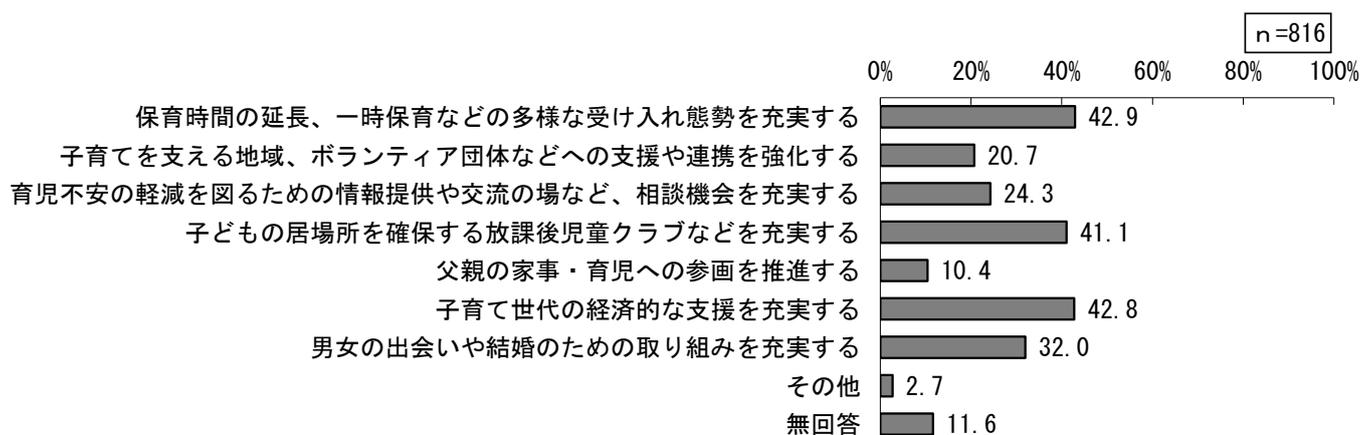
	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	自立生活に向けた生活支援サービスを充実する 41.8%	寝たきりの方や一人暮らしの高齢者、障がいのある方に対する在宅福祉サービスを充実する 39.5%	デイサービス・ショートステイやグループホームなどの施設を充実する 34.0%
女性 (n=429)	寝たきりの方や一人暮らしの高齢者、障がいのある方に対する在宅福祉サービスを充実する 42.4%	自立生活に向けた生活支援サービスを充実する 38.7%	高齢者などへの支援に関する情報提供や相談体制を充実する 29.8%
10・20歳代 (n=29)	自立生活に向けた生活支援サービスを充実する 37.9%	デイサービス・ショートステイやグループホームなどの施設を充実する 34.5%	寝たきりの方や一人暮らしの高齢者、障がいのある方に対する在宅福祉サービスを充実する 34.5%
30歳代 (n=45)	自立生活に向けた生活支援サービスを充実する 53.3%	社会参加や交流などの生きがいを促進する 42.2%	寝たきりの方や一人暮らしの高齢者、障がいのある方に対する在宅福祉サービスを充実する 40.0%
40歳代 (n=107)	寝たきりの方や一人暮らしの高齢者、障がいのある方に対する在宅福祉サービスを充実する 39.3%	デイサービス・ショートステイやグループホームなどの施設を充実する 31.8%	自立生活に向けた生活支援サービスを充実する 30.8%
50歳代 (n=132)	寝たきりの方や一人暮らしの高齢者、障がいのある方に対する在宅福祉サービスを充実する 46.2%	自立生活に向けた生活支援サービスを充実する 40.2%	デイサービス・ショートステイやグループホームなどの施設を充実する 31.8%
60歳代 (n=199)	自立生活に向けた生活支援サービスを充実する 41.2%	寝たきりの方や一人暮らしの高齢者、障がいのある方に対する在宅福祉サービスを充実する 38.7%	高齢者などへの支援に関する情報提供や相談体制を充実する 29.1%
70歳以上 (n=266)	寝たきりの方や一人暮らしの高齢者、障がいのある方に対する在宅福祉サービスを充実する 42.1%	自立生活に向けた生活支援サービスを充実する 40.6%	デイサービス・ショートステイやグループホームなどの施設を充実する 30.1%

(4) 「少子化対策」について重点を置くべき方策

問 あなたは、「高齢者」や「障がいのある方」への支援について、町は今後どのような方策に重点を置くべきだと思いますか【3つまでに○】

- 「少子化対策」について重点を置くべきだと思う方策は、「保育時間の延長、一時保育などの多様な受け入れ態勢を充実する」で 42.9%と最も多くなっています。次いで「子育て世代の経済的な支援を充実する」で 42.8%、「子どもの居場所を確保する放課後児童クラブなどを充実する」で 41.1%となっています。

図表 「高齢者」や「障がいのある方」への支援について重点を置くべき方策



(n=816)		
	回答数	構成比
1 保育時間の延長、一時保育などの多様な受け入れ態勢を充実する	350	42.9%
2 子育てを支える地域、ボランティア団体などへの支援や連携を強化する	169	20.7%
3 育児不安の軽減を図るための情報提供や交流の場など、相談機会を充実する	198	24.3%
4 子どもの居場所を確保する放課後児童クラブなどを充実する	335	41.1%
5 父親の家事・育児への参画を推進する	85	10.4%
6 子育て世代の経済的な支援を充実する	349	42.8%
7 男女の出会いや結婚のための取り組みを充実する	261	32.0%
8 その他	22	2.7%
無回答	95	11.6%

- 「少子化対策」について重点を置くべきだと思う方策をみると、回答全体の上位である「保育時間の延長、一時保育などの多様な受け入れ態勢を充実する」、「子育て世代の経済的な支援を充実する」は、各性別、年齢で上位に挙がっています。
- また、「子どもの居場所を確保する放課後児童クラブなどを充実する」は、女性、10～60歳代で上位に挙がっています。
- そのほか、男性、70歳以上では、「男女の出会いや結婚のための取り組みを充実する」を上位に挙げています。

図表 「少子化対策」について重点を置くべきだと思う方策
(性別・年齢別：上位3項目)

	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	子育て世代の経済的な支援を充実する 49.3%	保育時間の延長、一時保育などの多様な受け入れ態勢を充実する 44.8%	男女の出会いや結婚のための取り組みを充実する 38.9%
女性 (n=429)	子どもの居場所を確保する放課後児童クラブなどを充実する 42.9%	保育時間の延長、一時保育などの多様な受け入れ態勢を充実する 42.7%	子育て世代の経済的な支援を充実する 38.7%
10・20歳代 (n=29)	子育て世代の経済的な支援を充実する 65.5%	子どもの居場所を確保する放課後児童クラブなどを充実する 41.4%	保育時間の延長、一時保育などの多様な受け入れ態勢を充実する 31.0%
30歳代 (n=45)	子育て世代の経済的な支援を充実する 71.1%	保育時間の延長、一時保育などの多様な受け入れ態勢を充実する 62.2%	子どもの居場所を確保する放課後児童クラブなどを充実する 48.9%
40歳代 (n=107)	子育て世代の経済的な支援を充実する 56.1%	子どもの居場所を確保する放課後児童クラブなどを充実する 46.7%	保育時間の延長、一時保育などの多様な受け入れ態勢を充実する 39.3%
50歳代 (n=132)	保育時間の延長、一時保育などの多様な受け入れ態勢を充実する 50.0%	子育て世代の経済的な支援を充実する 47.0%	子どもの居場所を確保する放課後児童クラブなどを充実する 35.6%
60歳代 (n=199)	子どもの居場所を確保する放課後児童クラブなどを充実する 49.2%	保育時間の延長、一時保育などの多様な受け入れ態勢を充実する 48.2%	子育て世代の経済的な支援を充実する 36.2%
70歳以上 (n=266)	男女の出会いや結婚のための取り組みを充実する 40.6%	保育時間の延長、一時保育などの多様な受け入れ態勢を充実する 35.7%	子育て世代の経済的な支援を充実する 34.6%

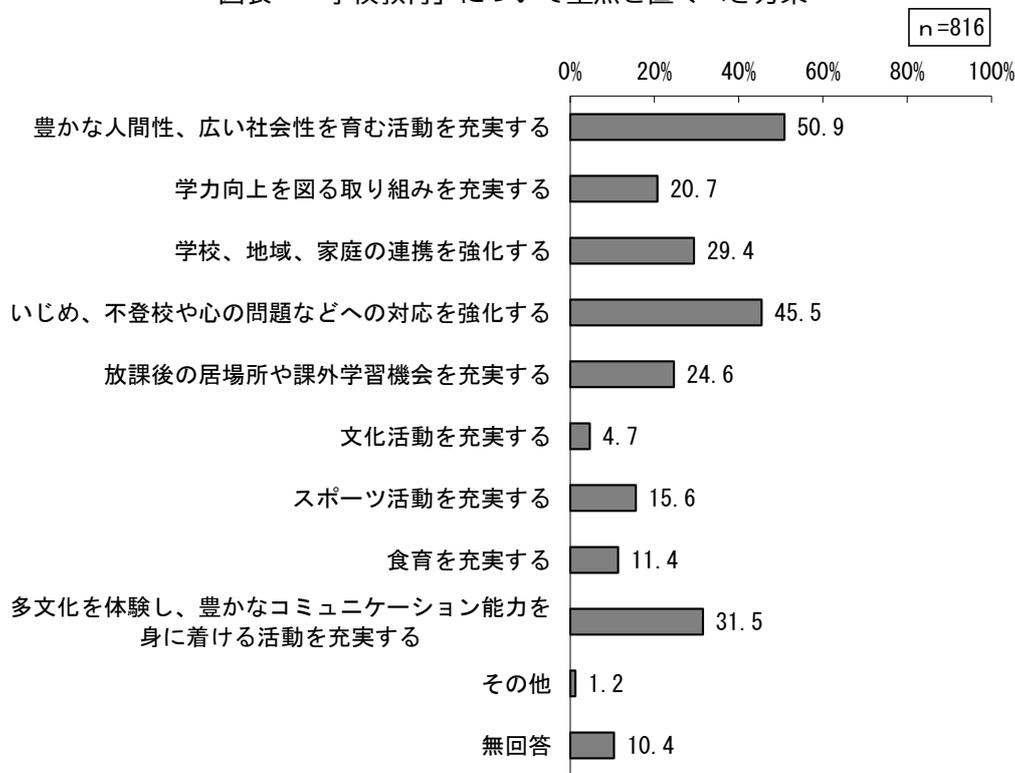
8 教育・文化・スポーツについて

(1) 「学校教育」について重点を置くべき方策

問 あなたは、「学校教育」について、町は今後どのような方策に重点を置くべきだと思いますか【3つまでに○】

- 「学校教育」について重点を置くべきだと思う方策は、「豊かな人間性、広い社会性を育む活動を充実する」で 50.9%と最も多くなっています。次いで「いじめ、不登校や心の問題などへの対応を強化する」で 45.5%、「多文化を体験し、豊かなコミュニケーション能力を身に着ける活動を充実する」で 31.5%となっています。

図表 「学校教育」について重点を置くべき方策



(n=816)

	回答数	構成比
1 豊かな人間性、広い社会性を育む活動を充実する	415	50.9%
2 学力向上を図る取り組みを充実する	169	20.7%
3 学校、地域、家庭の連携を強化する	240	29.4%
4 いじめ、不登校や心の問題などへの対応を強化する	371	45.5%
5 放課後の居場所や課外学習機会を充実する	201	24.6%
6 文化活動を充実する	38	4.7%
7 スポーツ活動を充実する	127	15.6%
8 食育を充実する	93	11.4%
9 多文化を体験し、豊かなコミュニケーション能力を身に着ける活動を充実する	257	31.5%
10 その他	10	1.2%
無回答	85	10.4%

- 「学校教育」について重点を置くべきだと思う方策をみると、「豊かな人間性、広い社会性を育む活動を充実する」は、各性別、30歳代、50歳代以上で最上位に挙がっています。
- また、回答全体の上位である「いじめ、不登校や心の問題などへの対応を強化する」は、各性別、年齢で、「多文化を体験し、豊かなコミュニケーション能力を身に着ける活動を充実する」は、各性別、10～50歳代で上位に挙がっています。
- そのほか、60歳代では、「放課後の居場所や課外学習機会を充実する」、70歳以上では「学校、地域、家庭の連携を強化する」を上位に挙げています。

図表「学校教育」について重点を置くべき方策（性別・年齢別：上位3項目）

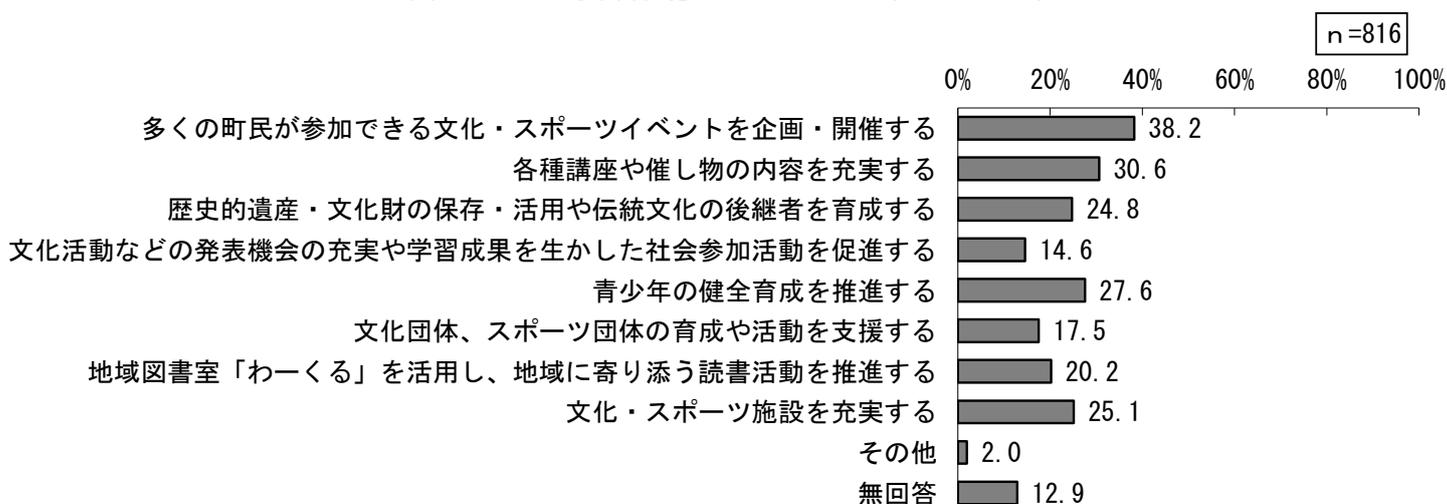
	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	豊かな人間性、広い社会性を育む活動を充実する 53.9%	いじめ、不登校や心の問題などへの対応を強化する 44.8%	多文化を体験し、豊かなコミュニケーション能力を身に着ける活動を充実する 31.0%
女性 (n=429)	豊かな人間性、広い社会性を育む活動を充実する 50.3%	いじめ、不登校や心の問題などへの対応を強化する 45.7%	多文化を体験し、豊かなコミュニケーション能力を身に着ける活動を充実する 31.7%
10・20歳代 (n=29)	いじめ、不登校や心の問題などへの対応を強化する 44.8%	多文化を体験し、豊かなコミュニケーション能力を身に着ける活動を充実する 41.4%	豊かな人間性、広い社会性を育む活動を充実する 34.5%
30歳代 (n=45)	豊かな人間性、広い社会性を育む活動を充実する 60.0%	いじめ、不登校や心の問題などへの対応を強化する 42.2%	多文化を体験し、豊かなコミュニケーション能力を身に着ける活動を充実する 35.6%
40歳代 (n=107)	いじめ、不登校や心の問題などへの対応を強化する 46.7%	豊かな人間性、広い社会性を育む活動を充実する 43.0%	多文化を体験し、豊かなコミュニケーション能力を身に着ける活動を充実する 34.6%
50歳代 (n=132)	豊かな人間性、広い社会性を育む活動を充実する 56.1%	いじめ、不登校や心の問題などへの対応を強化する 47.0%	多文化を体験し、豊かなコミュニケーション能力を身に着ける活動を充実する 41.7%
60歳代 (n=199)	豊かな人間性、広い社会性を育む活動を充実する 54.3%	いじめ、不登校や心の問題などへの対応を強化する 44.7%	放課後の居場所や課外学習機会を充実する 32.7%
70歳以上 (n=266)	豊かな人間性、広い社会性を育む活動を充実する 51.1%	いじめ、不登校や心の問題などへの対応を強化する 45.5%	学校、地域、家庭の連携を強化する 38.7%

(2) 「生涯学習活動」について重点を置くべき方策

問 あなたは、「生涯学習活動」について、町は今後どのような方策に重点を置くべきだと思いますか【3つまでに○】

○「生涯学習活動」について重点を置くべきだと思う方策は、「多くの町民が参加できる文化・スポーツイベントを企画・開催する」で38.2%と最も多くなっています。次いで「各種講座や催し物の内容を充実する」で30.6%、「青少年の健全育成を推進する」で27.6%となっています。

図表 「生涯学習活動」について重点を置くべき方策



(n=816)		
	回答数	構成比
1 多くの町民が参加できる文化・スポーツイベントを企画・開催する	312	38.2%
2 各種講座や催し物の内容を充実する	250	30.6%
3 歴史的遺産・文化財の保存・活用や伝統文化の後継者を育成する	202	24.8%
4 文化活動などの発表機会の充実や学習成果を生かした社会参加活動を促進する	119	14.6%
5 青少年の健全育成を推進する	225	27.6%
6 文化団体、スポーツ団体の育成や活動を支援する	143	17.5%
7 地域図書室「わーくる」を活用し、地域に寄り添う読書活動を推進する	165	20.2%
8 文化・スポーツ施設を充実する	205	25.1%
9 その他	16	2.0%
無回答	105	12.9%

- 「生涯学習活動」について重点を置くべきだと思う方策をみると、「多くの町民が参加できる文化・スポーツイベントを企画・開催する」は、各性別、50 歳代、70 歳以上で最上位に挙がっています。
- また、回答全体の上位である「各種講座や催し物の内容を充実する」は、女性、30 歳代、50～60 歳代で、「青少年の健全育成を推進する」は、女性、10・20 歳代、60 歳以上で上位に挙がっています。
- そのほか、10・20 歳代、40～50 歳代では、「文化・スポーツ施設を充実する」を、男性、30～40 歳代、70 歳以上では「歴史的遺産・文化財の保存・活用や伝統文化の後継者を育成する」を上位に挙げています。

図表 「生涯学習活動」について重点を置くべき方策（性別・年齢別：上位3項目）

	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	多くの町民が参加できる文化・スポーツイベントを企画・開催する 38.9%	歴史的遺産・文化財の保存・活用や伝統文化の後継者を育成する 29.7%	文化・スポーツ施設を充実する 29.4%
女性 (n=429)	多くの町民が参加できる文化・スポーツイベントを企画・開催する 38.2%	各種講座や催し物の内容を充実する 32.9%	青少年の健全育成を推進する 27.3%
10・20 歳代 (n=29)	文化・スポーツ施設を充実する 51.7%	多くの町民が参加できる文化・スポーツイベントを企画・開催する 37.9%	青少年の健全育成を推進する 27.6%
30 歳代 (n=45)	歴史的遺産・文化財の保存・活用や伝統文化の後継者を育成する 37.8%	多くの町民が参加できる文化・スポーツイベントを企画・開催する 35.6%	各種講座や催し物の内容を充実する 33.3%
40 歳代 (n=107)	文化・スポーツ施設を充実する 36.4%	歴史的遺産・文化財の保存・活用や伝統文化の後継者を育成する 31.8%	各種講座や催し物の内容を充実する 29.0%
50 歳代 (n=132)	多くの町民が参加できる文化・スポーツイベントを企画・開催する 37.9%	各種講座や催し物の内容を充実する 33.3%	文化・スポーツ施設を充実する 32.6%
60 歳代 (n=199)	各種講座や催し物の内容を充実する 42.7%	多くの町民が参加できる文化・スポーツイベントを企画・開催する 38.7%	青少年の健全育成を推進する 25.1%
70 歳以上 (n=266)	多くの町民が参加できる文化・スポーツイベントを企画・開催する 42.9%	青少年の健全育成を推進する 33.5%	歴史的遺産・文化財の保存・活用や伝統文化の後継者を育成する 27.1%

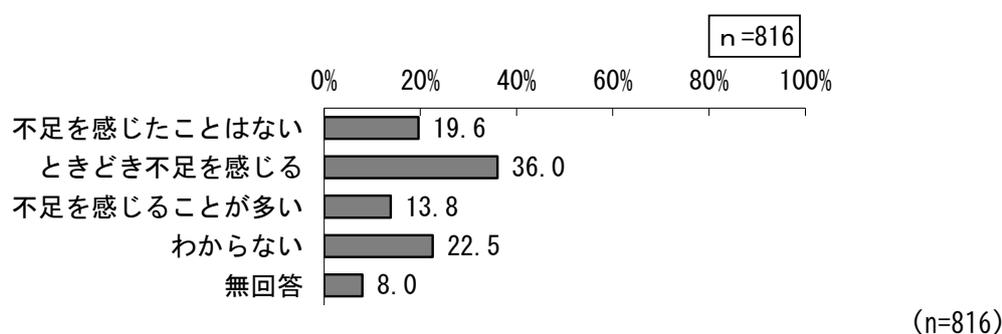
9 行財政運営について

(1) 町の行政サービスについて

問 あなたは、現在の五城目町の行政サービスについて、不足を感じることはありますか。
【1つに○】

- 現在の五城目町の行政サービスについて不足を感じることは、「ときどき不足を感じる」が36.0%と最も多くなっています。次いで「わからない」が22.5%、「不足を感じたことはない」が19.6%となっています。

図表 町の行政サービスについて



	回答数	構成比
1 不足を感じたことはない	160	19.6%
2 ときどき不足を感じる	294	36.0%
3 不足を感じるが多い	113	13.8%
4 わからない	184	22.5%
無回答	65	8.0%

図表 町の行政サービスについて (性別・年齢別：上位3項目)

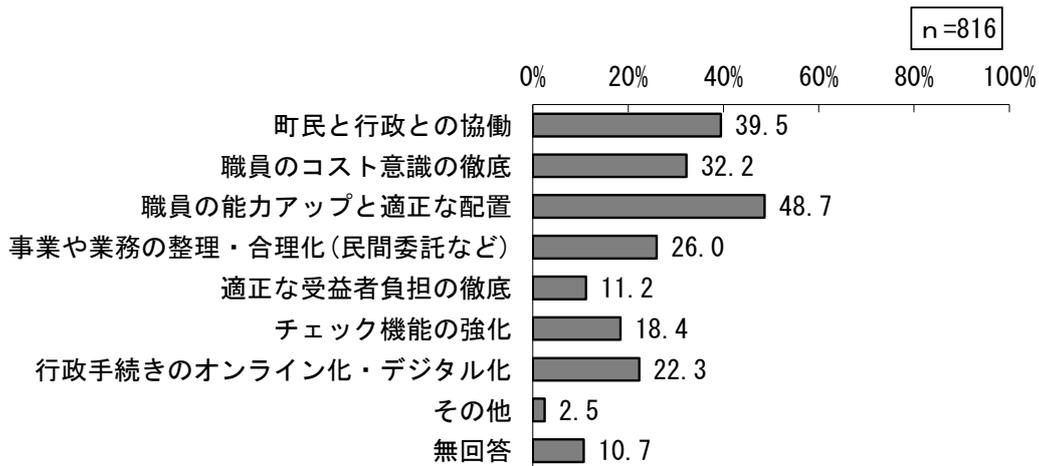
	不足を感じた ことはない	ときどき不足を 感じる	不足を感じる ことが多い	わからない	無回答
男性(n=306)	21.6%	39.9%	15.0%	16.0%	7.5%
女性(n=429)	18.4%	32.6%	12.8%	27.3%	8.9%
10・20歳代(n=29)	31.0%	27.6%	17.2%	24.1%	0.0%
30歳代(n=45)	13.3%	31.1%	17.8%	37.8%	0.0%
40歳代(n=107)	15.9%	37.4%	15.9%	26.2%	4.7%
50歳代(n=132)	18.2%	33.3%	14.4%	30.3%	3.8%
60歳代(n=199)	20.1%	40.7%	12.1%	16.6%	10.6%
70歳以上(n=266)	20.7%	33.8%	13.5%	20.3%	11.7%

(2) 行財政改革について期待する改革

問 町では、行財政改革を計画的に進めていますが、あなたが期待する改革は何ですか
【3つまでに○】

- 町が進めている行財政改革で期待する改革は、「職員の能力アップと適正な配置」で48.7%と最も多くなっています。次いで「町民と行政との協働」で39.5%、「職員のコスト意識の徹底」で32.2%となっています。

図表 行財政改革について期待する改革



(n=816)		
	回答数	構成比
1 町民と行政との協働	322	39.5%
2 職員のコスト意識の徹底	263	32.2%
3 職員の能力アップと適正な配置	397	48.7%
4 事業や業務の整理・合理化(民間委託など)	212	26.0%
5 適正な受益者負担の徹底	91	11.2%
6 チェック機能の強化	150	18.4%
7 行政手続きのオンライン化・デジタル化	182	22.3%
8 その他	20	2.5%
無回答	87	10.7%

- 町が進めている行財政改革で期待する改革についてみると、「職員の能力アップと適正な配置」は、各性別、40歳代以上で最上位に挙がっています。
- また、回答全体の上位である「町民と行政との協働」は、各性別、年齢で、「職員のコスト意識の徹底」は、各性別、40歳代以上で上位に挙がっています。
- そのほか、10・20歳代では、「事業や業務の整理・合理化(民間委託など)」を、30歳代では、「行政手続きのオンライン化・デジタル化」を上位に挙げています。

図表 行財政改革について期待する改革（性別・年齢別：上位3項目）

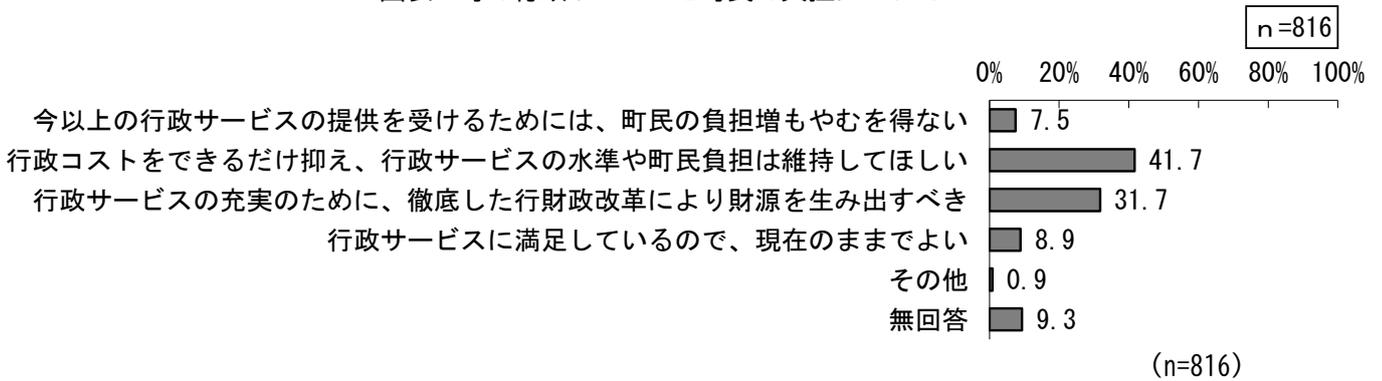
	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	職員の能力アップと 適正な配置 47.4%	町民と行政との協働 42.5%	職員のコスト意識の徹底 32.7%
女性 (n=429)	職員の能力アップと 適正な配置 49.9%	町民と行政との協働 37.5%	職員のコスト意識の徹底 32.9%
10・20歳代 (n=29)	町民と行政との協働 44.8%	職員の能力アップと 適正な配置 41.4%	事業や業務の整理・合理化 (民間委託など) 37.9%
30歳代 (n=45)	行政手続きのオンライン化・ デジタル化 57.8%	職員の能力アップと 適正な配置 46.7%	町民と行政との協働 40.0%
40歳代 (n=107)	職員の能力アップと 適正な配置 43.0%	職員のコスト意識の徹底 34.6%	町民と行政との協働 32.7%
50歳代 (n=132)	職員の能力アップと 適正な配置 49.2%	町民と行政との協働 42.4%	職員のコスト意識の徹底 34.8%
60歳代 (n=199)	職員の能力アップと 適正な配置 51.8%	町民と行政との協働 36.7%	職員のコスト意識の徹底 31.2%
70歳以上 (n=266)	職員の能力アップと 適正な配置 49.2%	町民と行政との協働 43.6%	職員のコスト意識の徹底 35.3%

(3) 町の行政サービスと町民の負担について

問 これからの町の行政サービスと町民の負担について、あなたの考えに近いものを選んでください。
【1つに〇】

- これからの町の行政サービスと町民の負担について近い考えは、「行政コストをできるだけ抑え、行政サービスの水準や町民負担は維持してほしい」で 41.7%と最も多くなっています。次いで「行政サービスの充実のために、徹底した行財政改革により財源を生み出すべき」で 31.7%、「行政サービスに満足しているので、現在のままでよい」で 8.9%となっています。

図表 町の行政サービスと町民の負担について



	回答数	構成比
1 今以上の行政サービスの提供を受けるためには、町民の負担増もやむを得ない	61	7.5%
2 行政コストをできるだけ抑え、行政サービスの水準や町民負担は維持してほしい	340	41.7%
3 行政サービスの充実のために、徹底した行財政改革により財源を生み出すべき	259	31.7%
4 行政サービスに満足しているので、現在のままでよい	73	8.9%
5 その他	7	0.9%
無回答	76	9.3%

図表 町の行政サービスと町民の負担について（性別・年齢別：上位3項目）

	今以上の行政サービスの提供を受けるためには、町民の負担増もやむを得ない	行政コストをできるだけ抑え、行政サービスの水準や町民負担は維持してほしい	行政サービスの充実のために、徹底した行財政改革により財源を生み出すべき	行政サービスに満足しているので、現在のままでよい	その他	無回答
男性(n=306)	10.1%	42.5%	34.3%	6.9%	0.3%	5.9%
女性(n=429)	5.4%	42.0%	29.6%	10.0%	1.2%	11.9%
10・20歳代(n=29)	13.8%	17.2%	48.3%	13.8%	0.0%	6.9%
30歳代(n=45)	13.3%	35.6%	35.6%	11.1%	2.2%	2.2%
40歳代(n=107)	9.3%	39.3%	30.8%	8.4%	2.8%	9.3%
50歳代(n=132)	8.3%	49.2%	31.8%	6.1%	0.0%	4.5%
60歳代(n=199)	5.5%	43.2%	37.7%	6.5%	0.5%	6.5%
70歳以上(n=266)	6.8%	41.4%	25.9%	10.5%	0.4%	15.0%

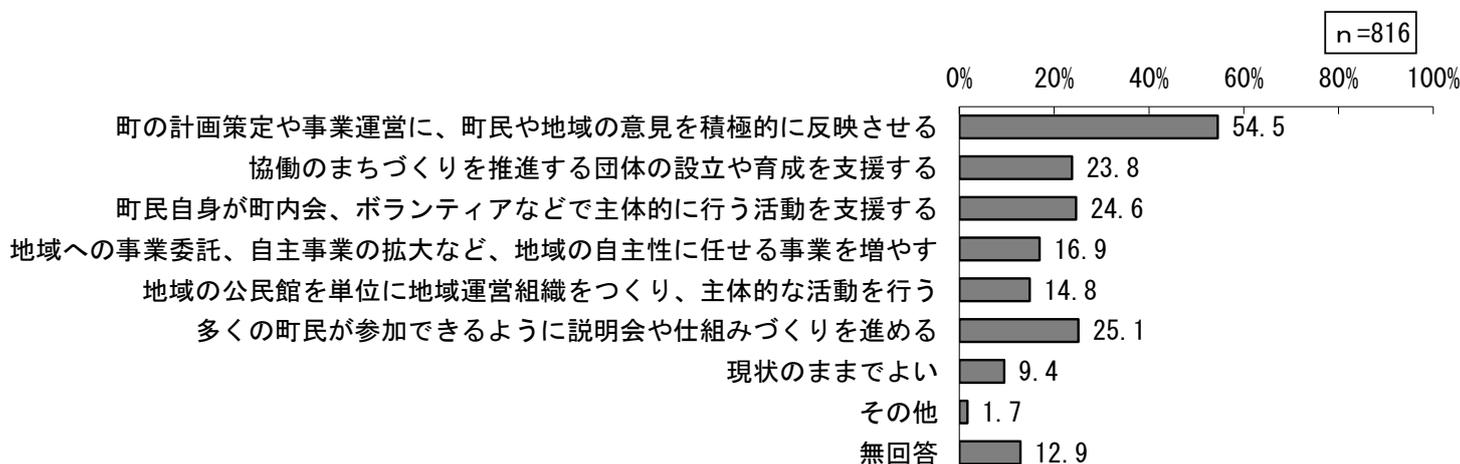
10 協働のまちづくりの推進について

(1) 「協働のまちづくり」について重点を置くべき方策

問 あなたは、町民と行政が協力して行うまちづくり「協働のまちづくり」について、町は今後どのような方策に重点を置くべきだと思いますか。【3つまで○】

- 町民と行政が協力して行う「協働のまちづくり」について、重点を置くべきだと思う方策は、「町の計画策定や事業運営に、町民や地域の意見を積極的に反映させる」で 54.5%と最も多くなっています。次いで「多くの町民が参加できるように説明会や仕組みづくりを進める」で 25.1%、「町民自身が町内会、ボランティアなどで主体的に行う活動を支援する」で 24.6%となっています。

図表 「協働のまちづくり」について重点を置くべき方策



	回答数	構成比
1 町の計画策定や事業運営に、町民や地域の意見を積極的に反映させる	445	54.5%
2 協働のまちづくりを推進する団体の設立や育成を支援する	194	23.8%
3 町民自身が町内会、ボランティアなどで主体的に行う活動を支援する	201	24.6%
4 地域への事業委託、自主事業の拡大など、地域の自主性に任せる事業を増やす	138	16.9%
5 地域の公民館を単位に地域運営組織をつくり、主体的な活動を行う	121	14.8%
6 多くの町民が参加できるように説明会や仕組みづくりを進める	205	25.1%
7 現状のままでよい	77	9.4%
8 その他	14	1.7%
無回答	105	12.9%

- 町民と行政が協力して行う「協働のまちづくり」についてみると、「町の計画策定や事業運営に、町民や地域の意見を積極的に反映させる」は、性別、年齢別ともに最上位に挙がっています。
- また、回答全体の上位である「多くの町民が参加できるように説明会や仕組みづくりを進める」は、各性別、年齢で、「町民自身が町内会、ボランティアなどで主体的に行う活動を支援する」は、各性別、60歳代以上で上位に挙がっています。
- そのほか、10～50歳代では、「協働のまちづくりを推進する団体の設立や育成を支援する」を上位に挙げています。

図表 「協働のまちづくり」について重点を置くべき方策（性別・年齢別：上位3項目）

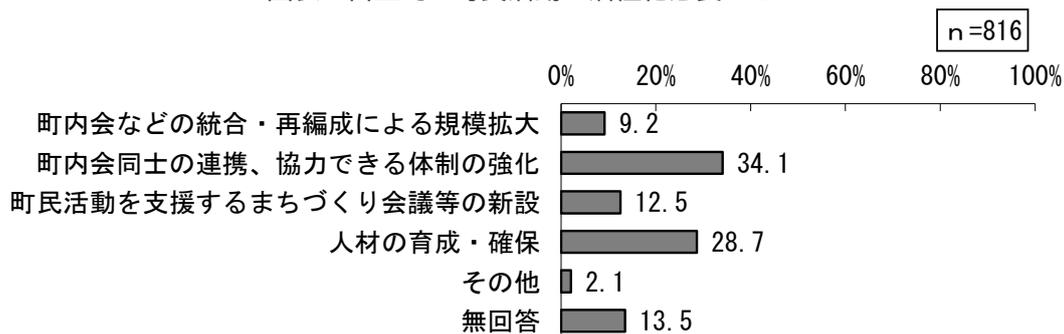
	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	町の計画策定や事業運営に、町民や地域の意見を積極的に反映させる 54.6%	多くの町民が参加できるように説明会や仕組みづくりを進める 28.4%	町民自身が町内会、ボランティアなどで主体的に行う活動を支援する 27.1%
女性 (n=429)	町の計画策定や事業運営に、町民や地域の意見を積極的に反映させる 55.5%	多くの町民が参加できるように説明会や仕組みづくりを進める 23.8%	町民自身が町内会、ボランティアなどで主体的に行う活動を支援する 22.6%
10・20歳代 (n=29)	町の計画策定や事業運営に、町民や地域の意見を積極的に反映させる 55.2%	協働のまちづくりを推進する団体の設立や育成を支援する 31.0%	地域への事業委託、自主事業の拡大など、地域の自主性に任せる事業を増やす 24.1%
30歳代 (n=45)	町の計画策定や事業運営に、町民や地域の意見を積極的に反映させる 62.2%	協働のまちづくりを推進する団体の設立や育成を支援する 28.9%	多くの町民が参加できるように説明会や仕組みづくりを進める 22.2%
40歳代 (n=107)	町の計画策定や事業運営に、町民や地域の意見を積極的に反映させる 50.5%	多くの町民が参加できるように説明会や仕組みづくりを進める 29.0%	協働のまちづくりを推進する団体の設立や育成を支援する 27.1%
50歳代 (n=132)	町の計画策定や事業運営に、町民や地域の意見を積極的に反映させる 62.1%	協働のまちづくりを推進する団体の設立や育成を支援する 24.2%	多くの町民が参加できるように説明会や仕組みづくりを進める 22.0%
60歳代 (n=199)	町の計画策定や事業運営に、町民や地域の意見を積極的に反映させる 52.3%	町民自身が町内会、ボランティアなどで主体的に行う活動を支援する 27.1%	多くの町民が参加できるように説明会や仕組みづくりを進める 23.1%
70歳以上 (n=266)	町の計画策定や事業運営に、町民や地域の意見を積極的に反映させる 54.1%	町民自身が町内会、ボランティアなどで主体的に行う活動を支援する 30.8%	多くの町民が参加できるように説明会や仕組みづくりを進める 30.1%

(2) 自主的な町民活動の活性化について

問 あなたは、自主的な町民活動を活性化するためには、何が必要だと思いますか。
【1つに○】

- 自主的な町民活動を活性化するために必要だと思うことは、「町内会同士の連携、協力できる体制の強化」で 34.1%と最も多くなっています。次いで「人材の育成・確保」で 28.7%、「町民活動を支援するまちづくり会議等の新設」で 12.5%となっています。

図表 自主的な町民活動の活性化必要なこと



(n=816)		
	回答数	構成比
1 町内会などの統合・再編成による規模拡大	75	9.2%
2 町内会同士の連携、協力できる体制の強化	278	34.1%
3 町民活動を支援するまちづくり会議等の新設	102	12.5%
4 人材の育成・確保	234	28.7%
5 その他	17	2.1%
無回答	110	13.5%

- 自主的な町民活動を活性化するために必要だと思うことをみると、「町内会同士の連携、協力できる体制の強化」は、女性、50歳代、70歳代以上で最上位に挙がっています。
- また、回答全体の上位である「人材の育成・確保」は、各性別、年齢で、「町民活動を支援するまちづくり会議等の新設」は、女性、10・20歳代、50歳代以上で上位に挙がっています。
- そのほか、30～40歳代では、「町内会などの統合・再編成による規模拡大」を上位に挙げています。

図表 自主的な町民活動の活性化必要なこと（性別・年齢別：上位3項目）

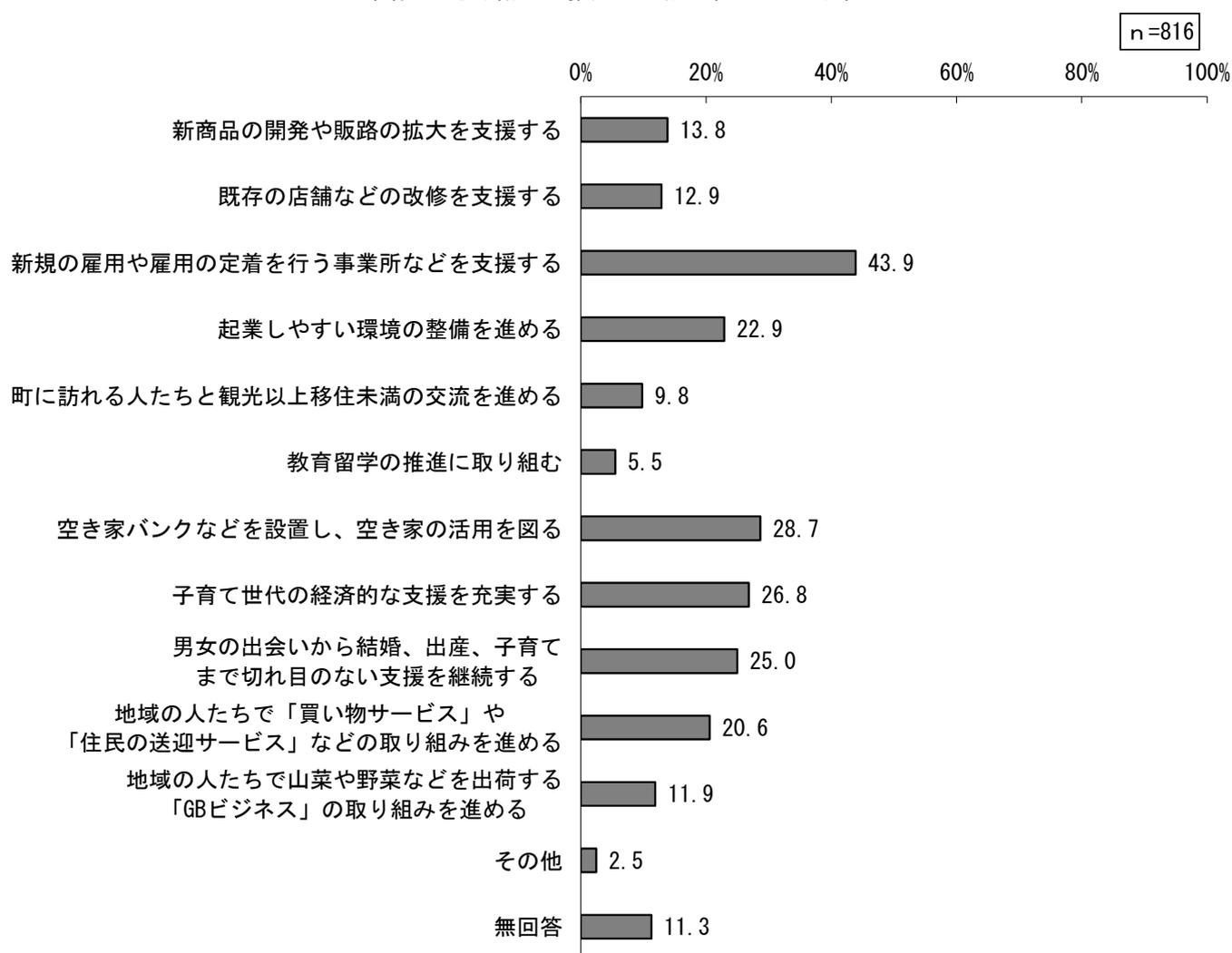
	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	人材の育成・確保 31.4%	町内会同士の連携、 協力できる体制の強化 29.4%	町民活動を支援する まちづくり会議等の新設 15.7%
女性 (n=429)	町内会同士の連携、 協力できる体制の強化 37.1%	人材の育成・確保 27.7%	町民活動を支援する まちづくり会議等の新設 10.5%
10・20歳代 (n=29)	人材の育成・確保 34.5%	町内会同士の連携、 協力できる体制の強化 27.6%	町民活動を支援する まちづくり会議等の新設 17.2%
30歳代 (n=45)	人材の育成・確保 40.0%	町内会同士の連携、 協力できる体制の強化 33.3%	町内会などの統合・再編成 による規模拡大 11.1%
40歳代 (n=107)	人材の育成・確保 33.6%	町内会同士の連携、 協力できる体制の強化 22.4%	町内会などの統合・再編成 による規模拡大 13.1%
50歳代 (n=132)	町内会同士の連携、 協力できる体制の強化 34.1%	人材の育成・確保 30.3%	町民活動を支援する まちづくり会議等の新設 17.4%
60歳代 (n=199)	人材の育成・確保 32.2%	町内会同士の連携、 協力できる体制の強化 31.2%	町民活動を支援する まちづくり会議等の新設 14.6%
70歳以上 (n=266)	町内会同士の連携、 協力できる体制の強化 41.7%	人材の育成・確保 21.8%	町民活動を支援する まちづくり会議等の新設 10.2%

11 地方創生の推進について

問 町では令和2年2月に、「人口減少の克服」と「地方創生の実現」に特化した「第2期五城目町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「しごとづくり」「移住・定住対策」「少子化対策」「地域づくり」に取り組んでいます。今後町はどのような方策に重点を置くべきだと思いますか。【3つまで○】

- 地方創生の推進において今後町が重点を置くべきだと思う方策は、「新規の雇用や雇用の定着を行う事業所などを支援する」で43.9%と最も多くなっています。次いで「空き家バンクなどを設置し、空き家の活用を図る」で28.7%、「子育て世代の経済的な支援を充実する」で26.8%となっています。

図表 地方創生の推進に重点を置くべき方策



(n=816)		
	回答数	構成比
1	新商品の開発や販路の拡大を支援する	113 13.8%
2	既存の店舗などの改修を支援する	105 12.9%
3	新規の雇用や雇用の定着を行う事業所などを支援する	358 43.9%
4	起業しやすい環境の整備を進める	187 22.9%
5	町に訪れる人たちと観光以上移住未滿の交流を進める	80 9.8%
6	教育留学の推進に取り組む	45 5.5%
7	空き家バンクなどを設置し、空き家の活用を図る	234 28.7%
8	子育て世代の経済的な支援を充実する	219 26.8%
9	男女の出会いから結婚、出産、子育てまで切れ目のない支援を継続する	204 25.0%
10	地域の人たちで「買い物サービス」や「住民の送迎サービス」などの取り組みを進める	168 20.6%
11	地域の人たちで山菜や野菜などを出荷する「GB ビジネス」の取り組みを進める	97 11.9%
12	その他	20 2.5%
	無回答	92 11.3%

- 地方創生の推進において今後町が重点を置くべきだと思う方策をみると、「新規の雇用や雇用の定着を行う事業所などを支援する」は、各性別、40 歳代以上で最上位に挙がっています。
- また、回答全体の上位である「空き家バンクなどを設置し、空き家の活用を図る」は、各性別、30 歳代以上で、「子育て世代の経済的な支援を充実する」は、女性、10～50 歳代で上位に挙がっています。
- そのほか、10・20 歳代では、「地域の人たちで「買い物サービス」や「住民の送迎サービス」などの取り組みを進める」を、男性、60 歳代以上では「男女の出会いから結婚、出産、子育てまで切れ目のない支援を継続する」上位に挙げています。

図表 地方創生の推進に重点を置くべき方策（性別・年齢別：上位3項目）

	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	新規の雇用や雇用の定着を行う事業所などを支援する 48.7%	男女の出会いから結婚、出産、子育てまで切れ目のない支援を継続する 32.7%	空き家バンクなどを設置し、空き家の活用を図る 31.0%
女性 (n=429)	新規の雇用や雇用の定着を行う事業所などを支援する 41.0%	子育て世代の経済的な支援を充実する 27.3%	空き家バンクなどを設置し、空き家の活用を図る 27.0%
10・20 歳代 (n=29)	子育て世代の経済的な支援を充実する 55.2%	新規の雇用や雇用の定着を行う事業所などを支援する 44.8%	地域の人たちで「買い物サービス」や「住民の送迎サービス」などの取り組みを進める 31.0%

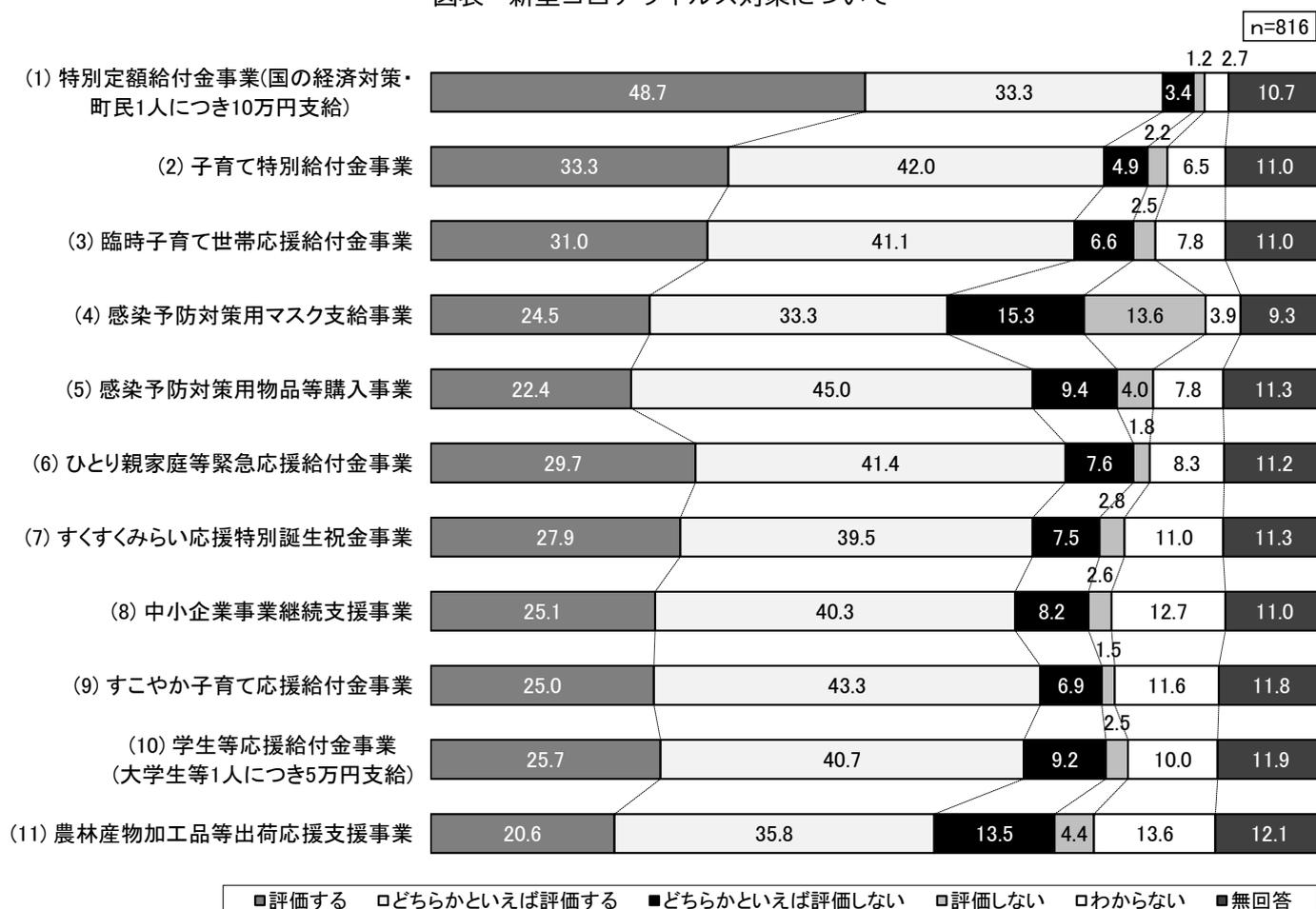
	第1位	第2位	第3位
30歳代 (n=45)	子育て世代の経済的な支援を充実する 44.4%	新規の雇用や雇用の定着を行う事業所などを支援する 42.2%	空き家バンクなどを設置し、空き家の活用を図る 35.6%
40歳代 (n=107)	新規の雇用や雇用の定着を行う事業所などを支援する 42.1%	子育て世代の経済的な支援を充実する 34.6%	空き家バンクなどを設置し、空き家の活用を図る 27.1%
50歳代 (n=132)	新規の雇用や雇用の定着を行う事業所などを支援する 50.0%	空き家バンクなどを設置し、空き家の活用を図る 35.6%	子育て世代の経済的な支援を充実する 25.8%
60歳代 (n=199)	新規の雇用や雇用の定着を行う事業所などを支援する 45.2%	男女の出会いから結婚、出産、子育てまで切れ目のない支援を継続する 29.1%	空き家バンクなどを設置し、空き家の活用を図る 26.6%
70歳以上 (n=266)	新規の雇用や雇用の定着を行う事業所などを支援する 40.2%	空き家バンクなどを設置し、空き家の活用を図る 27.4%	男女の出会いから結婚、出産、子育てまで切れ目のない支援を継続する 25.9%

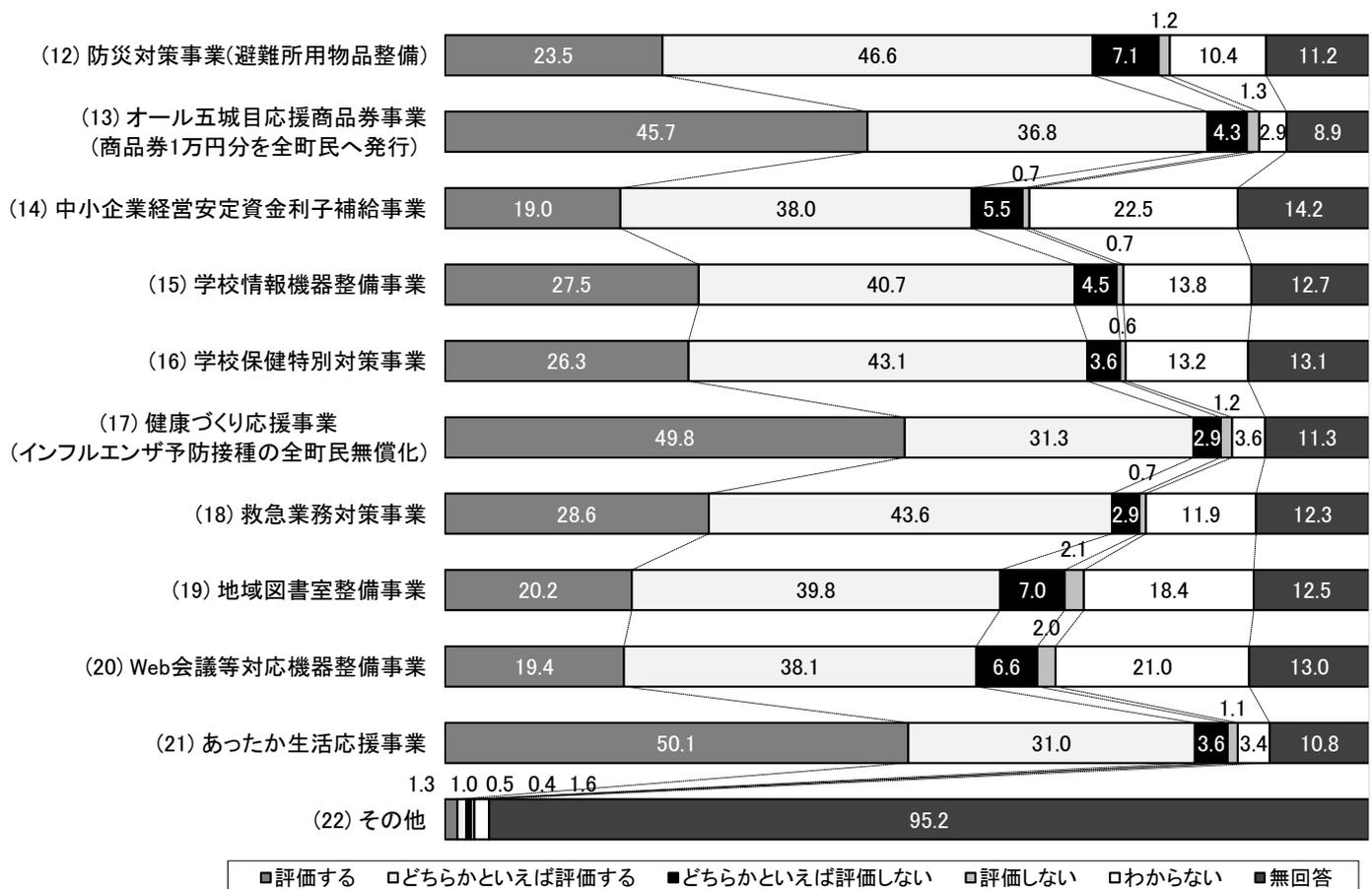
12 新型コロナウイルス対策について

問 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、首都圏では2度の緊急事態宣言が発令され、往來の制限や飲食店の営業時間の規制などが行われてきました。町では、これまで21の新型コロナウイルス感染症緊急対策事業を実施してきております。その評価を選んでください。【それぞれの項目ではまるもの1つに○】

- 「評価する」と「どちらかといえば評価する」を合わせた“評価する”の割合が高い項目は、「(13) オール五城目応援商品券事業(商品券 1万円分を全町民へ発行)」(82.5%)、「(1) 特別定額給付金事業(国の経済対策・町民 1人につき10万円支給)」(82.0%)、「(21) あったか生活応援事業」(81.1%)となっています。
- 「どちらかといえば評価しない」と「評価しない」を合わせた“評価しない”の割合が高い項目は、「(4) 感染予防対策用マスク支給事業」(28.9%)、「(11) 農林産物加工品等出荷応援支援事業」(17.9%)、「(5) 感染予防対策用物品等購入事業」(13.4%)となっています。

図表 新型コロナウイルス対策について





図表 新型コロナウイルス対策について

		回答数	構成比
(1) 特別定額給付金事業 (国の経済対策・町民1人につき 10万円支給)	1 評価する	397	48.7%
	2 どちらかといえば評価する	272	33.3%
	3 どちらかといえば評価しない	28	3.4%
	4 評価しない	10	1.2%
	5 わからない	22	2.7%
	無回答	87	10.7%
	(2) 子育て特別給付金事業 (国の経済対策・児童手当対象児 童1人につき1万円支給)	1 評価する	272
2 どちらかといえば評価する		343	42.0%
3 どちらかといえば評価しない		40	4.9%
4 評価しない		18	2.2%
5 わからない		53	6.5%
無回答		90	11.0%
(3) 臨時子育て世帯応援給付金事業 (①0歳~高校1年1人につき1 万円支給 ②高校2・3年1人につき2万円 支給)	1 評価する	253	31.0%
	2 どちらかといえば評価する	335	41.1%
	3 どちらかといえば評価しない	54	6.6%
	4 評価しない	20	2.5%
	5 わからない	64	7.8%
	無回答	90	11.0%

		回答数	構成比
(4)	感染予防対策用マスク支給事業 (①布製マスクを全町民へ配布 ②幼児用布製マスクを配布)	1 評価する	200 24.5%
		2 どちらかといえば評価する	272 33.3%
		3 どちらかといえば評価しない	125 15.3%
		4 評価しない	111 13.6%
		5 わからない	32 3.9%
		無回答	76 9.3%
		(5)	感染予防対策用物品等購入事業 (①不織布マスク配布、備蓄 ②消毒液等配布、備蓄ほか)
2 どちらかといえば評価する	367 45.0%		
3 どちらかといえば評価しない	77 9.4%		
4 評価しない	33 4.0%		
5 わからない	64 7.8%		
無回答	92 11.3%		
(6)	ひとり親家庭等緊急応援給付金事業 (児童扶養手当受給者1人につき 5万円支給)		
		2 どちらかといえば評価する	338 41.4%
		3 どちらかといえば評価しない	62 7.6%
		4 評価しない	15 1.8%
		5 わからない	68 8.3%
		無回答	91 11.2%
		(7)	すくすくみらい応援特別誕生祝金 事業 (令和2年4月28日から令和3 年3月31日までに生まれた子ども 1人につき10万円支給)
2 どちらかといえば評価する	322 39.5%		
3 どちらかといえば評価しない	61 7.5%		
4 評価しない	23 2.8%		
5 わからない	90 11.0%		
無回答	92 11.3%		
(8)	中小企業事業継続支援事業 (①法人に20万円支給、②個人事業 主に10万円支給)		
		2 どちらかといえば評価する	329 40.3%
		3 どちらかといえば評価しない	67 8.2%
		4 評価しない	21 2.6%
		5 わからない	104 12.7%
		無回答	90 11.0%
		(9)	すこやか子育て応援給付金事業 (保育園等4・5月分施設利用料 助成)
2 どちらかといえば評価する	353 43.3%		
3 どちらかといえば評価しない	56 6.9%		
4 評価しない	12 1.5%		
5 わからない	95 11.6%		
無回答	96 11.8%		
(10)	学生等応援給付金事業 (大学生等1人につき5万円支給)		
		2 どちらかといえば評価する	332 40.7%
		3 どちらかといえば評価しない	75 9.2%
		4 評価しない	20 2.5%
		5 わからない	82 10.0%
		無回答	97 11.9%

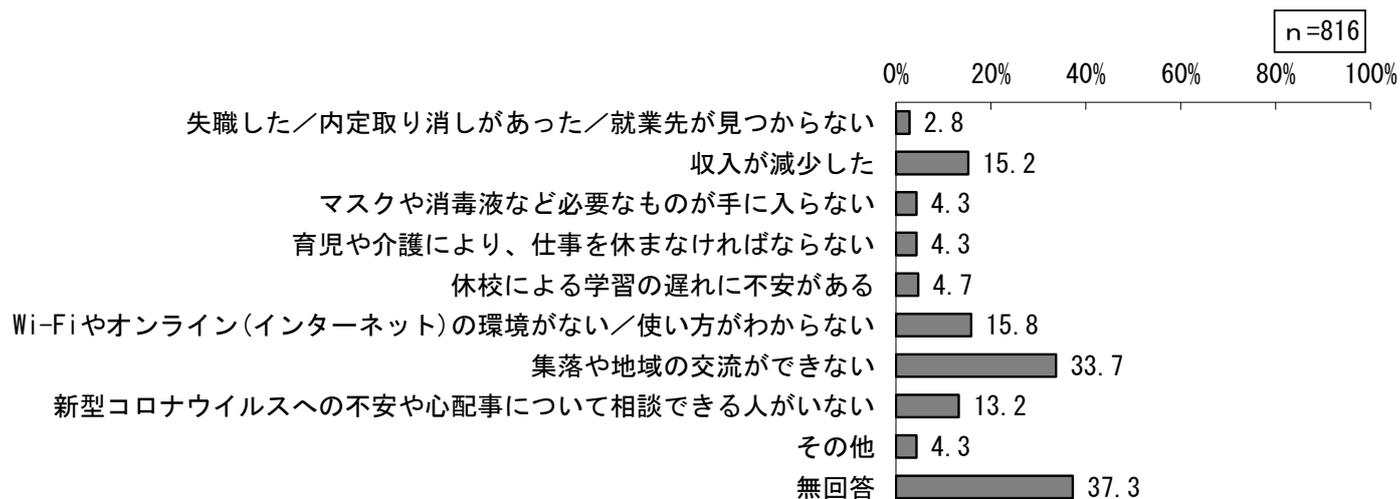
		回答数	構成比
(11)	農林産物加工品等出荷応援支援事業 (五城目朝市出店者等に2万円支給)	1 評価する	168 20.6%
		2 どちらかといえば評価する	292 35.8%
		3 どちらかといえば評価しない	110 13.5%
		4 評価しない	36 4.4%
		5 わからない	111 13.6%
		無回答	99 12.1%
		(12)	防災対策事業 (避難所用物品整備)
2 どちらかといえば評価する	380 46.6%		
3 どちらかといえば評価しない	58 7.1%		
4 評価しない	10 1.2%		
5 わからない	85 10.4%		
無回答	91 11.2%		
(13)	オール五城目応援商品券事業 (商品券1万円分を全町民へ発行)		
		2 どちらかといえば評価する	300 36.8%
		3 どちらかといえば評価しない	35 4.3%
		4 評価しない	11 1.3%
		5 わからない	24 2.9%
		無回答	73 8.9%
		(14)	中小企業経営安定資金利子補給事業 (県経営安定資金借入金の利子補給)
2 どちらかといえば評価する	310 38.0%		
3 どちらかといえば評価しない	45 5.5%		
4 評価しない	6 0.7%		
5 わからない	184 22.5%		
無回答	116 14.2%		
(15)	他の地域との交流・国際交流 (交流機会、交流拠点整備など)		
		2 どちらかといえば評価する	332 40.7%
		3 どちらかといえば評価しない	37 4.5%
		4 評価しない	6 0.7%
		5 わからない	113 13.8%
		無回答	104 12.7%
		(16)	他の地域との交流・国際交流 (交流機会、交流拠点整備など)
2 どちらかといえば評価する	352 43.1%		
3 どちらかといえば評価しない	29 3.6%		
4 評価しない	5 0.6%		
5 わからない	108 13.2%		
無回答	107 13.1%		
(17)	他の地域との交流・国際交流 (交流機会、交流拠点整備など)		
		2 どちらかといえば評価する	255 31.3%
		3 どちらかといえば評価しない	24 2.9%
		4 評価しない	10 1.2%
		5 わからない	29 3.6%
		無回答	92 11.3%

		回答数	構成比
(18)	他の地域との交流・国際交流 (交流機会、交流拠点整備など)	1 評価する	233 28.6%
		2 どちらかといえば評価する	356 43.6%
		3 どちらかといえば評価しない	24 2.9%
		4 評価しない	6 0.7%
		5 わからない	97 11.9%
		無回答	100 12.3%
		(19)	他の地域との交流・国際交流 (交流機会、交流拠点整備など)
2 どちらかといえば評価する	325 39.8%		
3 どちらかといえば評価しない	57 7.0%		
4 評価しない	17 2.1%		
5 わからない	150 18.4%		
無回答	102 12.5%		
(20)	他の地域との交流・国際交流 (交流機会、交流拠点整備など)		
		2 どちらかといえば評価する	311 38.1%
		3 どちらかといえば評価しない	54 6.6%
		4 評価しない	16 2.0%
		5 わからない	171 21.0%
		無回答	106 13.0%
		(21)	他の地域との交流・国際交流 (交流機会、交流拠点整備など)
2 どちらかといえば評価する	253 31.0%		
3 どちらかといえば評価しない	29 3.6%		
4 評価しない	9 1.1%		
5 わからない	28 3.4%		
無回答	88 10.8%		
(22)	他の地域との交流・国際交流 (交流機会、交流拠点整備など)		
		2 どちらかといえば評価する	8 1.0%
		3 どちらかといえば評価しない	4 0.5%
		4 評価しない	3 0.4%
		5 わからない	13 1.6%
		無回答	777 95.2%

問 新型コロナウイルス感染症に関連して困っていることをすべて選んで○をつけてください。【 あてはまるものすべての番号に○をつけてください 】

- 新型コロナウイルス感染症に関連して困っていることは、「集落や地域の交流ができない」で 33.7%と最も多くなっています。次いで「Wi-Fi やオンライン(インターネット)の環境がない／使い方がわからない」で 15.8%、「収入が減少した」で 15.2%となっています。

図表 新型コロナウイルス感染症に関連して困っていること



	回答数	構成比
1 失職した／内定取り消しがあった／就業先が見つからない	23	2.8%
2 収入が減少した	124	15.2%
3 マスクや消毒液など必要なものが手に入らない	35	4.3%
4 育児や介護により、仕事を休まなければならない	35	4.3%
5 休校による学習の遅れに不安がある	38	4.7%
6 Wi-Fi やオンライン(インターネット)の環境がない／使い方がわからない	129	15.8%
7 集落や地域の交流ができない	275	33.7%
8 新型コロナウイルスへの不安や心配事について相談できる人がいない	108	13.2%
9 その他	35	4.3%
無回答	304	37.3%

- 「新型コロナウイルス感染症に関連して困っていること」についてみると、「集落や地域の交流ができない」は、各性別、10・20 歳代、40 歳代以上で最上位に挙がっています。
- また、回答全体の上位である「Wi-Fi やオンライン(インターネット)の環境がない／使い方がわからない」は、各性別、60 歳代以上で、「収入が減少した」は、各性別、30～60 歳代で上位に挙がっています。
- そのほか、10・20 歳代では、「マスクや消毒液など必要なものが手に入らない」を、10～30 歳代では、「育児や介護により、仕事を休まなければならない」を、40～50 歳代では、「新型コロナウイルスへの不安や心配事について相談できる人がいない」を上位に挙げています。

図表 新型コロナウイルス感染症に関連して困っていること
(性別・年齢別：上位3項目)

	第1位	第2位	第3位
男性 (n=306)	集落や地域の交流ができない 37.6%	収入が減少した 16.0%	Wi-Fi やオンライン(インターネット)の環境がない／使い方がわからない 12.4%
女性 (n=429)	集落や地域の交流ができない 31.7%	Wi-Fi やオンライン(インターネット)の環境がない／使い方がわからない 16.8%	収入が減少した 14.5%
10・20 歳代 (n=29)	集落や地域の交流ができない 24.1%	マスクや消毒液など必要なものが手に入らない 10.3%	育児や介護により、仕事を休まなければならない 6.9%
30 歳代 (n=45)	育児や介護により、仕事を休まなければならない 20.0%	収入が減少した 17.8%	集落や地域の交流ができない 15.6%
40 歳代 (n=107)	収入が減少した 15.9%	集落や地域の交流ができない 15.9%	新型コロナウイルスへの不安や心配事について相談できる人がいない 12.1%
50 歳代 (n=132)	集落や地域の交流ができない 31.8%	収入が減少した 14.4%	新型コロナウイルスへの不安や心配事について相談できる人がいない 12.9%
60 歳代 (n=199)	集落や地域の交流ができない 39.7%	収入が減少した 20.1%	Wi-Fi やオンライン(インターネット)の環境がない／使い方がわからない 17.6%
70 歳以上 (n=266)	集落や地域の交流ができない 42.5%	Wi-Fi やオンライン(インターネット)の環境がない／使い方がわからない 21.4%	新型コロナウイルスへの不安や心配事について相談できる人がいない 15.0%